医学部・医学科　学生アンケート調査結果

医学部・医科大学附属病院 臨床研修医アンケート調査結果

アンケート調査にあたって

「わが国の大学医学部・医科大学白書」は、大学医学部・医科大学の現状を分析し問題点を明らかにすることを目的に、隔年で刊行されています。初刊の1993年度版以来、大学を対象として、教育・研究・医療に係る環境や制度を調査してきましたが、学習者の観点からも医学教育を見つめ直すことが必要と考え、前回の2020年度の調査では初めて「医学部・医科大学 学生アンケート」を実施しました。

２回目となる今回2022年度の「学生アンケート」では、前回の設問を基本的に踏襲しながら２問を削除、９問を追加し、総設問数は47となりました。結果からは、社会の要請や医学の進歩により急激に変貌を遂げる医学教育が学生の考え方に与える影響とともに、COVID-19の影響下での学習や学生生活の変化を窺い知ることができます。

さらに今回は、医学部・医科大学附属病院の臨床研修医を対象とした「研修医アンケート」を追加しました。Post-CC OSCE、卒業に関わる試験、および医師国家試験を実際に経験したうえで、それらを含む卒前の学修成果を臨床研修の現場で活用している研修医の立場から、医学教育を評価していただくことを意図しました。

各設問の結果の概略と簡単なコメントが、各アンケートの冒頭に付記されています。全体として、大学側への調査だけでは明らかにできなかった日本の医学教育の強みと課題が浮かび上がり、大変貴重な結果だと考えられます。ご協力いただいた学生・研修医各位に厚く御礼を申し上げます。

医学部・医科大学の白書調査委員会

2022年度 医学部・医学科 学生アンケート結果

【設問１～４】回答者情報

回答率は前回11.4%から9.5%に減少した。各学年から回答が得られ、国公私立、学年比、男女比、地域枠の割合などは前回調査とほぼ同等であった。また、女子の回答率が高いことも前回と同様である。

【設問5】自学のディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーを理解していますか

「良く理解している」「ある程度理解している」の合計は約56%であった。低学年ほど理解度が高いのは、ディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーが経年的に普及した過程を反映していると考えられる。私立が国公立に比べて高率であった。

【設問6】大学が期待するマイルストーンに到達していると思いますか

「マイルストーンを知らない」という回答者は、設問5の「理解していない」の回答者より約10%少なかった。この差は、コンピテンシーを、医師の資質・能力、学習成果、アウトカム、到達目標などと表現している大学があることと関係しているかもしれない。「マイルストーンを知らない」は女子が男子に比してわずかに多かった。マイルストーンに「到達している」が11.3%、「一部到達している」を合わせると約57%であった。

【設問7】教員による学生評価のシステムについて

「良く理解している」が前回の7.8%から11.8%に増加した。学年が進むにつれて「理解している割合」が減るのは前回と同様であった。6年生は「全く理解していない」の割合が多かった。「良く理解している」の割合は私立が国公立に比べて高率であった。

【設問8】入試における選抜方法として、面接の有効性についてどう考えますか

「大変有効」「ある程度有効」の合計は前回の67.6%から70.3%に微増した。

【設問9】卒業後の義務を伴う地域枠入試についてどう考えますか

「地域医療を守るために必要」あるいは「やむを得ない」の肯定的回答が約81%で、前回と不変であり、注目に値する。地域枠入学者が一般枠に比して割合が高く、「別枠を設けるのは不公平だ」の回答は地域枠で特に低率であった。地域枠入学者は従事条件を理解していると言える。

【設問10】教養教育の授業時間数についてどう思いますか

「適切」「概ね適切」の合計は55.1%、「もっと増やして欲しい」は9.7%と、いずれも前回より微増した。「適切」「概ね適切」の割合は、低学年、女子、地域枠で高かった。

【設問11】教養教育の科目の配分についてどう思いますか

「現状のままでよい」の回答は前回より約8%減少し、その分、「自然科学系」「人文科学系」「語学系の科目を増やして欲しい」とする回答がいずれも増加した。特に「文理融合型の科目を増やして欲しい」の回答が増加した。ただし、前回は一択だったのを複数回答可に変更した影響を否定できない。「現状のままでよい」とする回答は低学年、女子、地域枠、私立で多く、「自然科学系の科目を増やして欲しい」とする回答は、男子と公立に多かった。

【設問12】英語教育の授業時間数についてどう思いますか

「適切」「概ね適切」が前回よりやや増え、「もっと増やして欲しい」がやや減っている。この傾向は6年生で強い。

【設問13】基礎医学教育の授業時間についてどう思いますか

「適切」「概ね適切」の合計は67%と前回とほぼ横ばいだが、「増やして欲しい」が増加し、「概ね適切」が減少している。「増やして欲しい」は1、2年生で特に多く、この傾向は前回にはなかった。

【設問14】講座（研究室）で実験・研究を行っていますか

学生の大半は継続的に実験・研究を行っていない。「行っている」学生の割合は前回の21.4%から24.6%に、「週3回以上」も4.7%から6.5%に増加した。全ての学年で増加したが、特に2～4年生で増加した。

【設問15】学会発表や論文発表をしたことがありますか

学生の大半は学会発表も論文発表もしたことがないとの回答であった。「発表したことがある」学生の合計の割合は前回の10.5%から12.6%に微増、各学年で同様の傾向であった。

【設問16】アクティブ・ラーニング（PBLやTBLなど）の学修効果についてどう考えますか

「大変有効である」「ある程度有効である」の合計は62.6%で、前回から微増した。女子でこの傾向が強かった。

【設問17】CBT合格のために最も役に立つものは何ですか

「自己学習」が全体で72%、受験経験がある5、6年生では90%以上と高率であった。

【設問18】授業の資料配付の方法についてどう思いますか

「電子媒体での配布を希望」が59%で前回の41%からかなり増加し、「電子媒体と紙媒体の両方」37%、「紙媒体」3.6%は減少した。学年、男女を問わず同傾向であった。

【設問19】大学内に自己学習のために自習室は充分に確保されていますか

「十分に確保されている」が23.5%、「概ね確保されている」が33.1%で、前回のそれぞれ15.1%。31.1%から増加した。いずれの割合も1年生で最も高く、学年が進むにつれて漸減するが、6年生では再び高くなり、医師国家試験準備のために自習室が使用できる状況が想定される。公立では国立、私立に比べて「確保されている」割合が低かった。

医学部における自習室確保の必要性、ラーニングコモンズとの関連などを、掘り下げる必要がある。

【設問20】あなたは既に臨床実習を行っていますか

「まだ行っていない」が3年生まで100%である。「現在臨床実習中」が4年生で31.3%、5年生で98.4%、6年生で0.8%であった。6年生では95.3%が「臨床実習は修了」であった。国公私立の違いはほとんどなかった。

【設問21】あなたの所属大学では臨床実習の期間はおおむね何ヵ月ですか

4～6年生全体では「18ヵ月」が最多で約32%、「18ヵ月未満」は約26%、「18ヵ月超」は約42%であった。前回調査では「18ヵ月」が約26%、「18ヵ月未満」は約31%、「18ヵ月超」は約42%であった。今回の4年生だけをみると「24ヵ月」の回答がかなり多いが、臨床実習を行っていない学生は設問21～26に回答していないため、臨床実習期間の年次増加を反映したものとはいえない。地域枠では「18か月」の割合が特に多い。私立では「18ヵ月未満」と「24ヵ月」の割合が国公立よりも高かった。

【設問22】臨床実習の期間についてどう考えますか

「適切である」「概ね適切である」を合わせると約66%、「長すぎる」が約26%で、前回とほぼ同等であった。男子で「長すぎる」の割合がやや高かった。公立では、前回「長すぎる」の割合が高かったが、今回は国私立とあまり変わらなくなった。

【設問23】臨床実習は有意義と考えますか

「大変有意義」「ある程度有意義」を合わせて約59%、前回の約55%からやや増えた。「診療科により差がある」は約39%、前回の約42%からやや減った。4年生、女子、地域枠で「有意義」の割合がやや高かった。

【設問24】臨床実習の指導についてどう評価しますか

「大変満足」「ある程度満足」を合わせて約50%、前回の45.5%から微増した。「診療科により満足できない指導が行われている」が47.5%で、前回同様最も多かった。前回は男子より女子の方が肯定的な回答が多かったが、今回は差がなくなっている。公立は国私立に比べて、前回は肯定的回答が少なかったが、今回は最も多くなっている。

【設問25】診療参加型の臨床実習は実施されていると考えますか

「概ね実施されている」が前回より増加、「ほとんど実施されていない」が減少した。「十分に実施されている」「一部の診療科でしか実施されていない」は前回とあまり変化はなかった。公立は国私立に比べて、前回は肯定的回答が少なかったが、今回は差がなくなっている。

【設問26】国家試験合格のために最も役に立つものは何ですか

「予備校等の画像教材」が約51%、「自習」が約30%、「グループ学習」5%、「臨床実習」4%で、傾向は前回とあまり変わらなかった。設問17でCBT合格に役立つものとして「自習」が70%以上であるのとの違いを分析する必要がある。女子と地域枠で「臨床実習」の割合、私立で「講義」の割合がやや高い。予備校等の教材が過半を占めるという状況に懸念が残る。

【設問27】将来、博士（医学）の学位取得を目指していますか

「ぜひ取得したい」「できれば取得したい」の合計は約45%で、前回と傾向は変わらなかった。本項目は研究マインドの涵養と関連しており、学年が進んでも増加しないことは課題である。

【設問28】将来のキャリアについて現時点でどのように考えていますか

「臨床医学」が回答数の約7割、「基礎医学」が1割で、「社会医学」「行政」がそれに次ぐ結果であった。学年、国公私立による明らかな違いはなかった。男子は「基礎医学」の回答がやや多い。地域枠でも一定の割合で「基礎医学」「社会医学」「行政」を考えている。

【設問29】在学中あるいは医師になってから海外留学をしたいと考えていますか

「ぜひ留学したい」「できれば留学したい」を合わせると約55%で、前回から微減した。男子より女子に「留学したい」の回答が多い。国公私立には大きな違いはなかった。

【設問30】現在の留学支援制度に満足していますか

「制度をよく知らない」が5割以上を占め、残りは「満足している」「満足していない」が半分ずつで、前回から大きな変化はない。私立でやや満足度が高かった。

【設問31】卒後2年間の卒後臨床研修は将来のキャリア形成に重要と思いますか

「大変重要である」「ある程度重要である」の合計は約87%で前回と同等であった。女子の肯定的回答がやや多かった。

【設問32】卒後臨床研修の期間（2年間）についてどう考えますか

「適切である」が約64%、「もっと短い方がよい」7.2%、「もっと長い方がよい」3.8%、「臨床研修は必要ない」2.4%で、前回とほぼ同等であった。「わからない」の割合は4年生を境に減少し臨床研修への理解が進んでいる。

【設問33】旧設問32　新専門医制度についてあてはまるのはどれですか

「良く理解している」「ある程度理解している」の合計は、全学年で36.5%、5年生で約50%、6年生で約64%と、いずれも前回より増加していた。しかし、さらなるキャリア教育が必要と考えられる。

【設問34】総合診療についてどう思いますか

「とても関心がある」「少し関心がある」の合計が約71%で、前回とほぼ同等であった。しかし、「関心がある」との回答が、1年生では約76%であるのに対し6年生では約65%と、学年が進むと関心が漸減することは問題と思われ、研修医の状況も確認すべきであろう。地域枠では約79%と関心が高かった。

【設問35】「医師の働き方改革」の議論についてあなたの考えはどれですか

「他の職業と同程度の勤務時間に抑えるべき」が約39%、「ある程度の長時間労働をするのは仕方ない」が約32%、「医師個人の裁量に任せるべき」が約22%と意見が分かれ、前回と同傾向であった。

【設問36】何らかの課外活動団体に属していますか

「何らかの課外活動団体に属している」が約82%で前回の約78%から微増し、特に1年生の増加が著しかった。体育会系の団体が文化系の約2倍であった。

【設問37】アルバイトをしていますか

「アルバイトをしている」の回答は約57.6%で、前回の47.5%よりも増加した。特に「週3回以上」の割合が増加している。3年生が最も多く、6年生になるとかなり低下する傾向にあった。女子と地域枠がやや多く、私立が少ない傾向は前回と同様であった。

【設問38】学生生活やメンタルヘルスに対する大学の支援体制に満足していますか

「わからない」が大幅に増えているが、残りに占める割合は「満足している」が約66%で前回とほぼ同等であった。女子と地域枠で「満足している」割合がやや高かった。

【設問39】自大学、またはそれに準じた場（サークルやゼミのコンパ、学会など）における、ハラスメント（セクハラ、パワハラ、モラハラ、アカハラ等）の経験などがありますか

「ハラスメントを受けたことがある」回答は13.4%、「相談された」「目撃した、あるいは話を聞いたことがある」を加えると48.4%であった。経験がある回答は5、6年の高学年が多く60%を超えていた。男女比等はあまりなかった。

【設問40】ハラスメントを受けたことを誰かに相談しましたか（受けたことが無い場合は、受けた場合を想定して）

「同級生」、「家族」、「大学外の友人・知人」、「上級生や先輩」の順に多い回答であった。「大学の相談室や保健センター」、「大学職員」の回答は、「相談しない」の回答（約1割）よりも少なかった。低学年と女子では「家族」の割合が高い。ハラスメントのサポート体制についても調査が必要と考えられる。

【設問41】COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に対して大学が行った授業形態の変更についてどう思いますか

「満足している」の回答は約70%で、前回の約61%よりも増加した。1年生、5,6年生で満足度が向上した。

【設問42】ポストコロナにおける講義の実施形態として、どれが望ましいですか

複数回答であるが、「対面講義」が35%、「リアルタイム型遠隔講義」26%、「オンデマンド型遠隔講義」38%で、遠隔講義の希望がかなり多かった。

【設問43】遠隔講義の長所は何ですか

「登校時間が不要」が約53%、「自分のペースで学習できる」が約31%であった。

【設問44】遠隔講義の短所は何ですか

「友人・教員と交流できない」36%、「集中できない（サボってしまう）」29%、「画像・音声が悪い」が13%であった。

【設問45】COVID-19に対して大学が行った臨床実習の形態の変更についてどう思いますか

「大変満足」「ある程度満足」を合わせると、全学年で約45%、4年生45%、5年生64%、6年生68%で、4～6年生を対象に行った前回調査より満足度が向上した。

【設問46】今後導入すべきICT等は何ですか

「電子書籍」「動画教材」がいずれも回答の約4分の1、「Zoom等の活用」「ICT内蔵シミュレーター」「AR・VR教材」がそれに次いだ。学年、男女、国公私立などでほぼ同じ回答であった。「その他」の記述回答には、Wi-Fi環境、学生用電子カルテ、MOOCsなど興味深い回答がある。

【設問47】COVID-19に対してあなたの生活様式は変化しましたか

「大きく変化した」「少し変化した」がいずれも約40%であった。4、5年生でやや「変化した」割合が大きいが、男女、国公私立で大きな差はなかった。

回答者情報

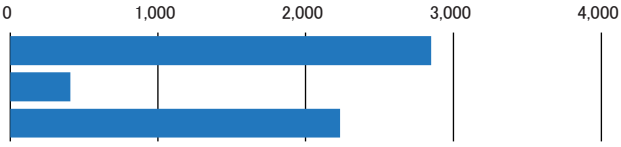
アンケート調査期間　2022年10月21日 ～ 2023年1月6日

	学生数	回答数		回答率
全回答者数	57,846	5,493	人	9.5%
有効回答数		5,489	人	
	（有効回答率）	99.9%		

※学生数は「白書2022基本調査」より引用

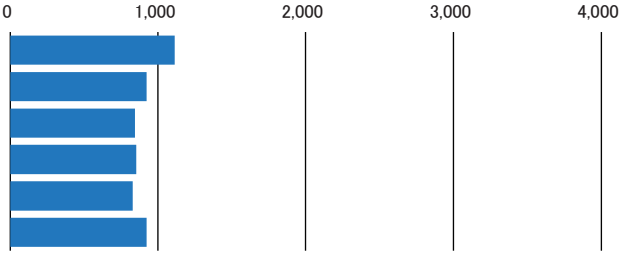
設立形態別

国立 （43校）	30,106	2,849	人	9.5%
公立 （8校）	5,185	408	人	7.9%
私立 （31校）	22,555	2,232	人	9.9%
	計	5,489		



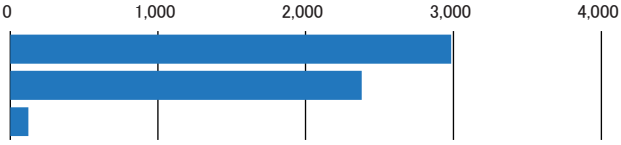
学年別

1年	9,480	1,113	人	11.7%
2年	9,762	924	人	9.5%
3年	9,514	845	人	8.9%
4年	9,746	854	人	8.8%
5年	9,592	830	人	8.7%
6年	9,752	923	人	9.5%
	計	5,489		



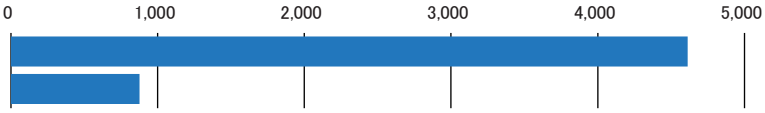
性別

男子	36,858	2,985	人	8.1%
女子	20,988	2,380	人	11.3%
非回答		124	人	
	計	5,489		



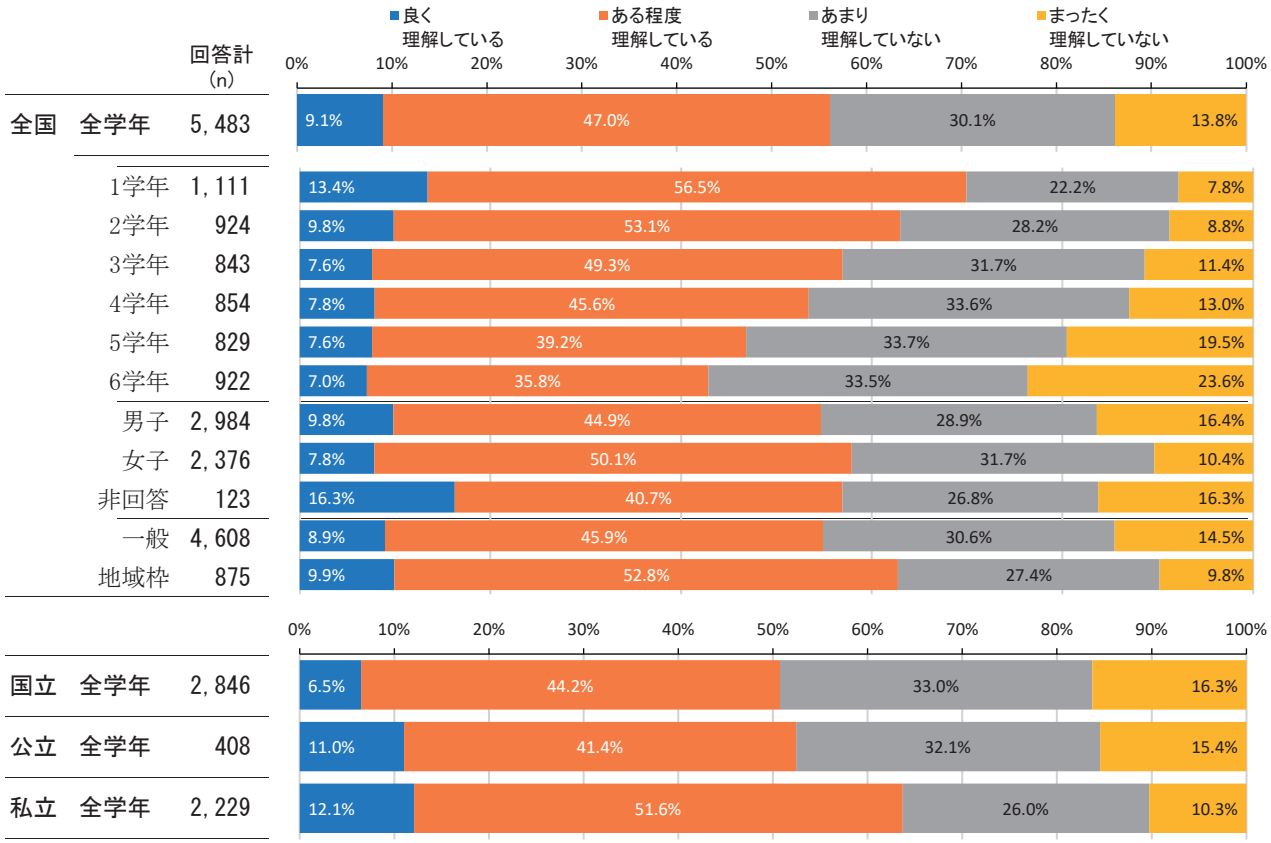
入学者選抜形態別

一般入試		4,613	人
地域枠入試		876	人
	計	5,489	



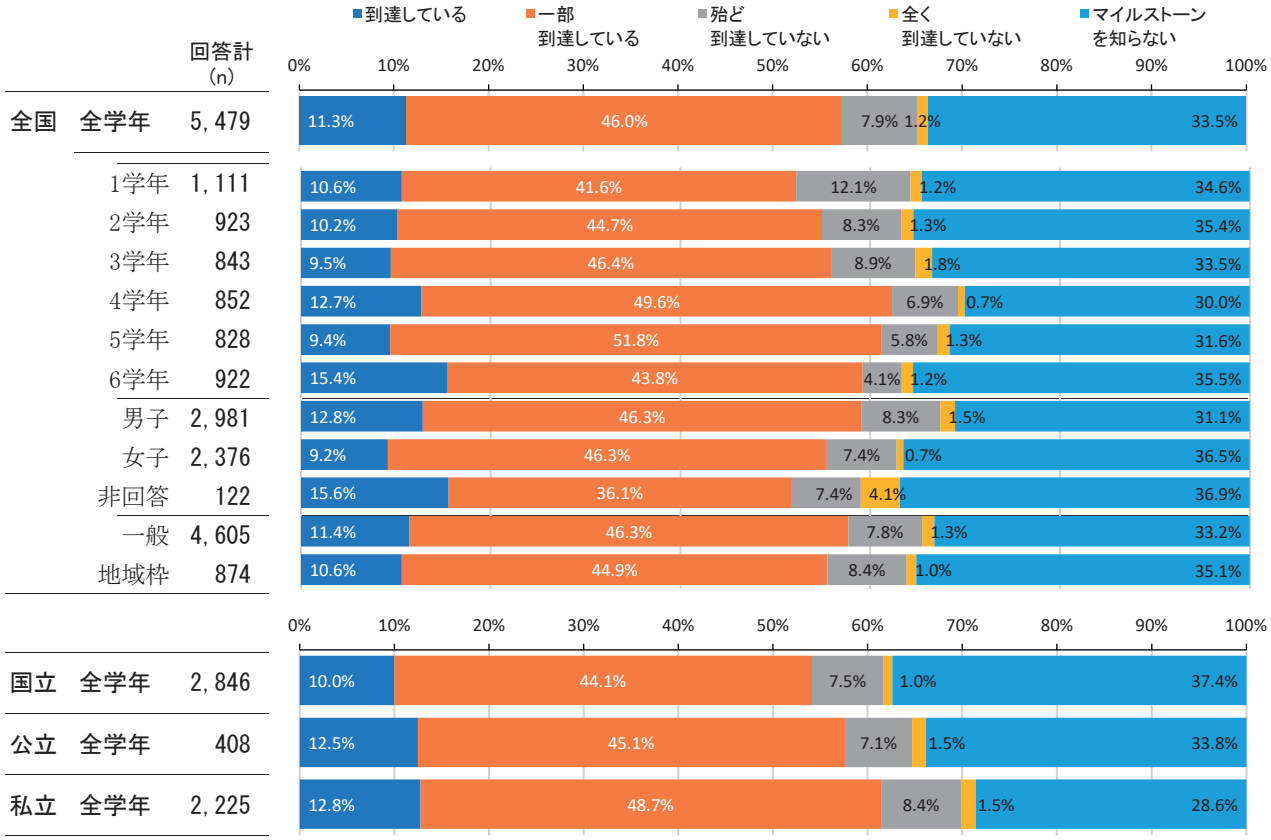
【医学教育について】

設問5. 自学のディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーを理解していますか。



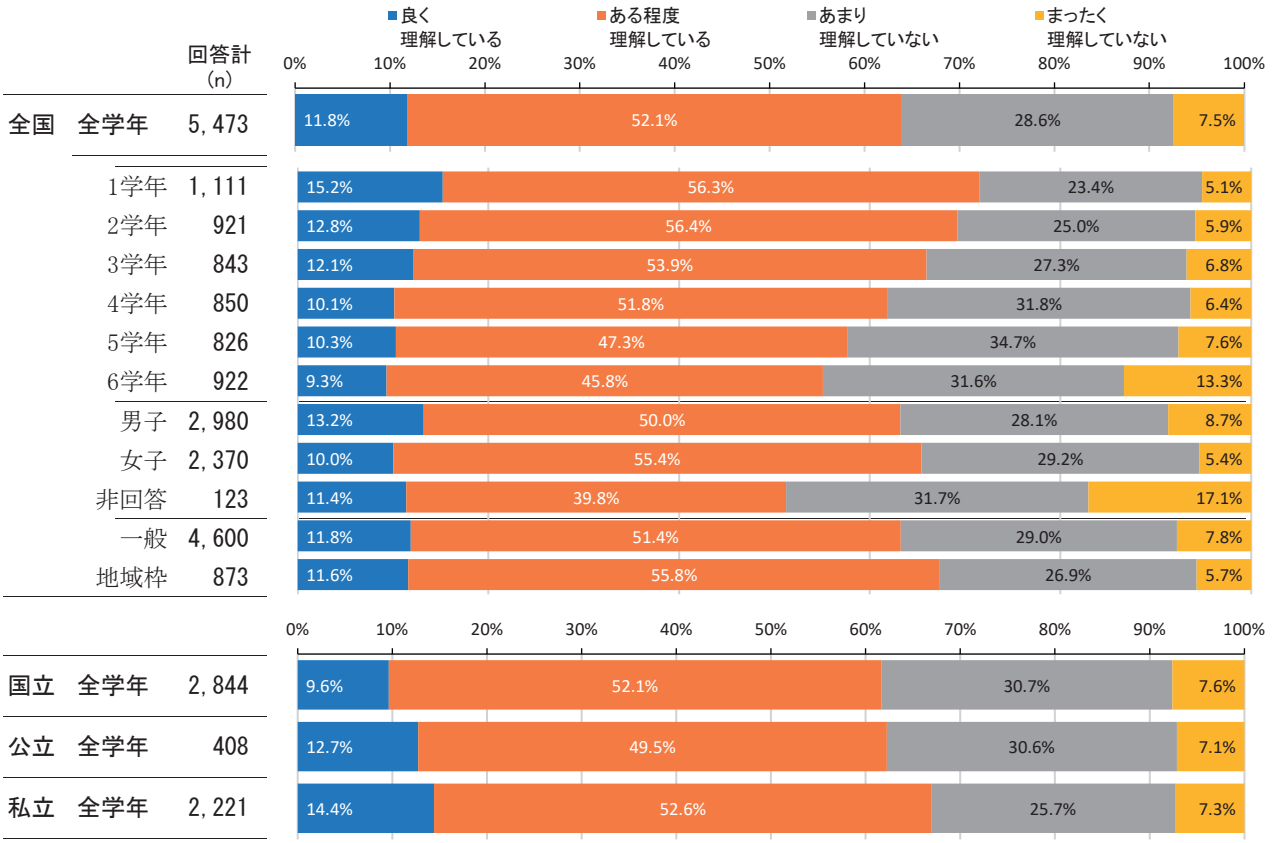
【医学教育について】

設問6. 大学が期待するマイルストーンに到達していると思いますか。



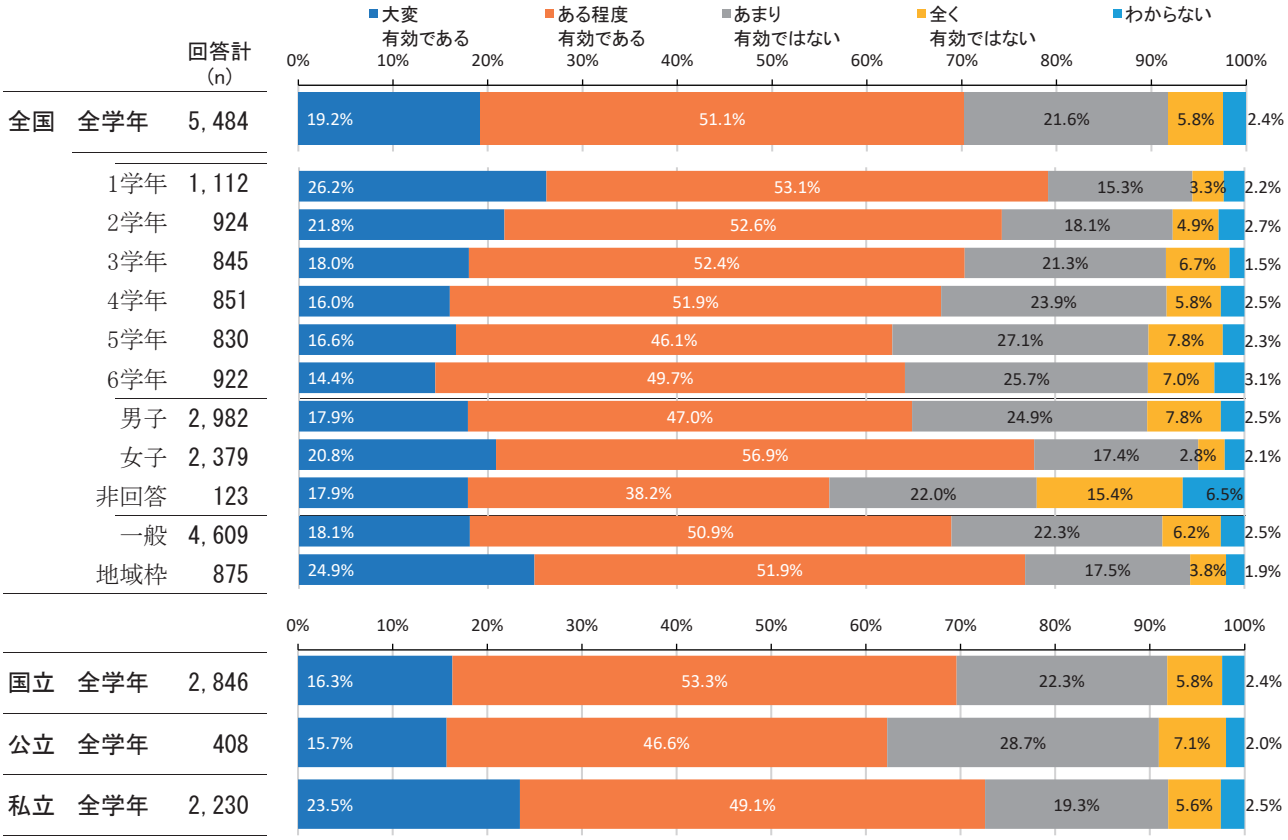
【医学教育について】

設問7. 教員による学生評価のシステムについて



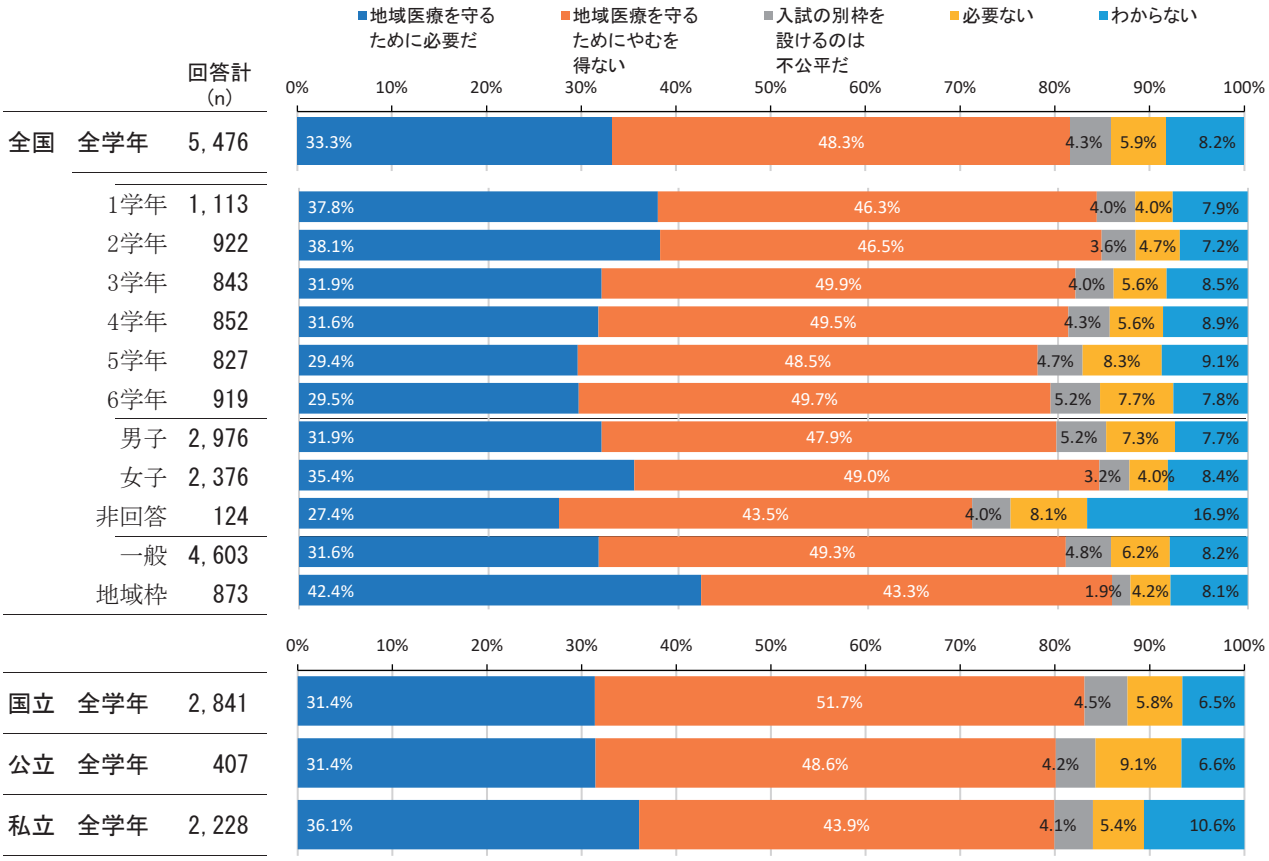
【医学教育について】

設問8. 入試における選抜方法として、面接の有効性についてどう考えますか。



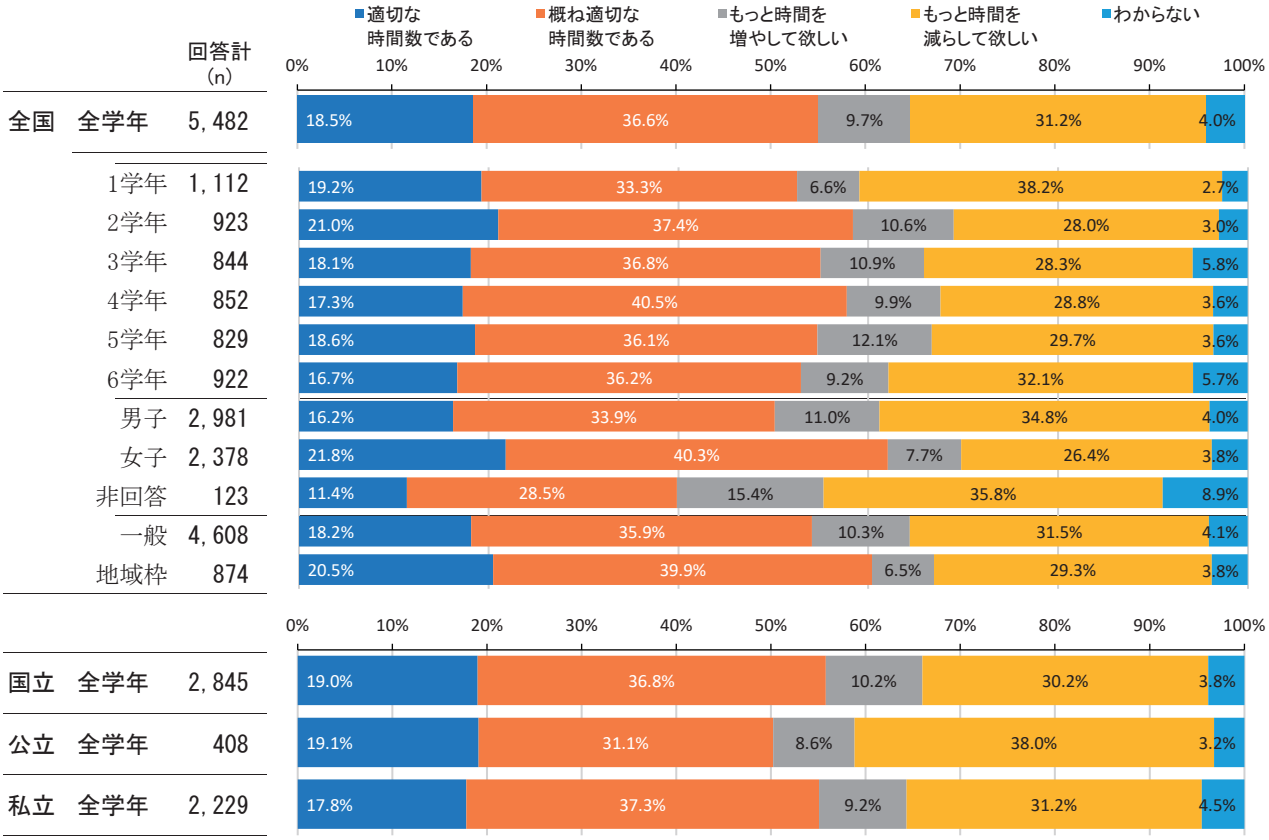
【医学教育について】

設問9. 卒業後の義務を伴う地域枠入試についてどう考えますか。



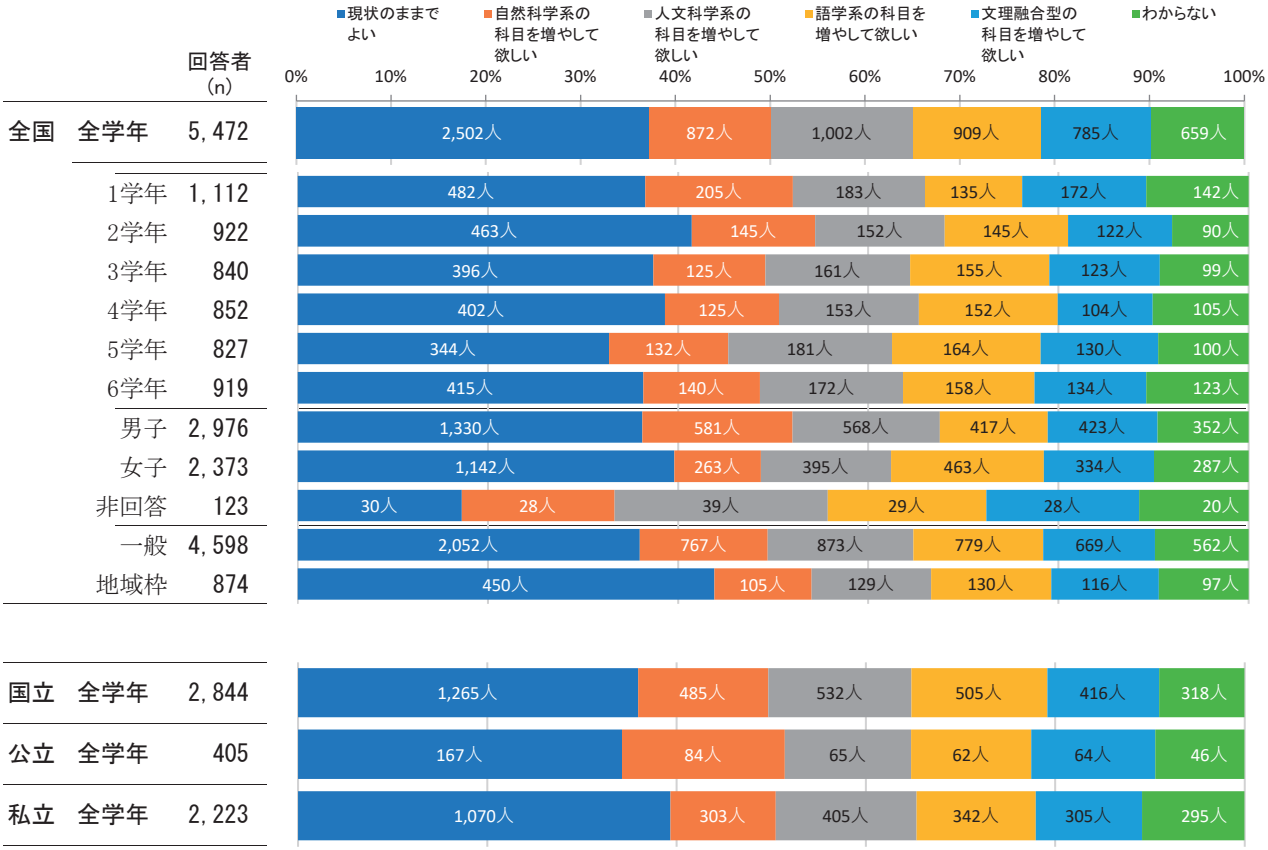
【授業等】

設問10. 教養教育の授業時間数についてどう思いますか。



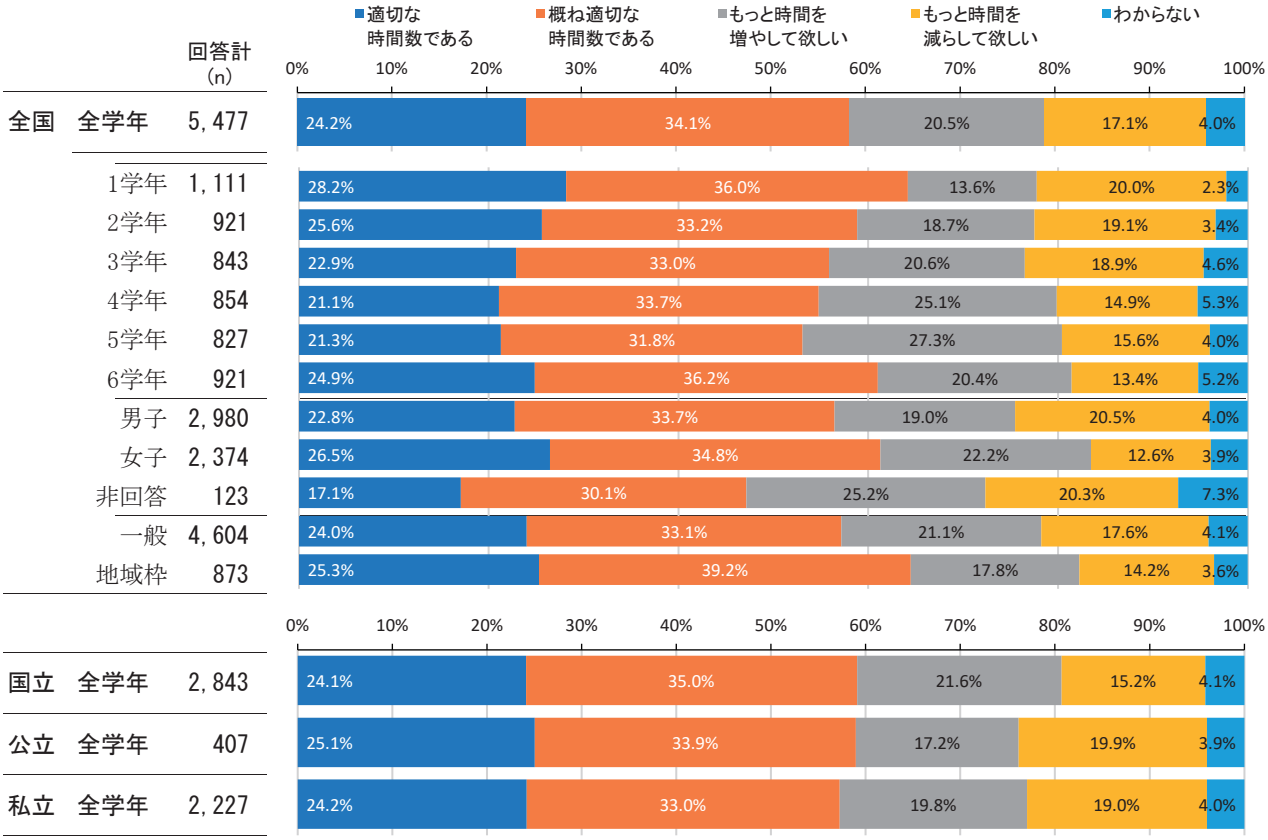
【授業等】

設問11. 教養教育の科目の配分についてどう思いますか。（複数回答可）



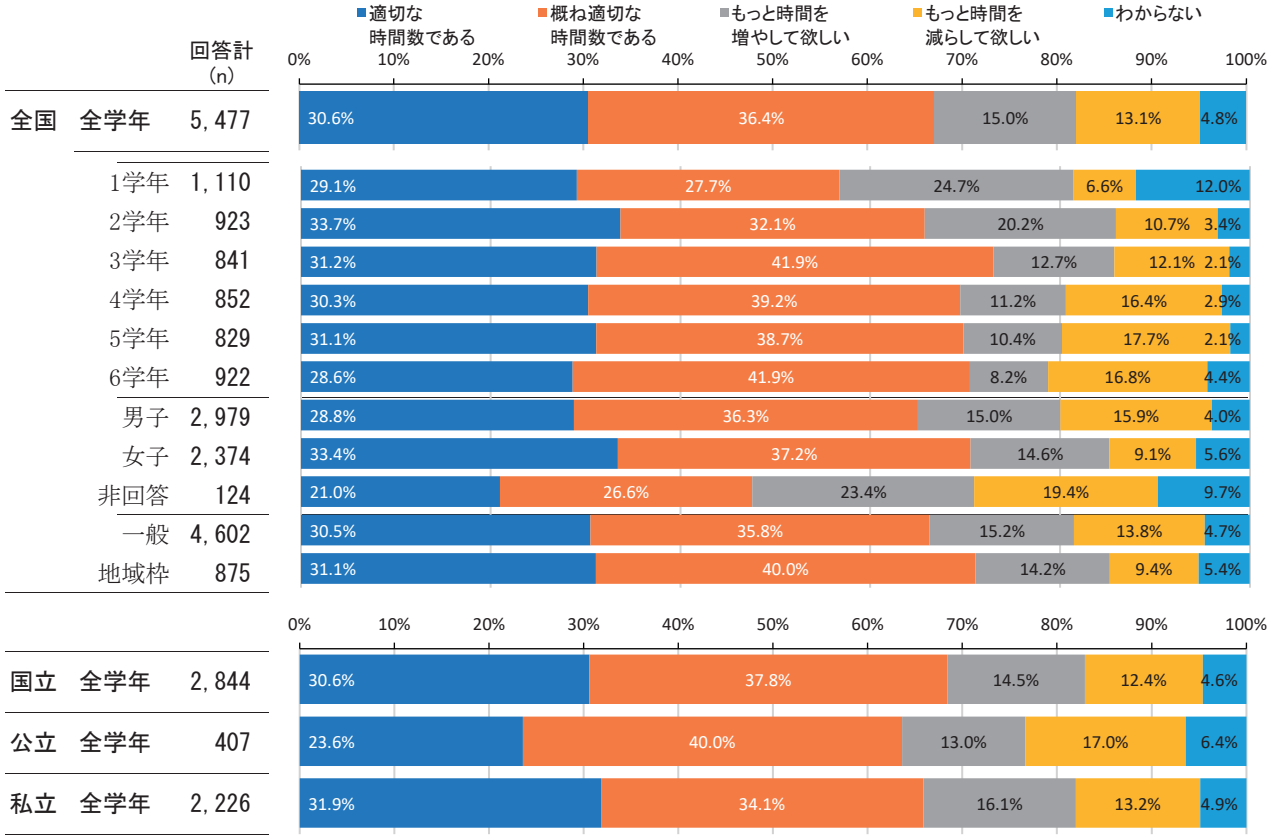
【授業等】

設問12. 英語教育の授業時間数についてどう思いますか。



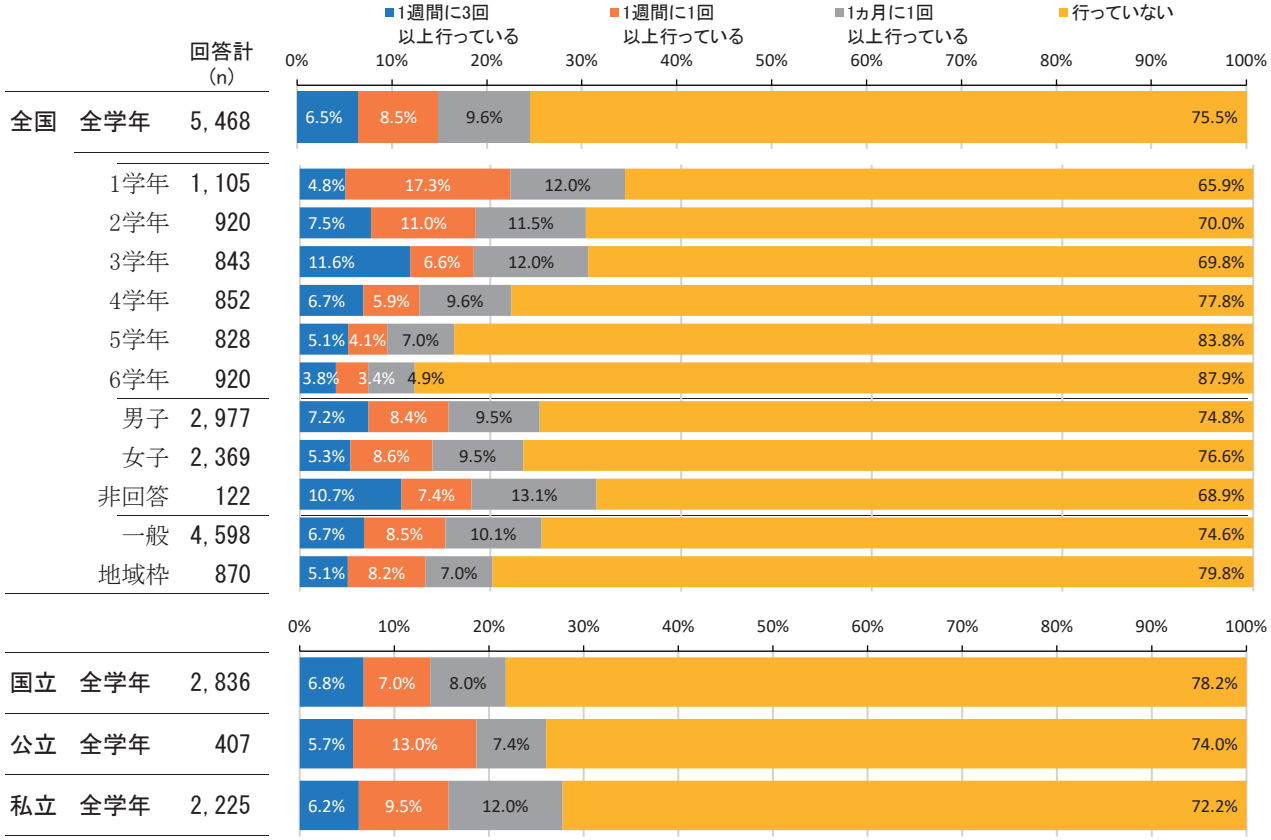
【授業等】

設問13. 基礎医学教育の授業時間についてどう思いますか。



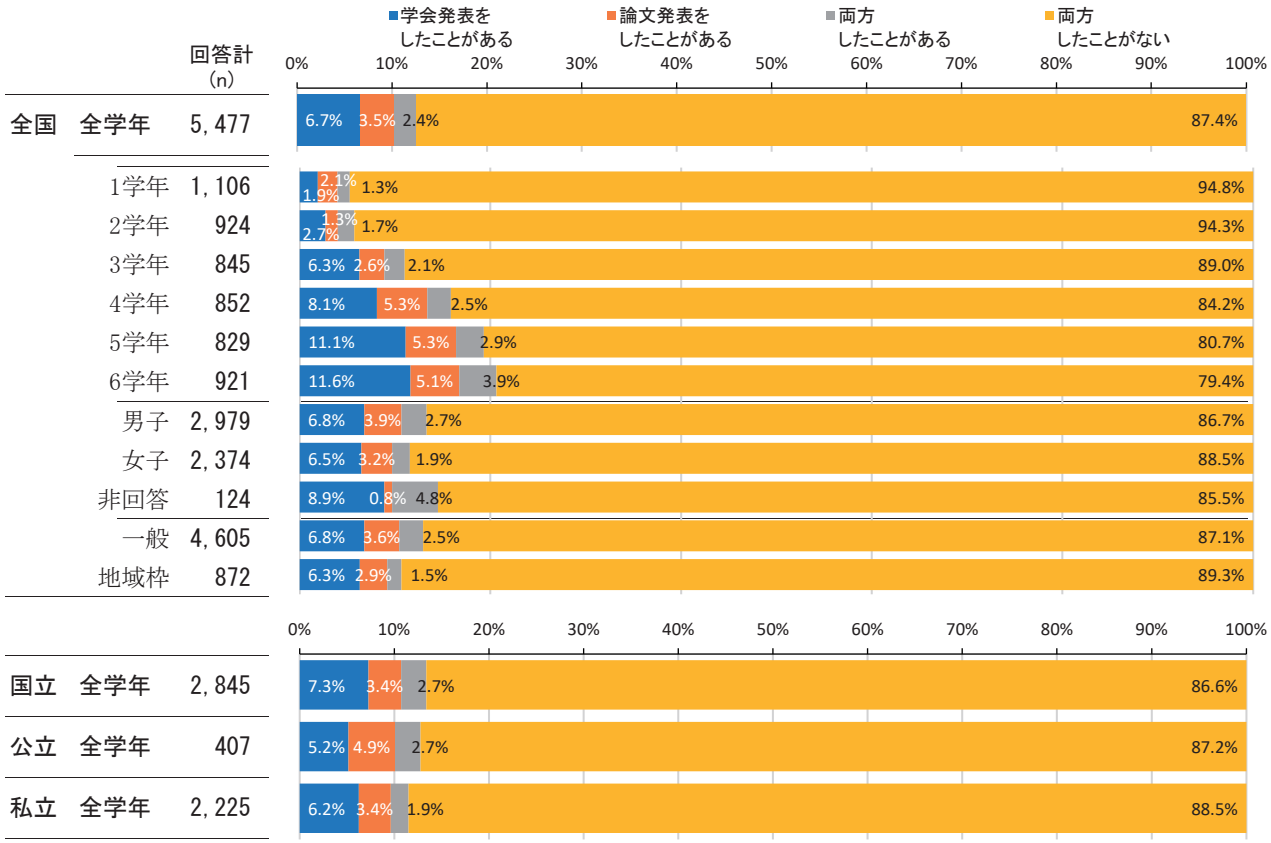
【授業等】

設問14. 講座(研究室)で実験・研究を行っていますか。



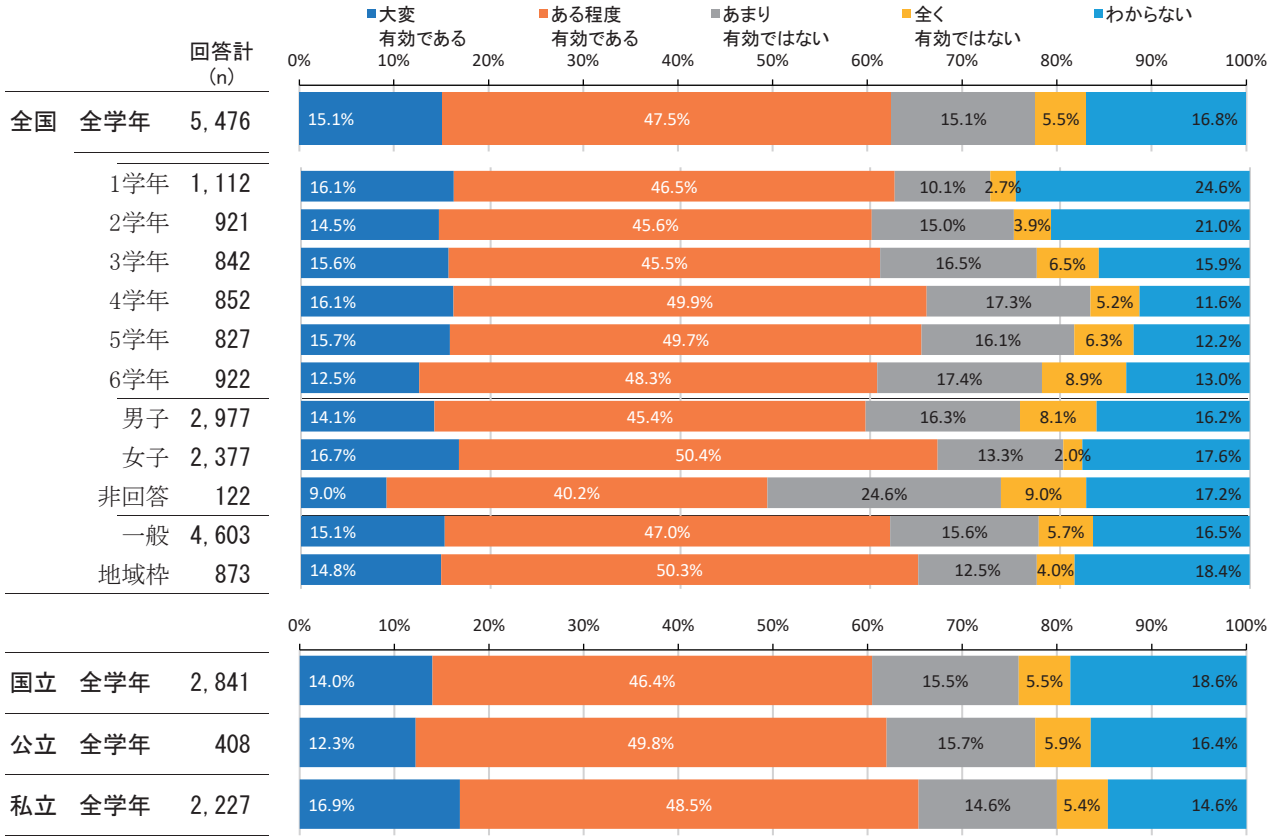
【授業等】

設問15. 学会発表や論文発表をしたことがありますか。



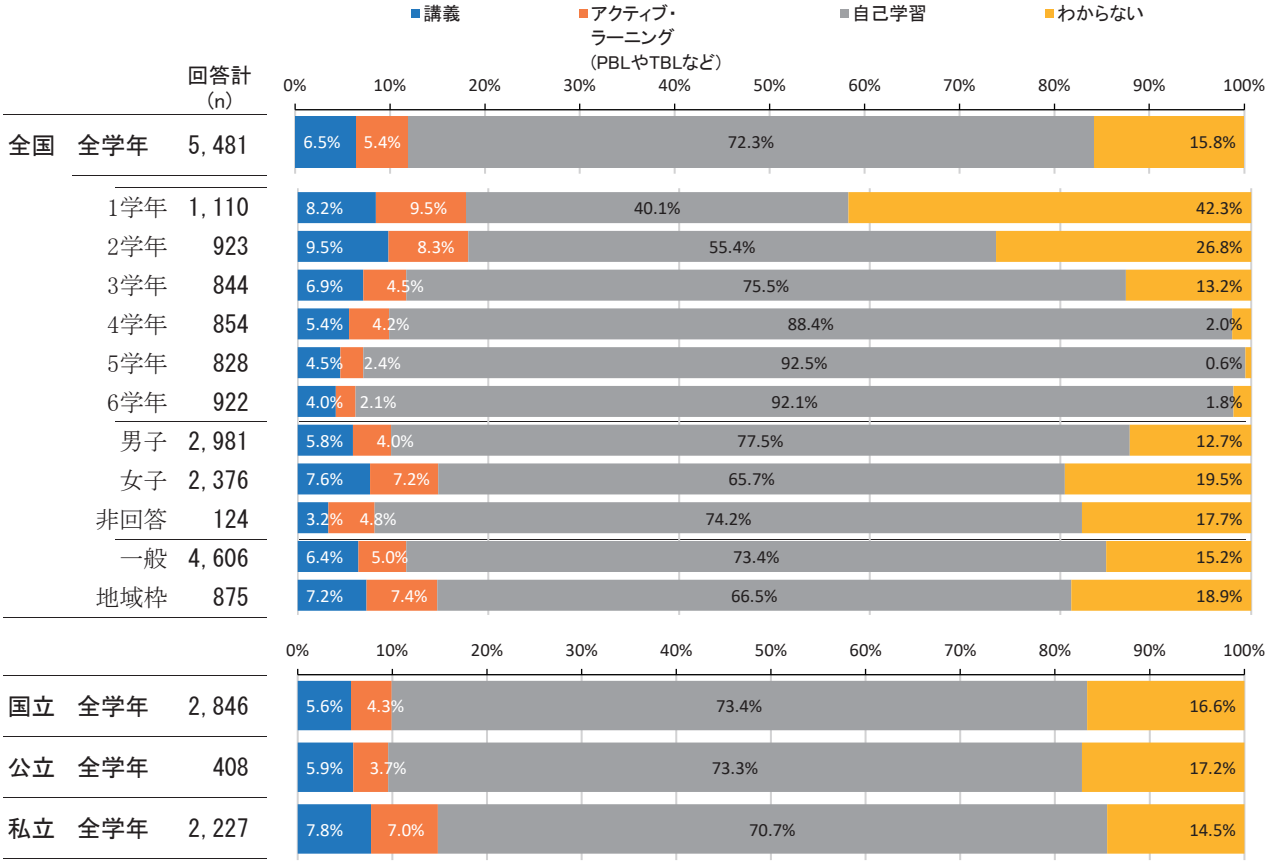
【授業等】

設問16. アクティブ・ラーニング(PBLやTBLなど)の学修効果についてどう考えますか。



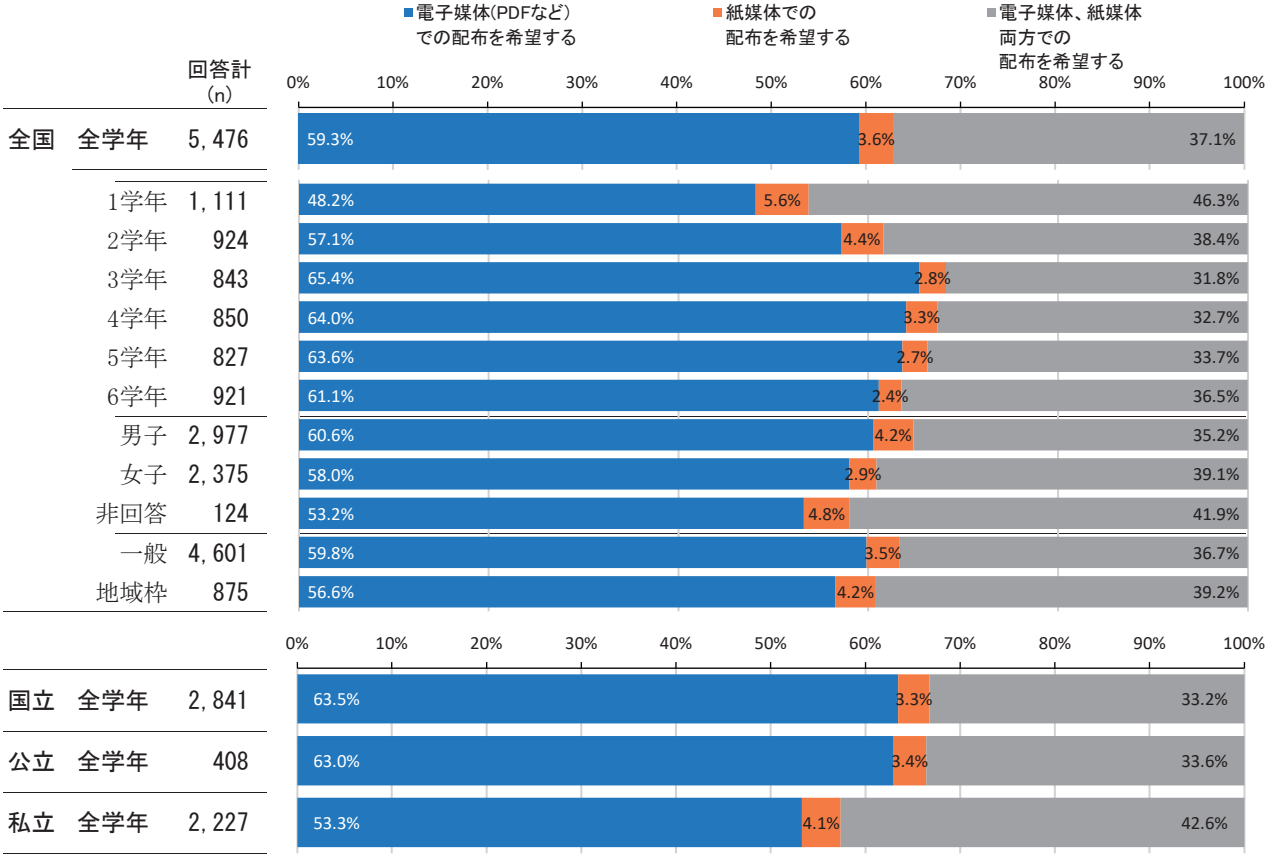
【授業等】

設問17. CBT合格のために最も役に立つものは何ですか。



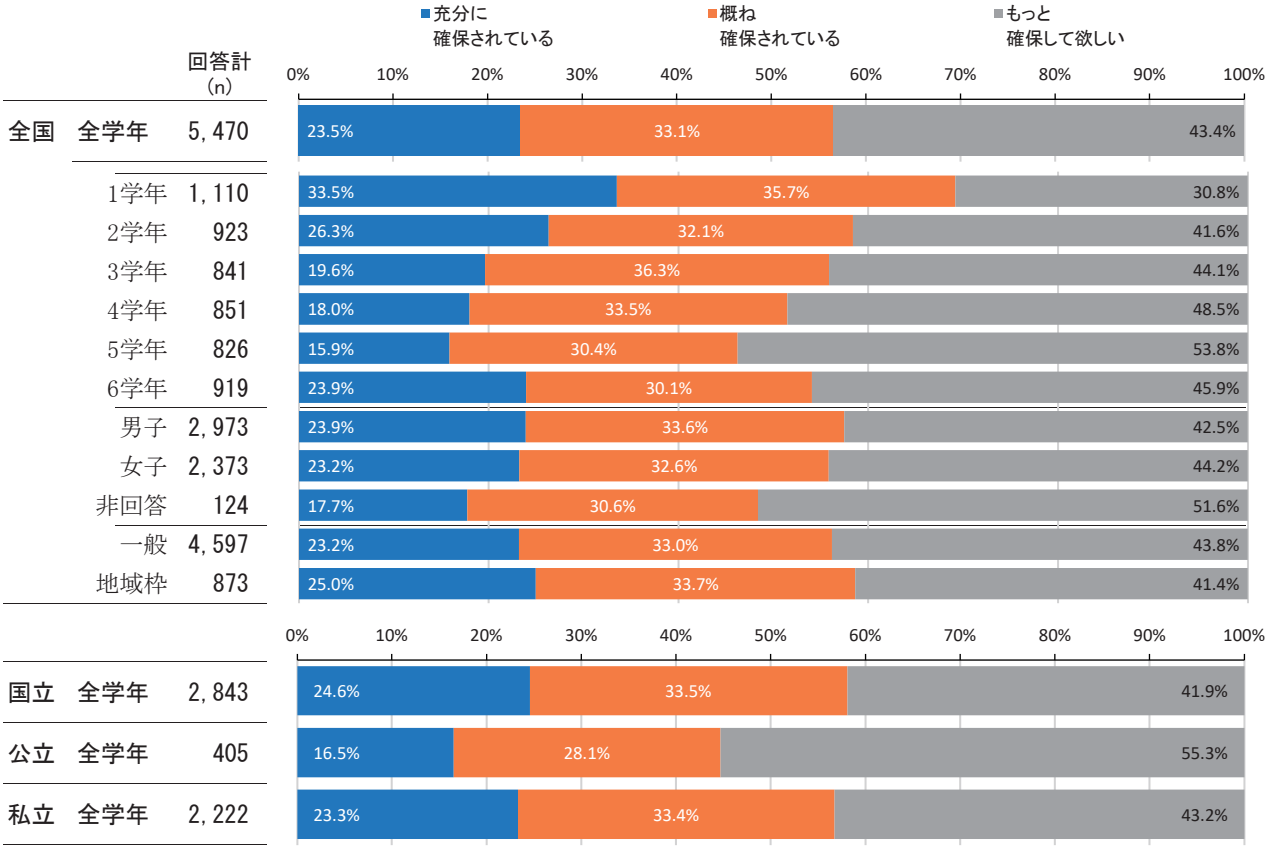
【授業等】

設問18. 授業の資料配付の方法についてどう思いますか。



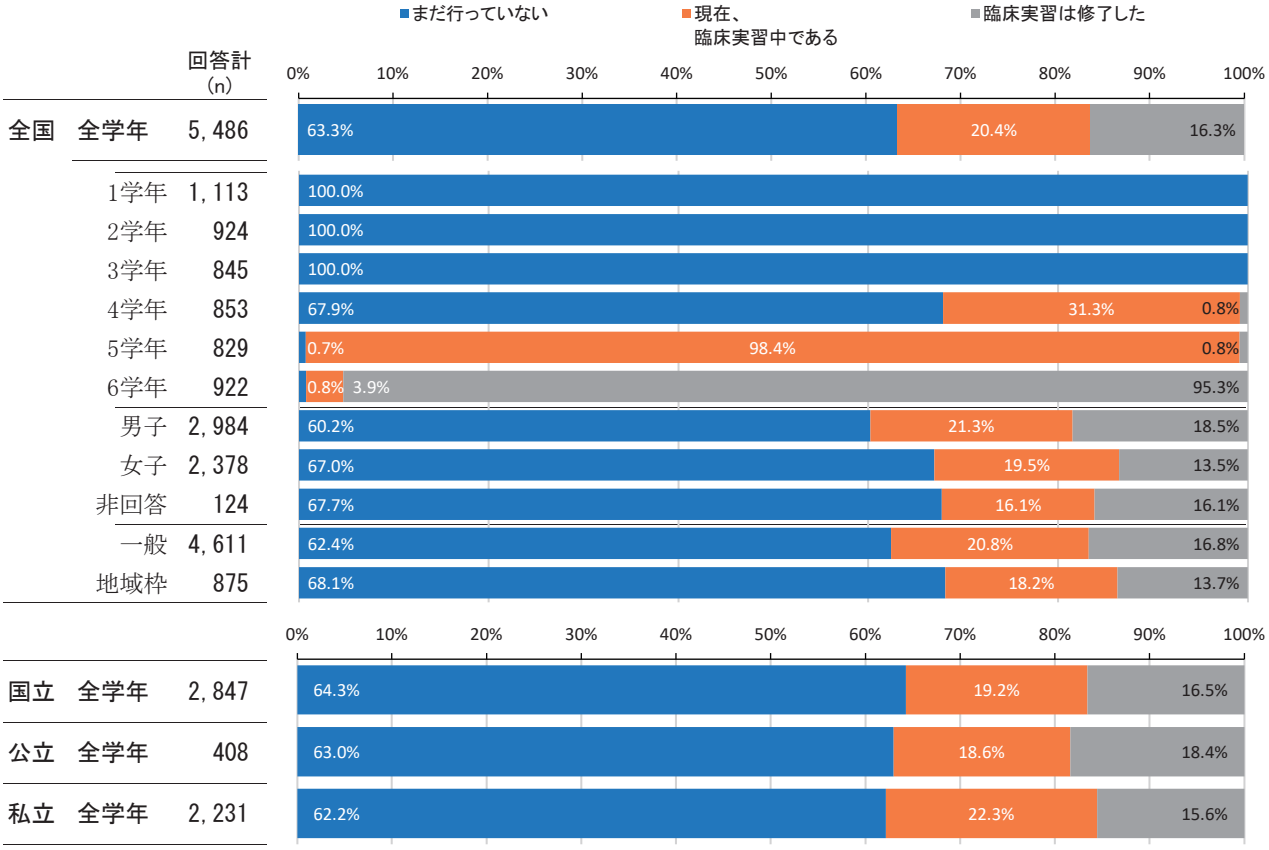
【授業等】

設問19. 大学内に自己学習のために自習室は充分に確保されていますか。



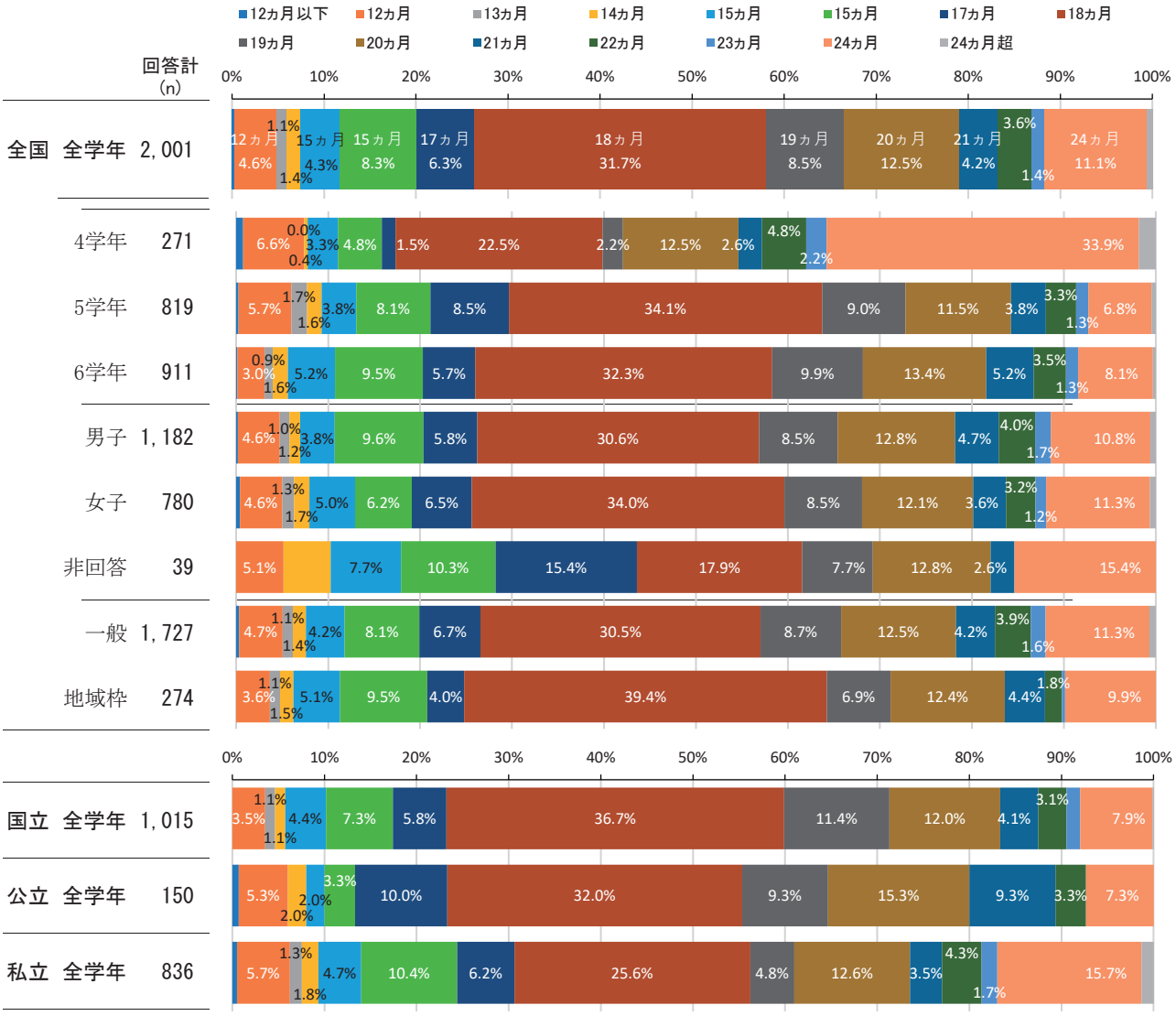
【授業等】

設問20. あなたは既に臨床実習を行っていますか。



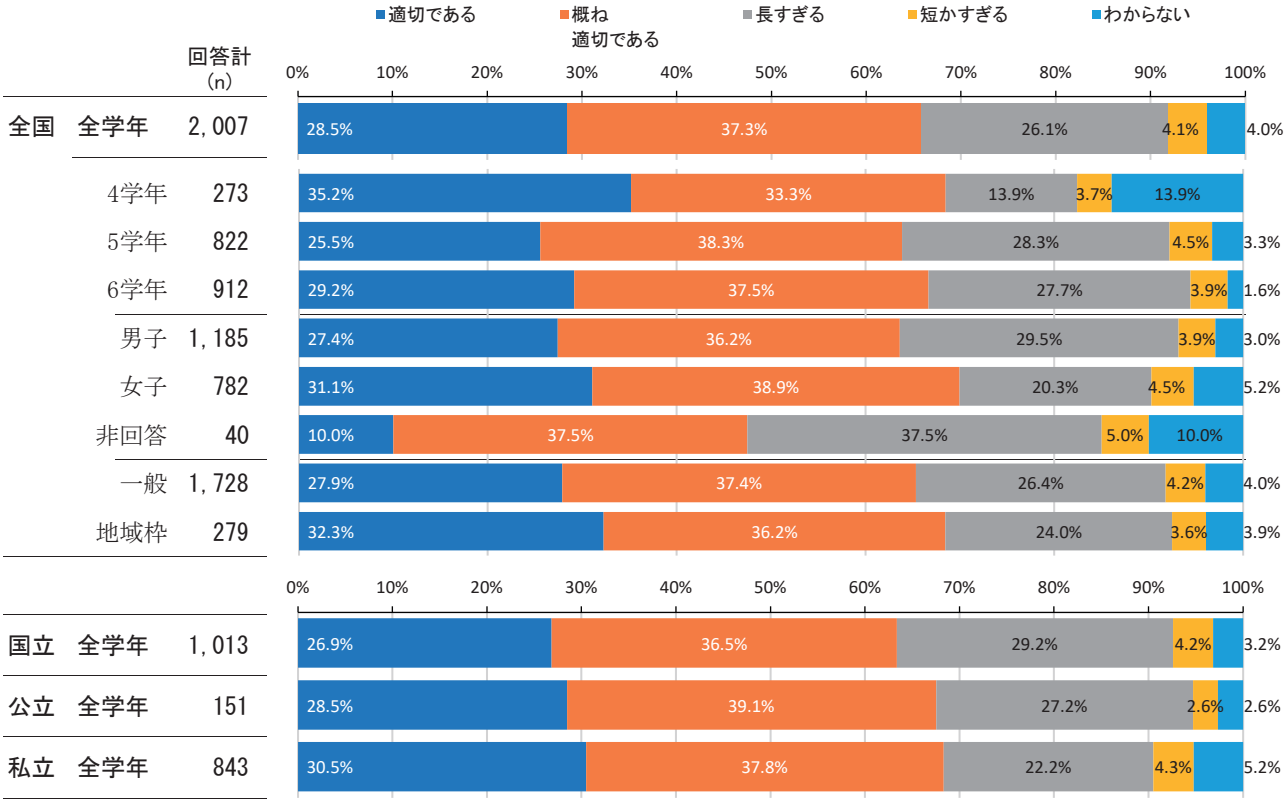
【授業等】

設問21. あなたの所属大学では臨床実習の期間はおおむね何ヵ月ですか。



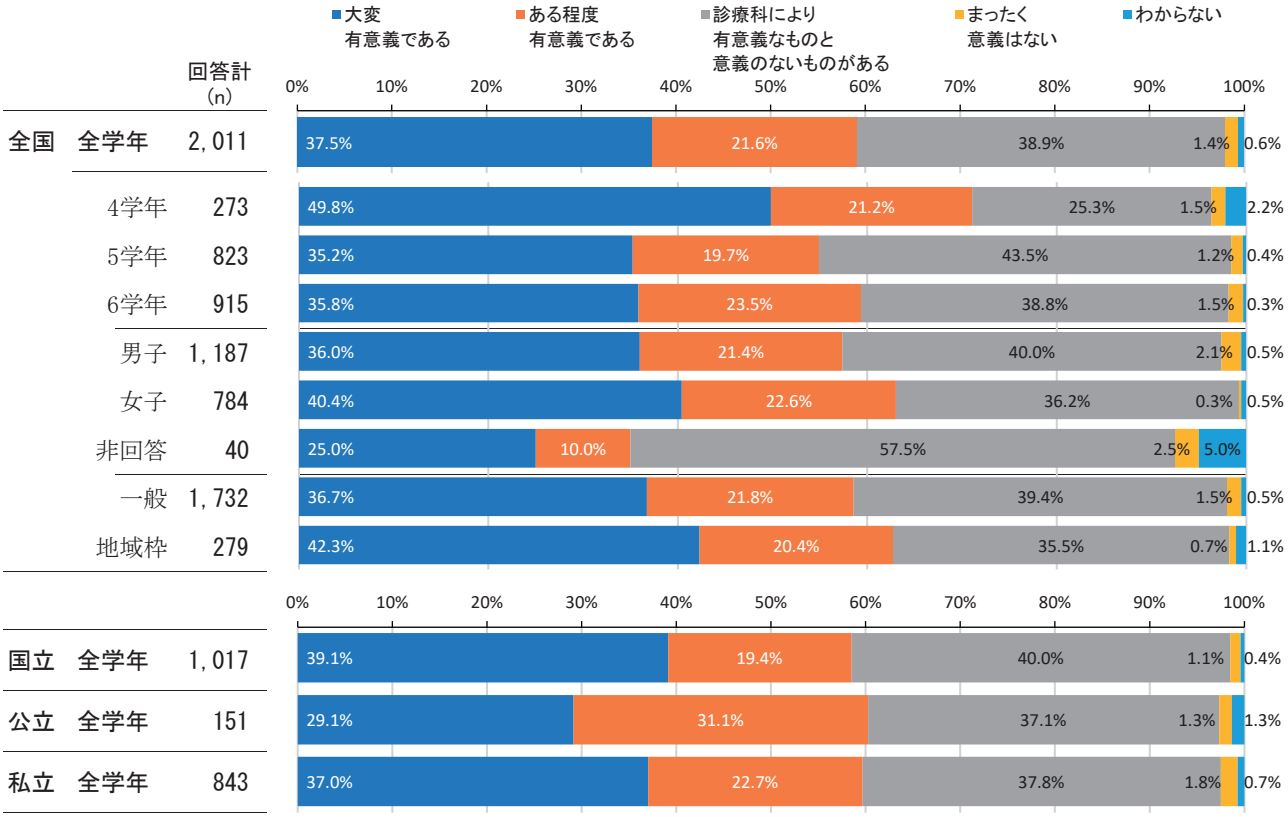
【授業等】

設問22. 臨床実習の期間についてどう考えますか。



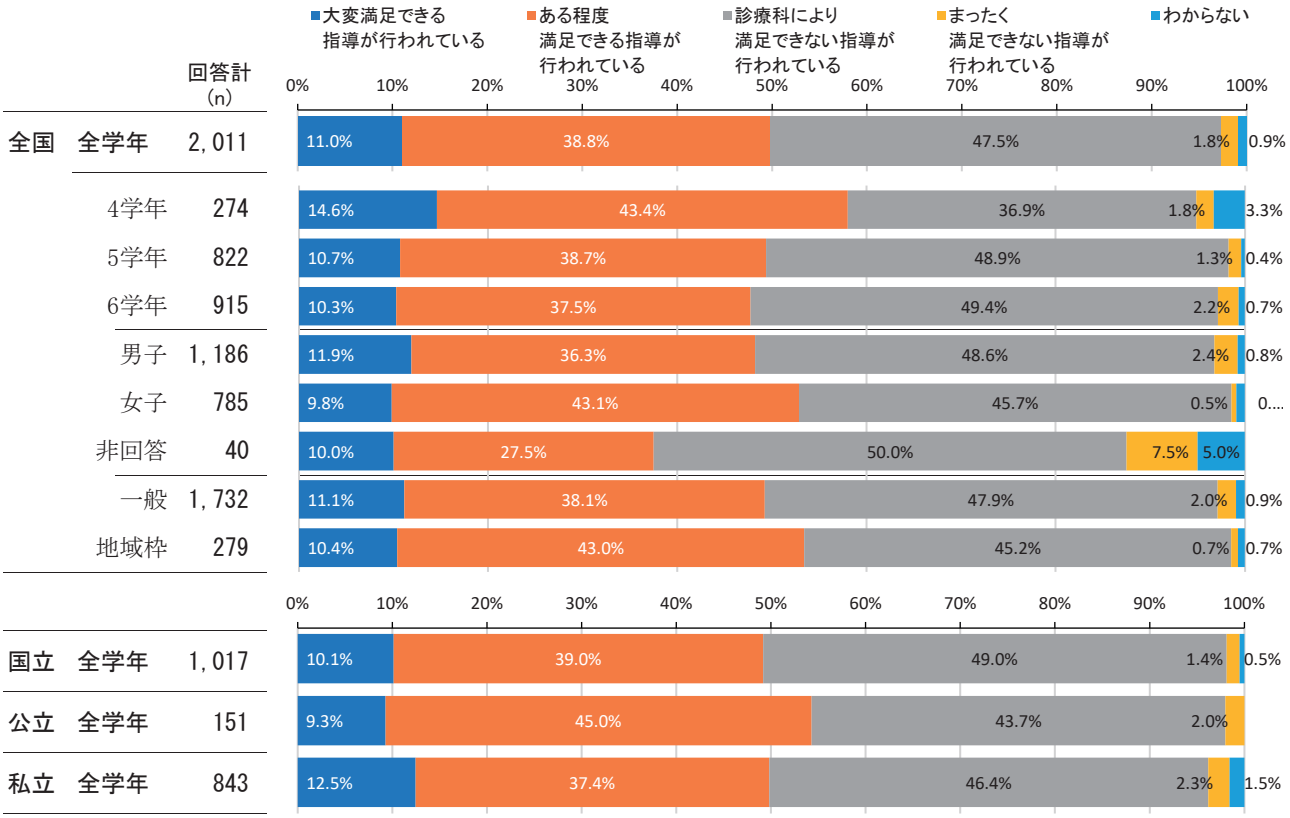
【授業等】

設問23. 臨床実習は有意義と考えますか。



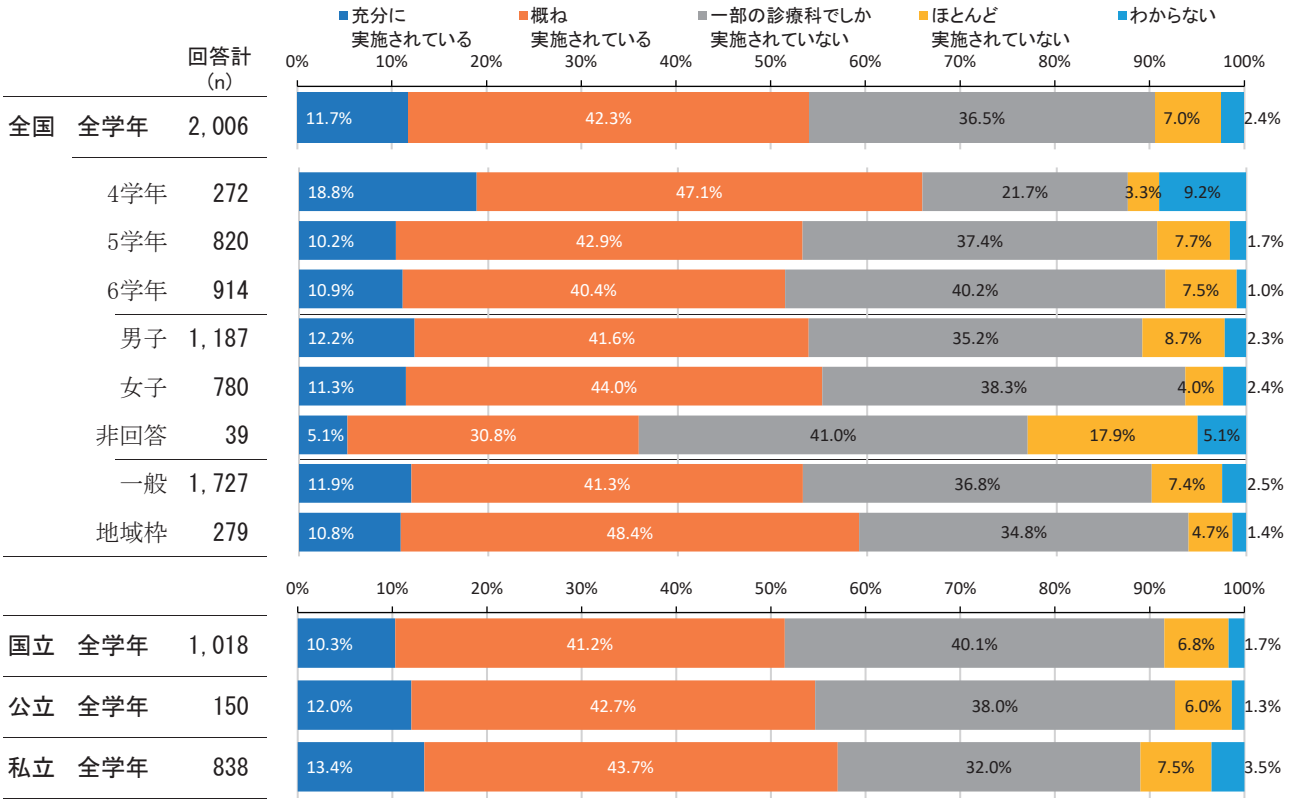
【授業等】

設問24. 臨床実習の指導についてどう評価しますか。



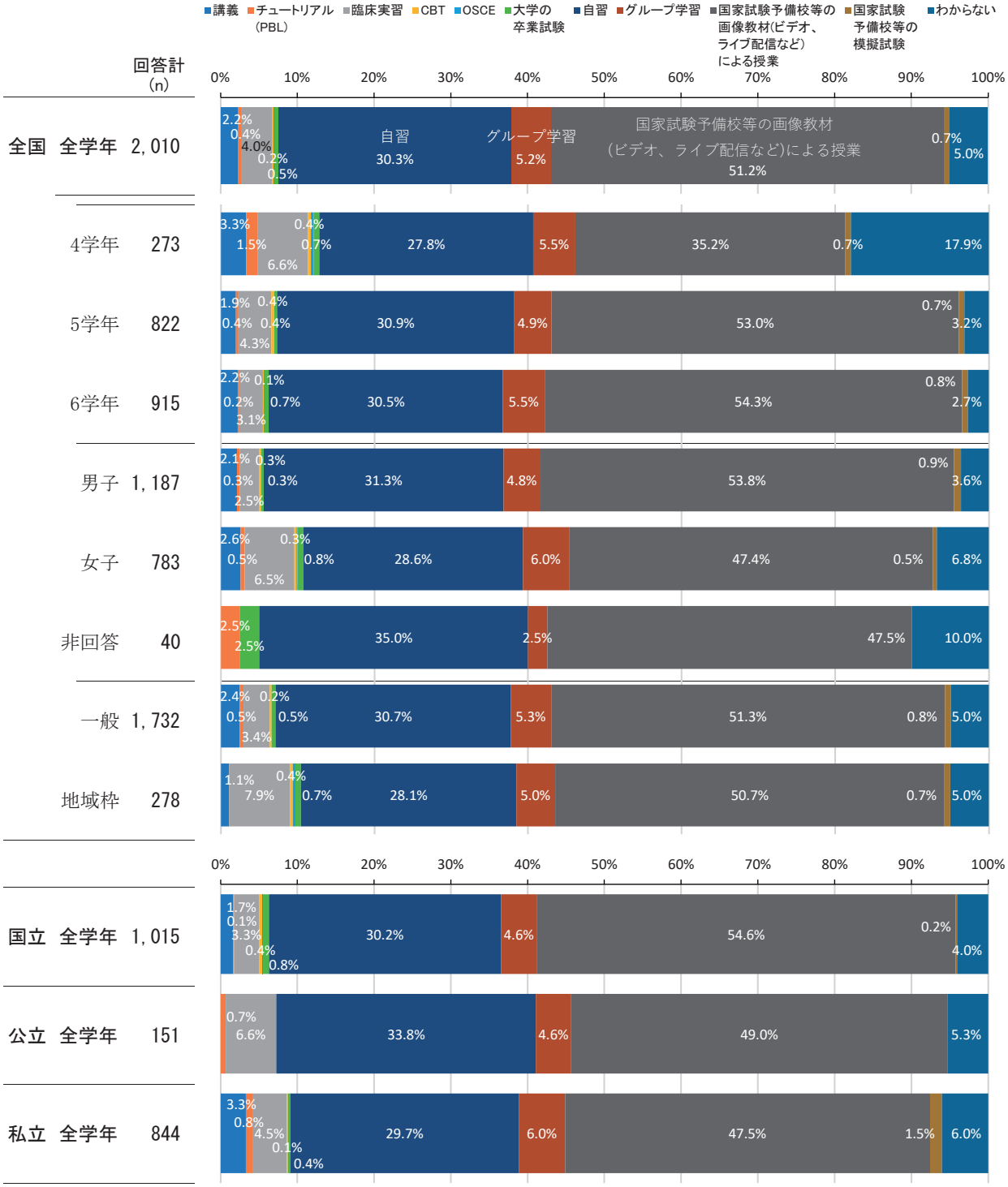
【授業等】

設問25. 診療参加型の臨床実習は実施されていると考えますか。



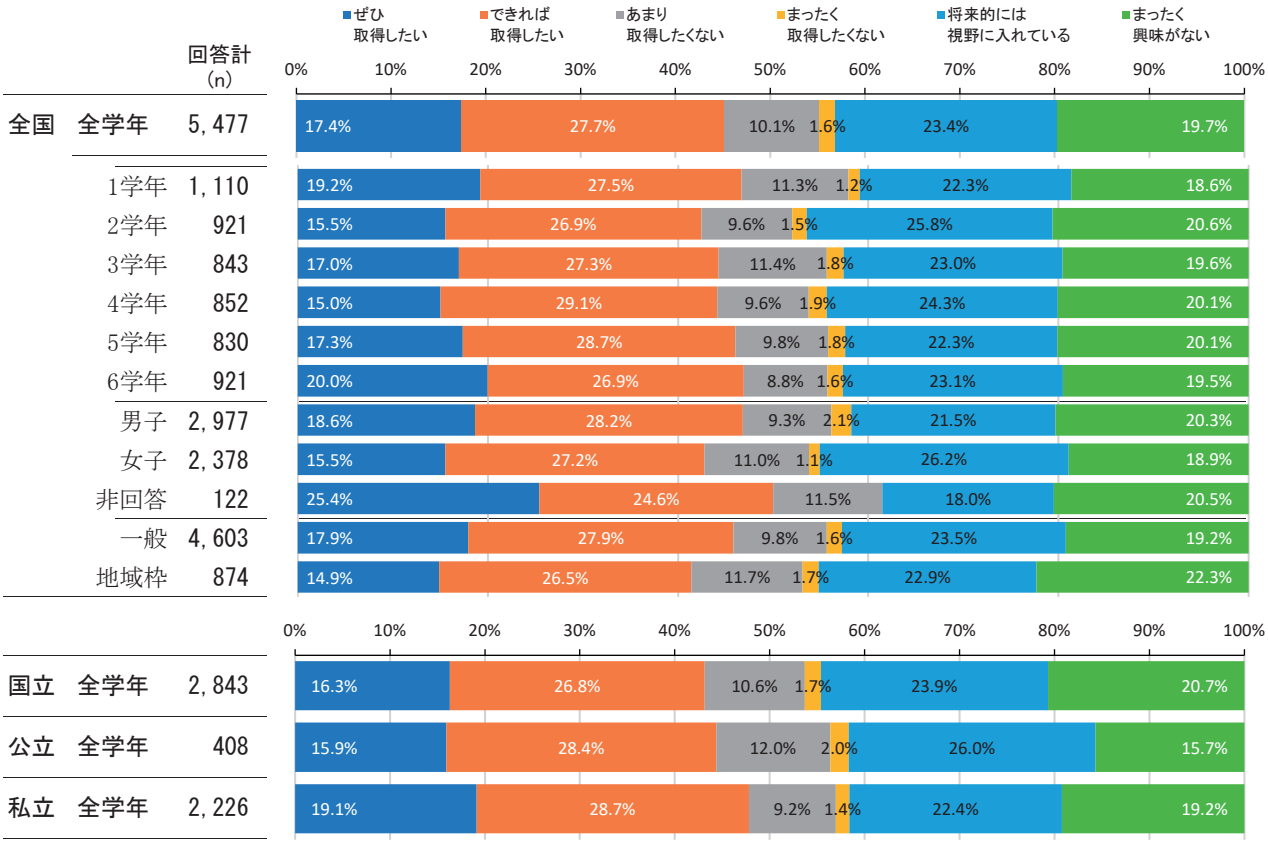
【授業等】

設問26. 国家試験合格のために最も役に立つものは何ですか。



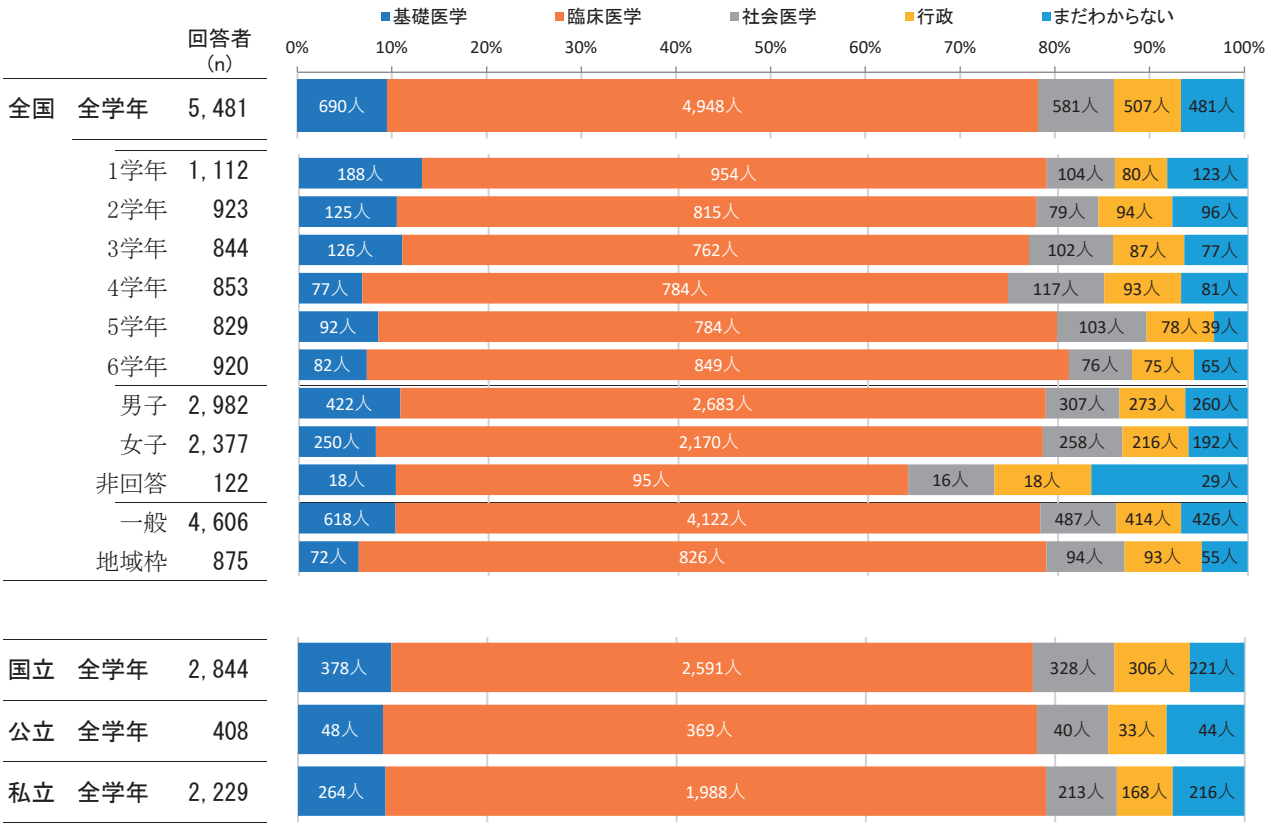
【卒業後・キャリア】

設問27. 将来、博士(医学)の学位取得を目指していますか。



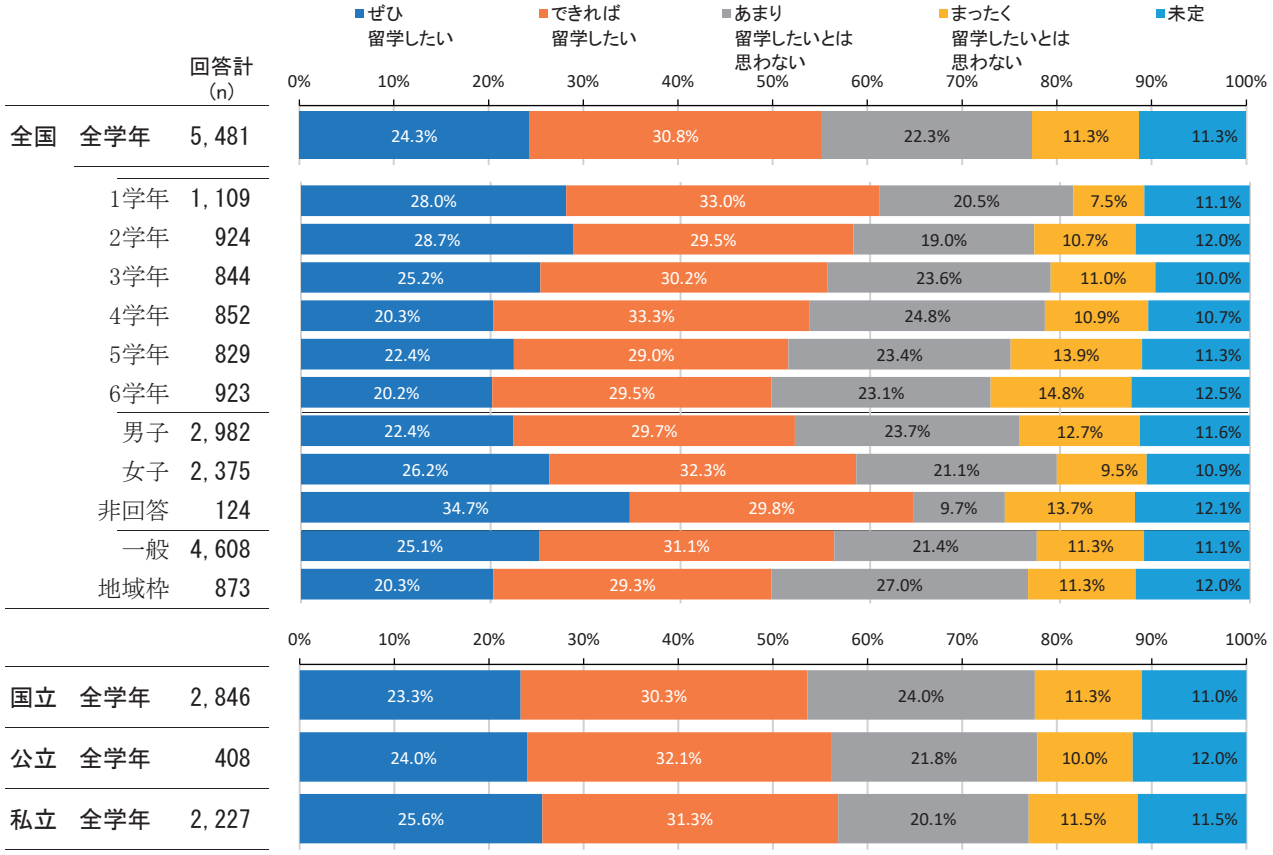
【卒業後・キャリア】

設問28. 将来のキャリアについて現時点でどのように考えていますか。(複数回答可)



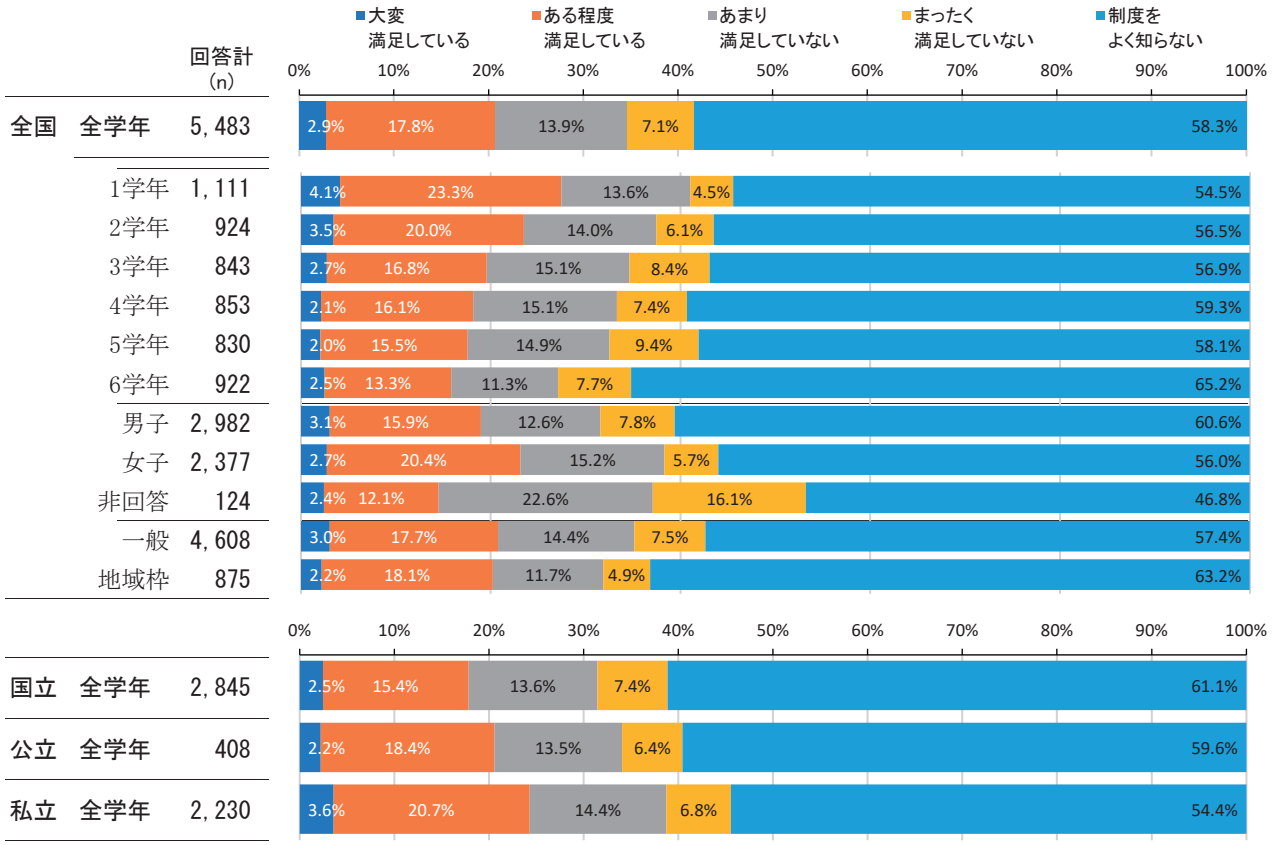
【卒業後・キャリア】

設問29. 在学中あるいは医師になってから海外留学をしたいと考えていますか。



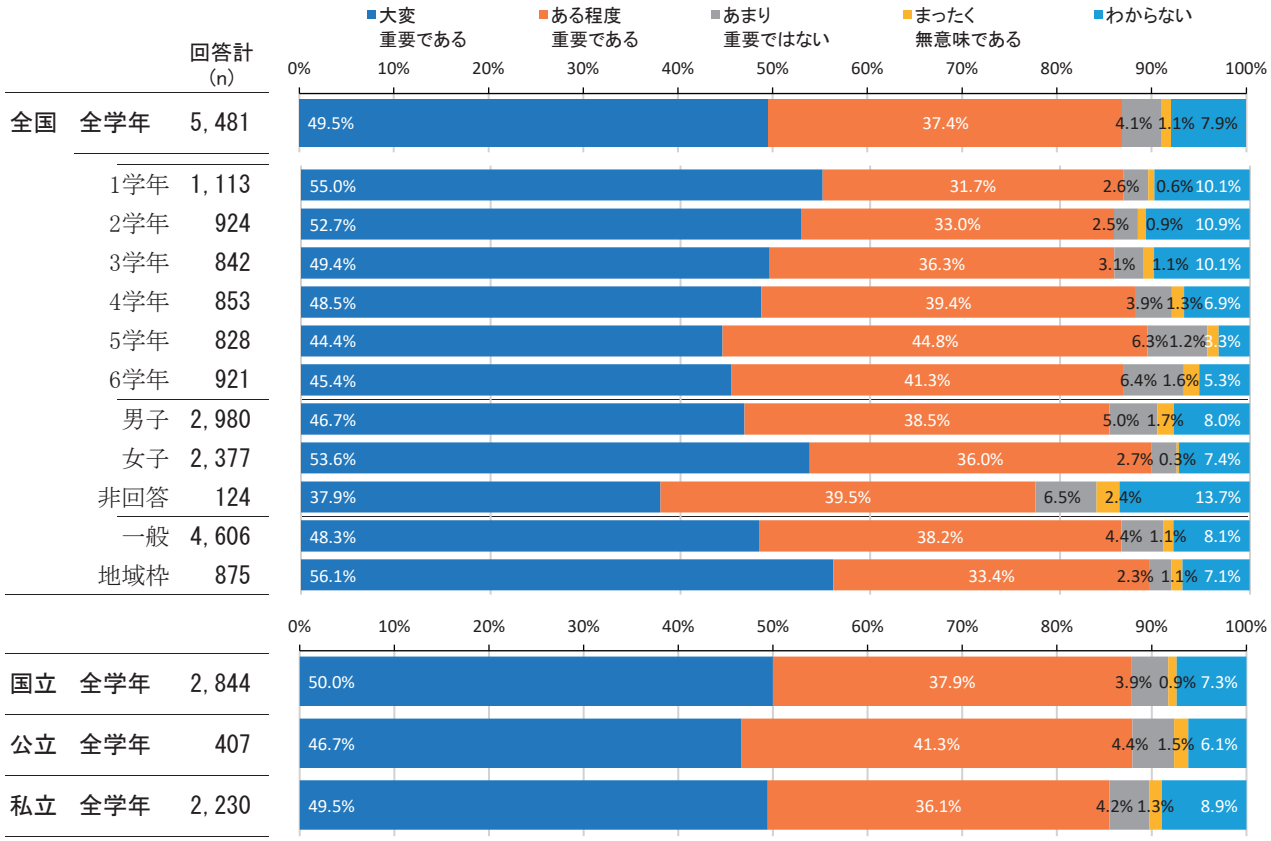
【卒業後・キャリア】

設問30. 現在の留学支援制度に満足していますか。



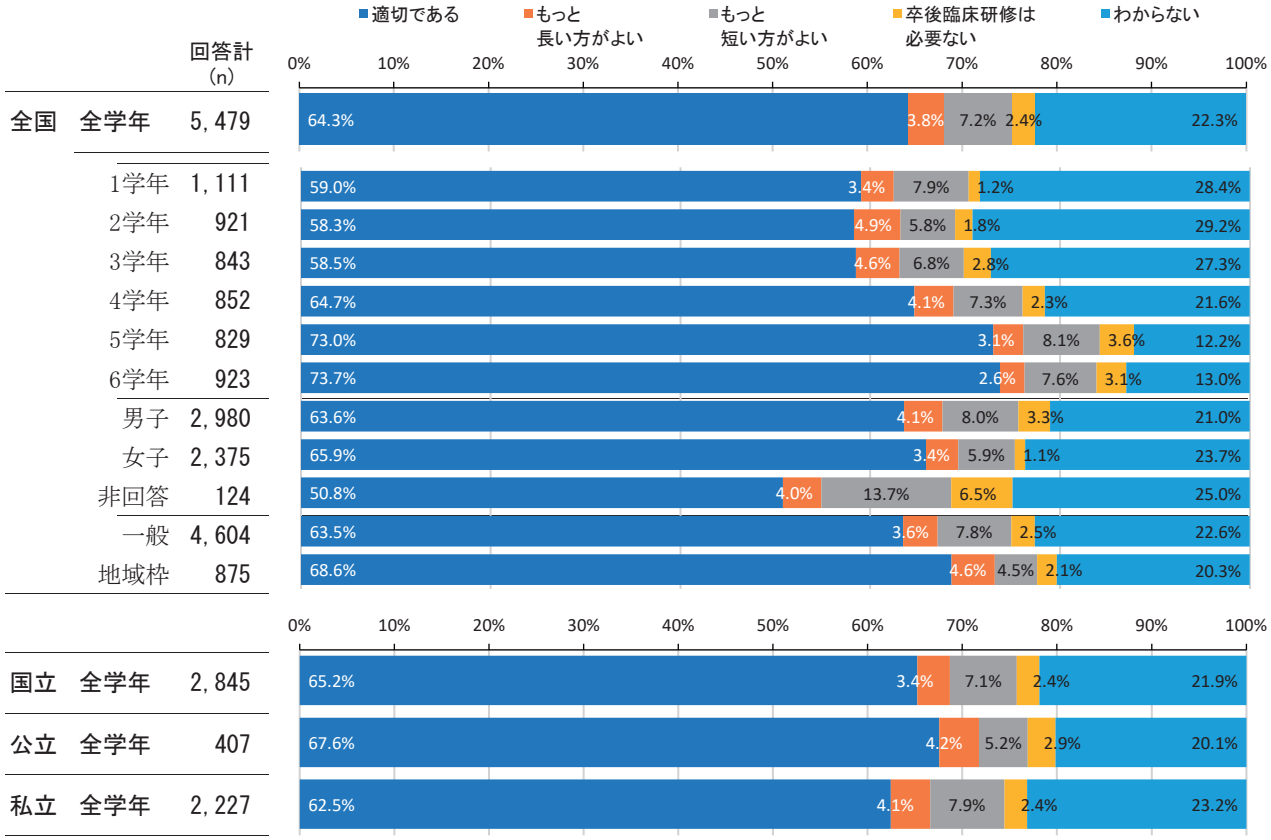
【卒業後・キャリア】

設問31. 卒後2年間の卒後臨床研修は将来のキャリア形成に重要と思いますか。



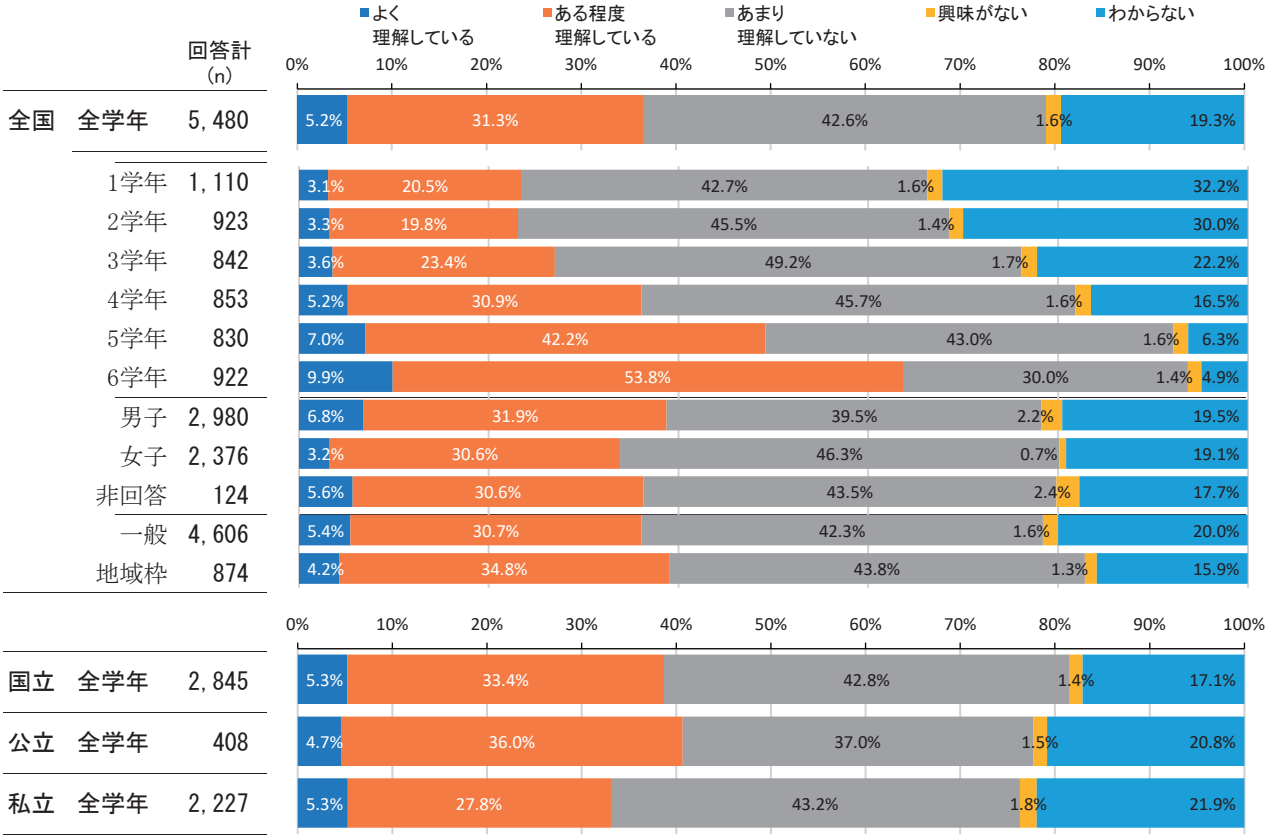
【卒業後・キャリア】

設問32. 卒後臨床研修の期間(2年間)についてどう考えますか。



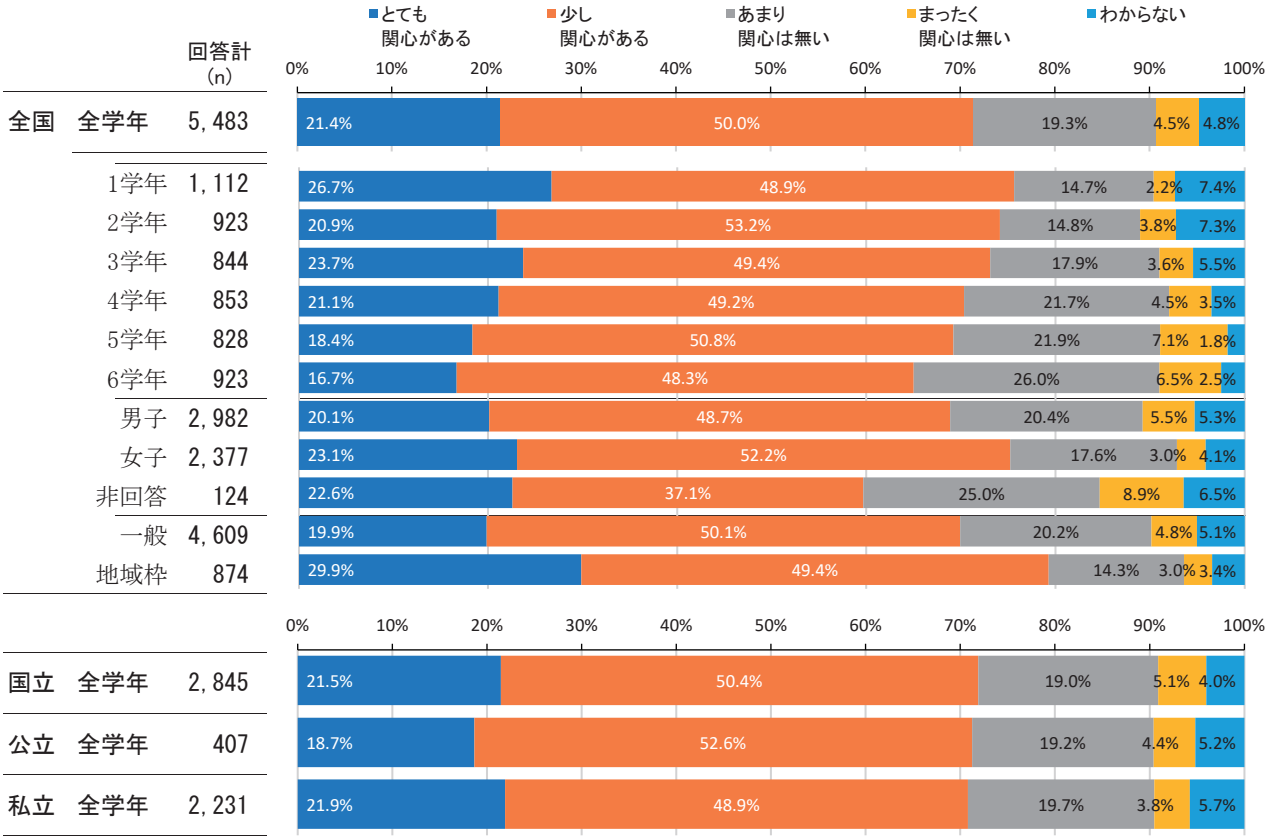
【卒業後・キャリア】

設問33. 新専門医制度についてあてはまるのはどれですか。



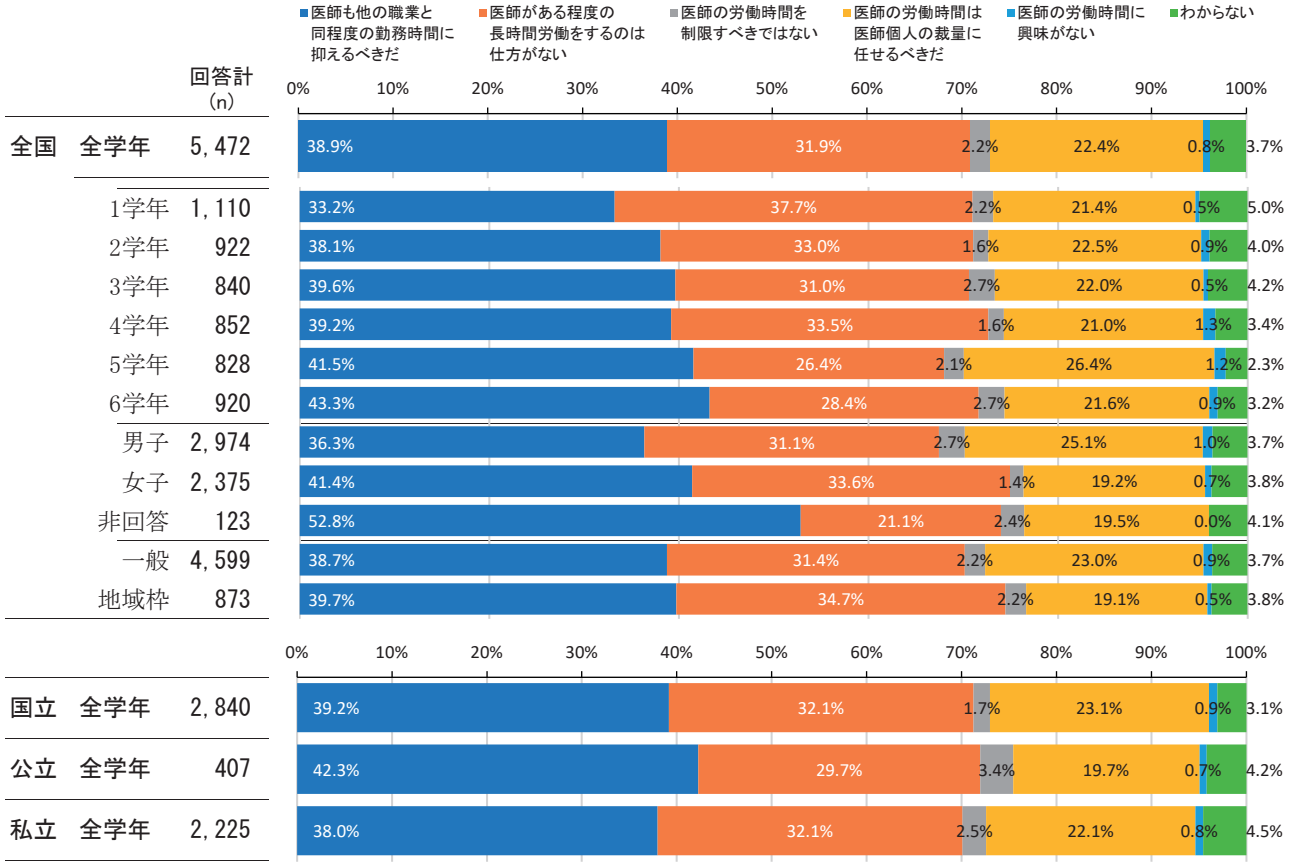
【卒業後・キャリア】

設問34. 総合診療についてどう思いますか。



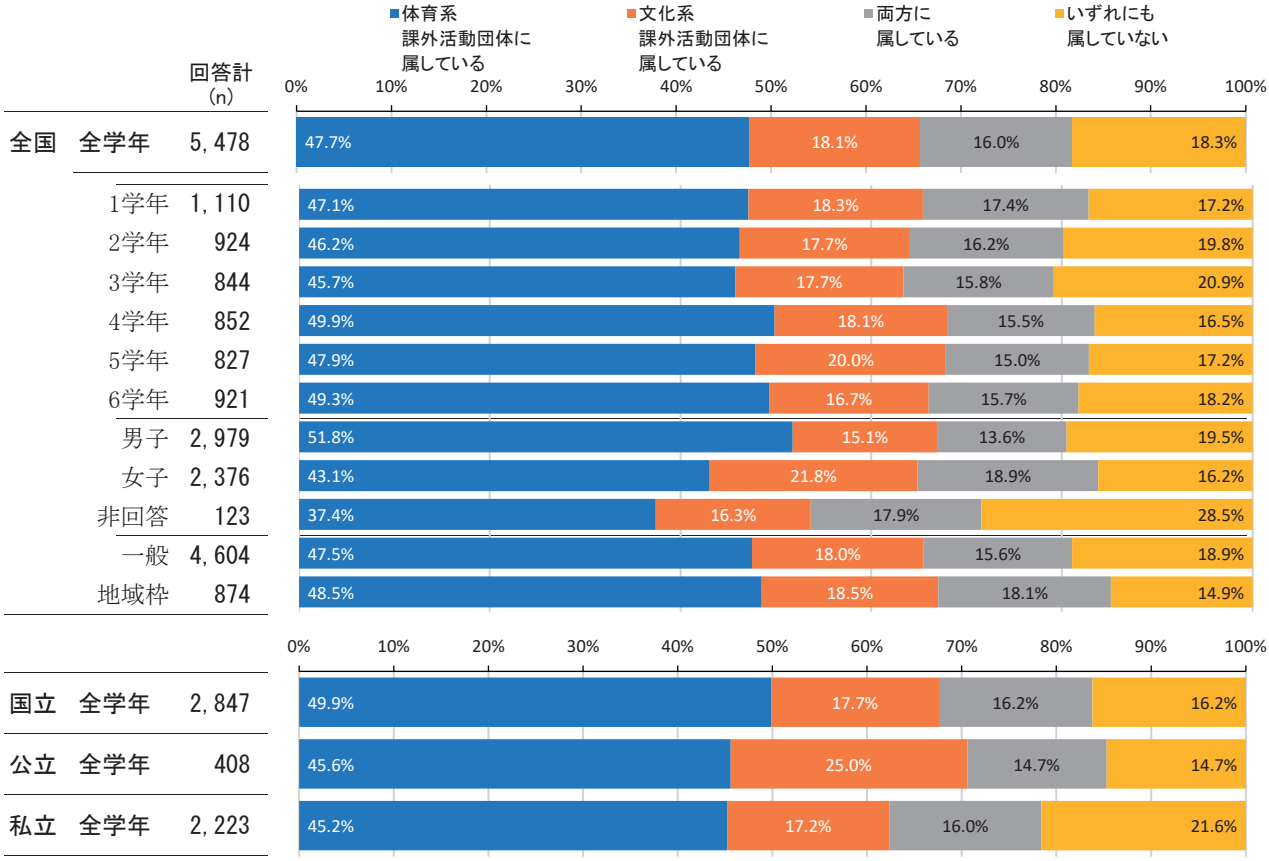
【卒業後・キャリア】

設問35.「医師の働き方改革」の議論についてあなたの考えはどれですか。



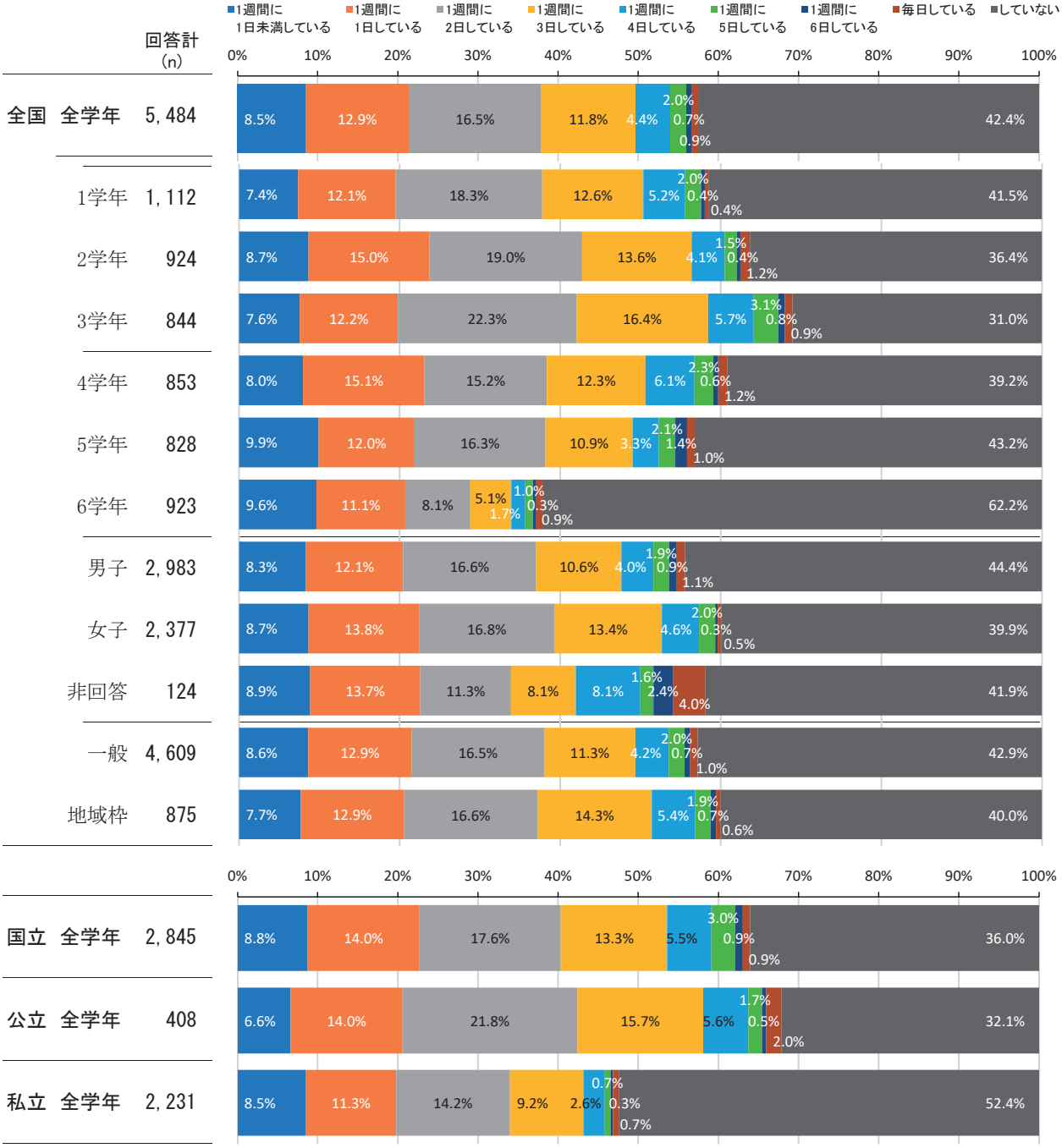
【生活・メンタルヘルス】

設問36. 何らかの課外活動団体に属していますか。



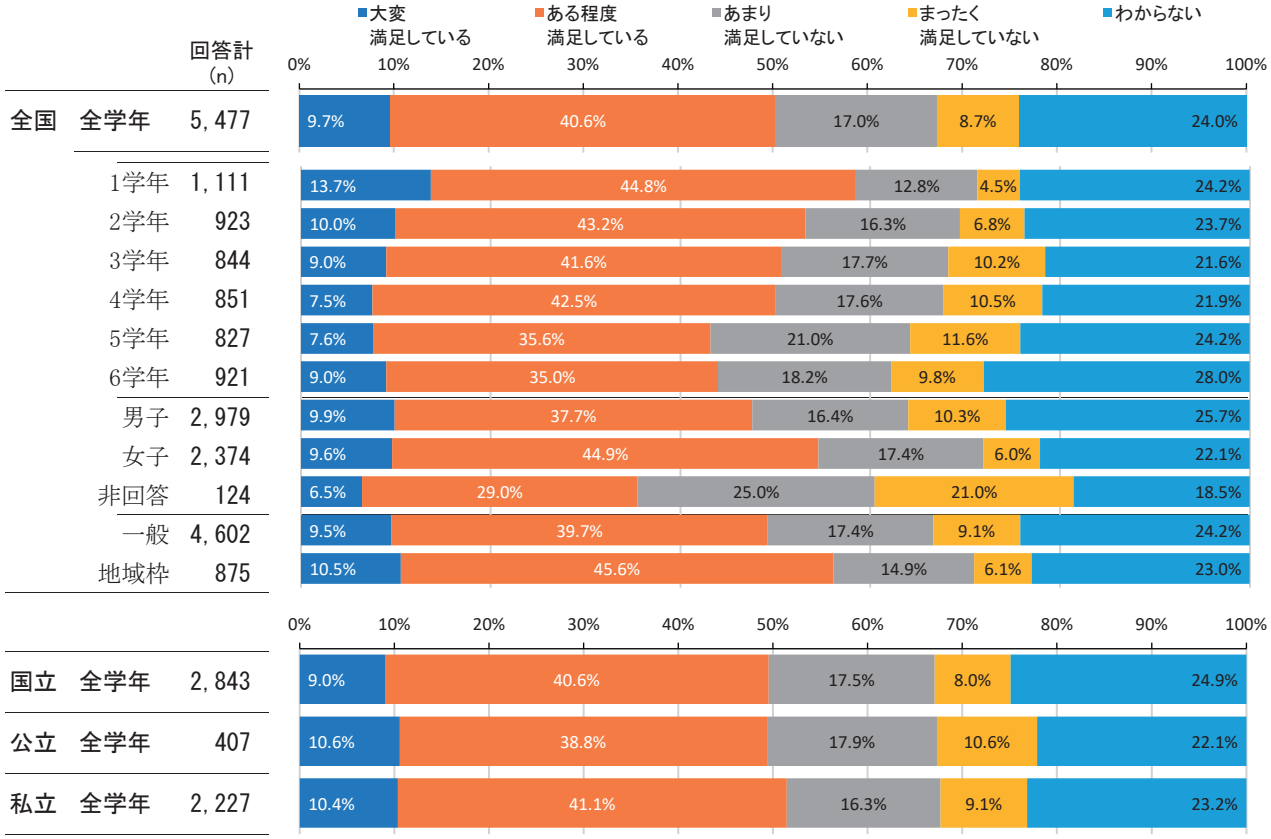
【生活・メンタルヘルス】

設問37. アルバイトをしていますか。



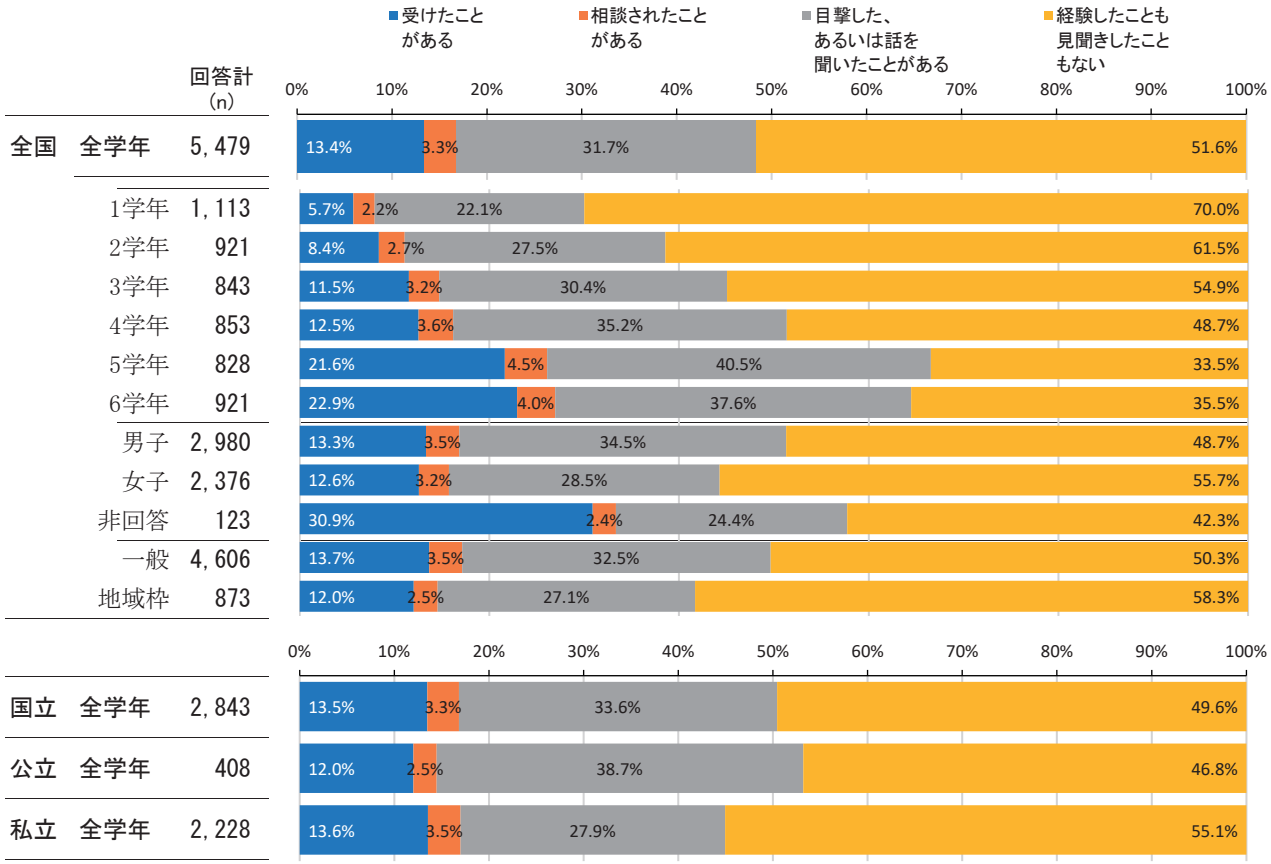
【生活・メンタルヘルス】

設問38. 学生生活やメンタルヘルスに対する大学の支援体制に満足していますか。



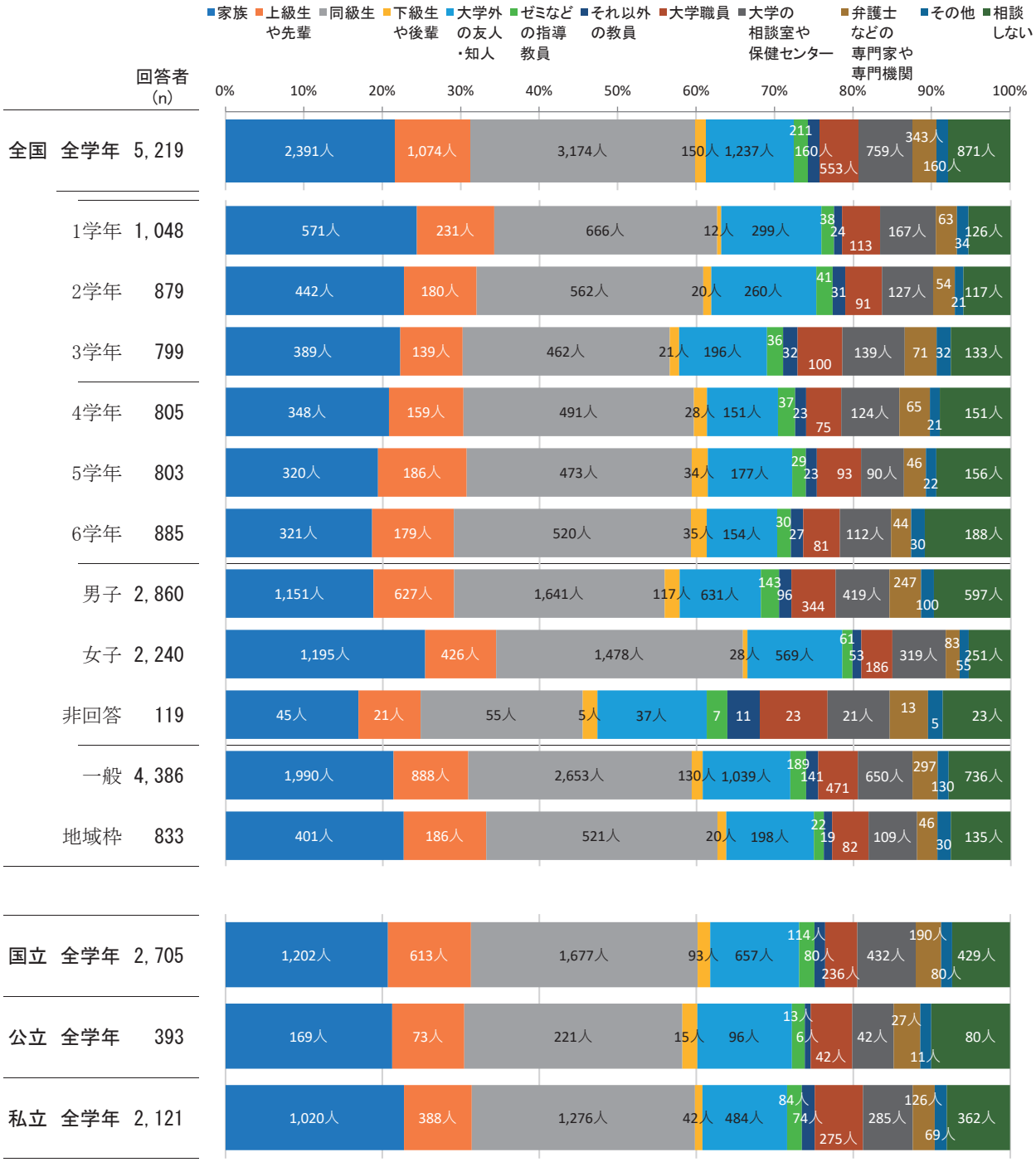
【生活・メンタルヘルス】

設問39. 自大学、またはそれに準じた場（サークルやゼミのコンパ、学会など）における、ハラスメント（セクハラ、パワハラ、モラハラ、アカハラ等）の経験などがありますか。



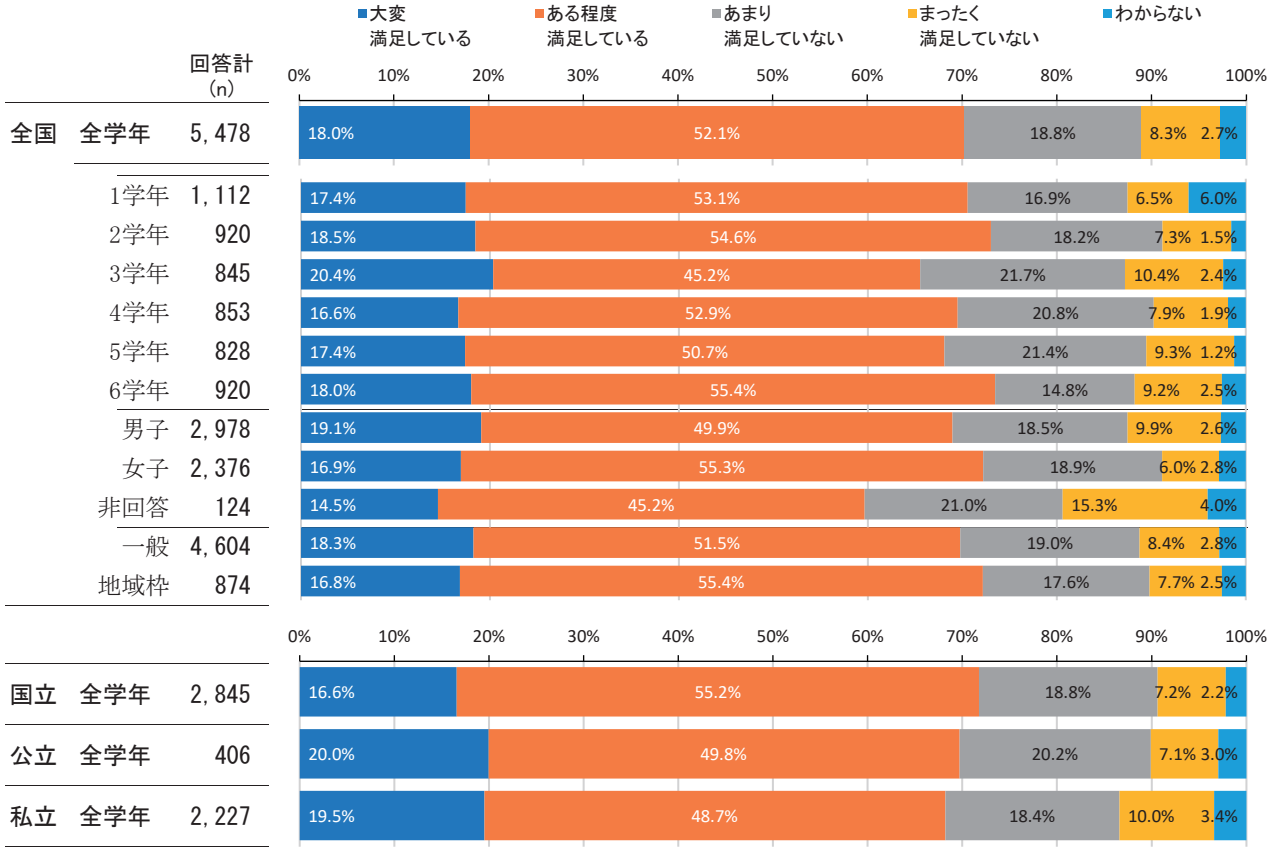
【生活・メンタルヘルス】

設問40. ハラスメントを受けたことを誰かに相談しましたか。
（受けたことが無い場合は、受けた場合を想定して）（複数回答可）



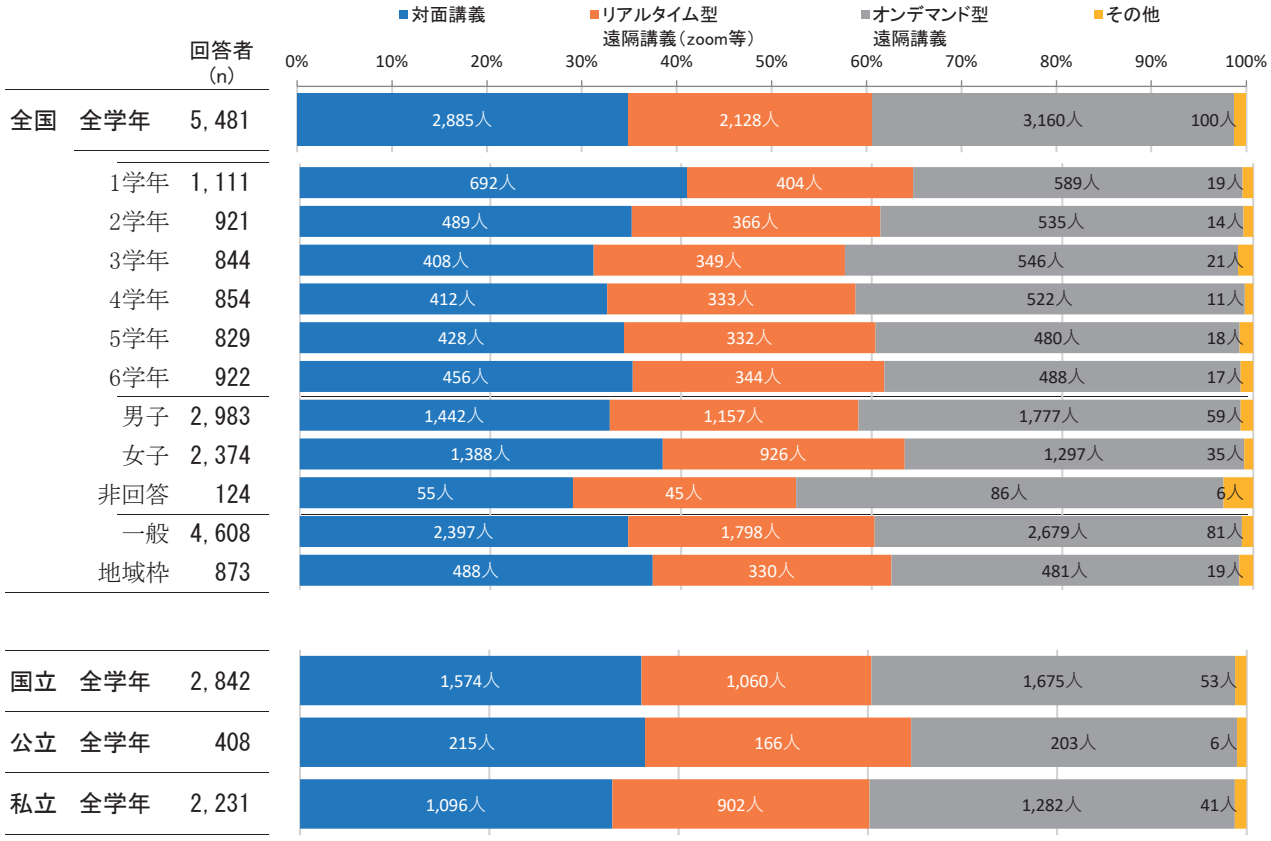
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問41. COVID-19(新型コロナウイルス感染症)に対して大学が行った授業形態の変更についてどう思いますか。



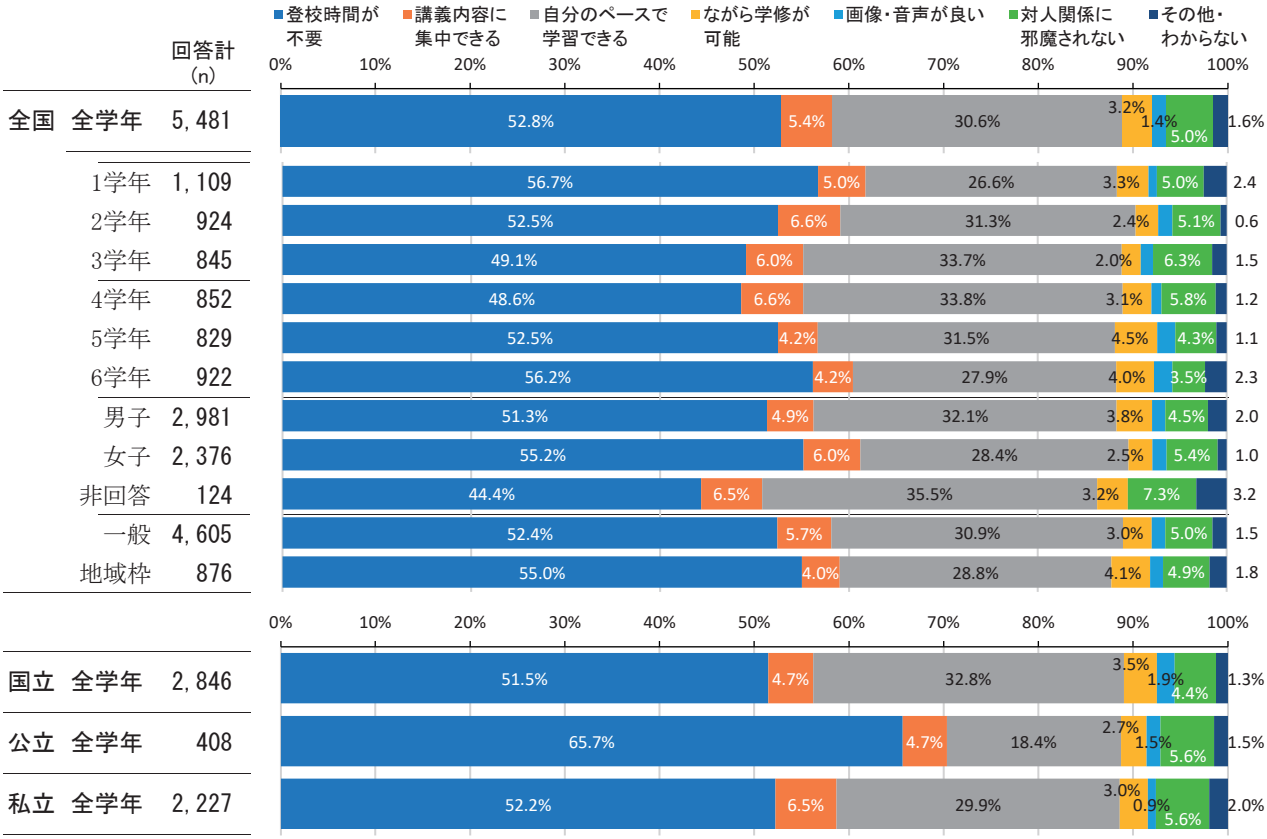
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問42. ポストコロナにおける講義の実施形態として、どれが望ましいですか。(複数回答可)



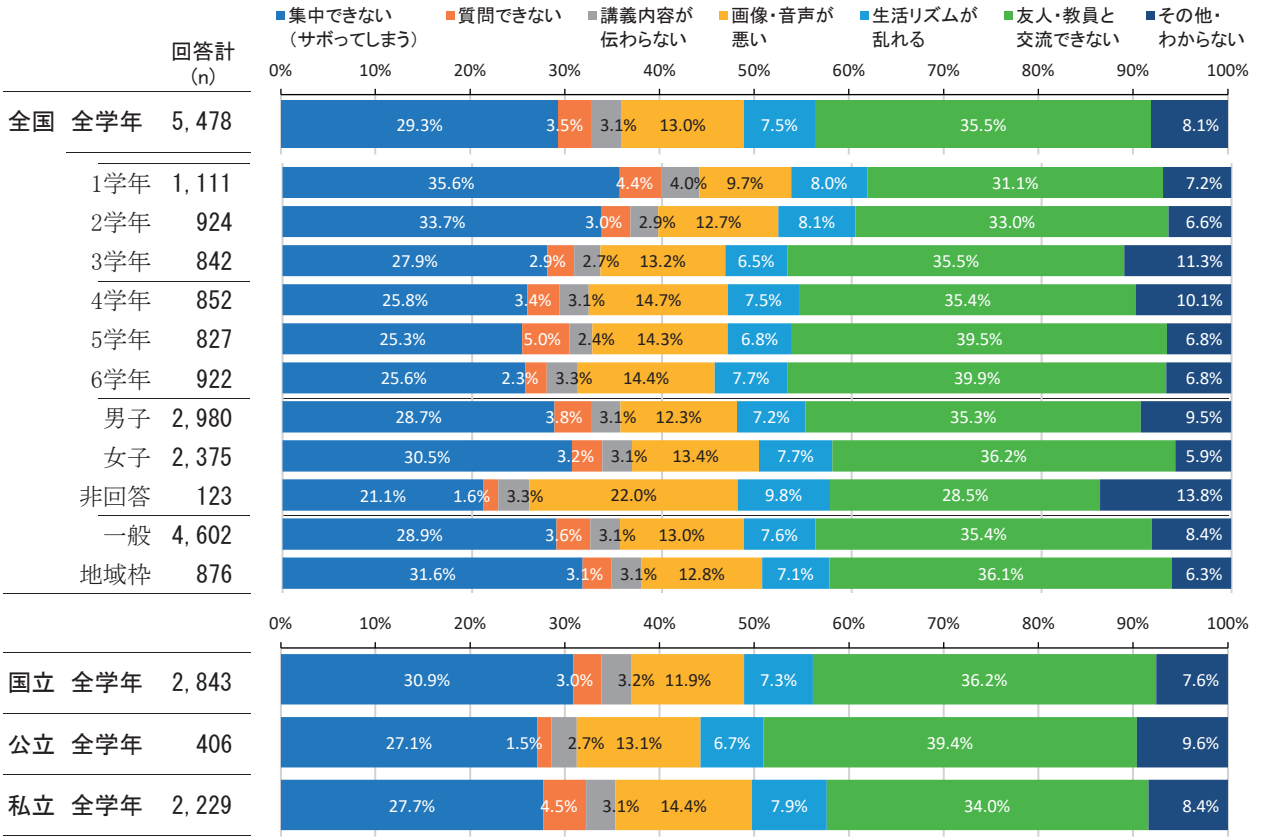
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問43. 遠隔講義の長所は何ですか。



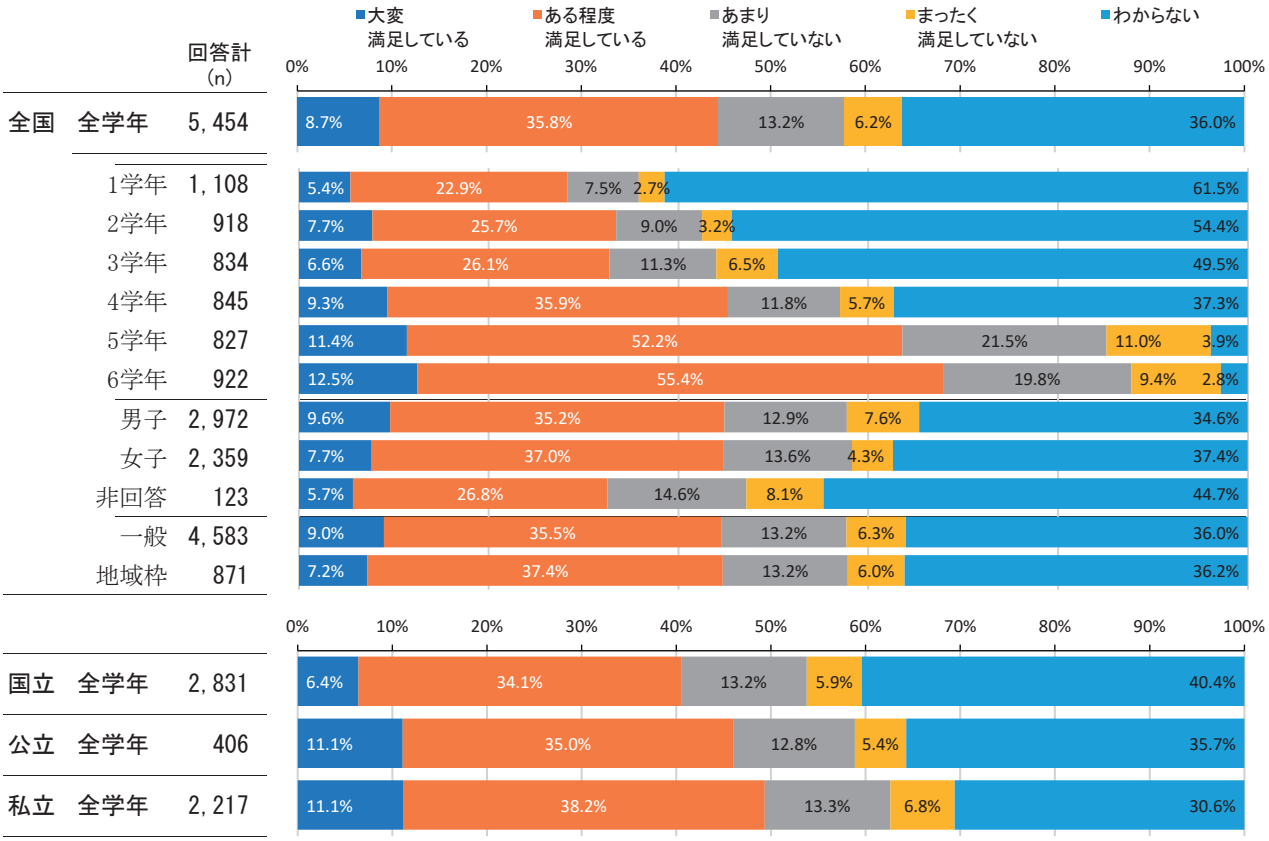
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問44. 遠隔講義の短所は何ですか。



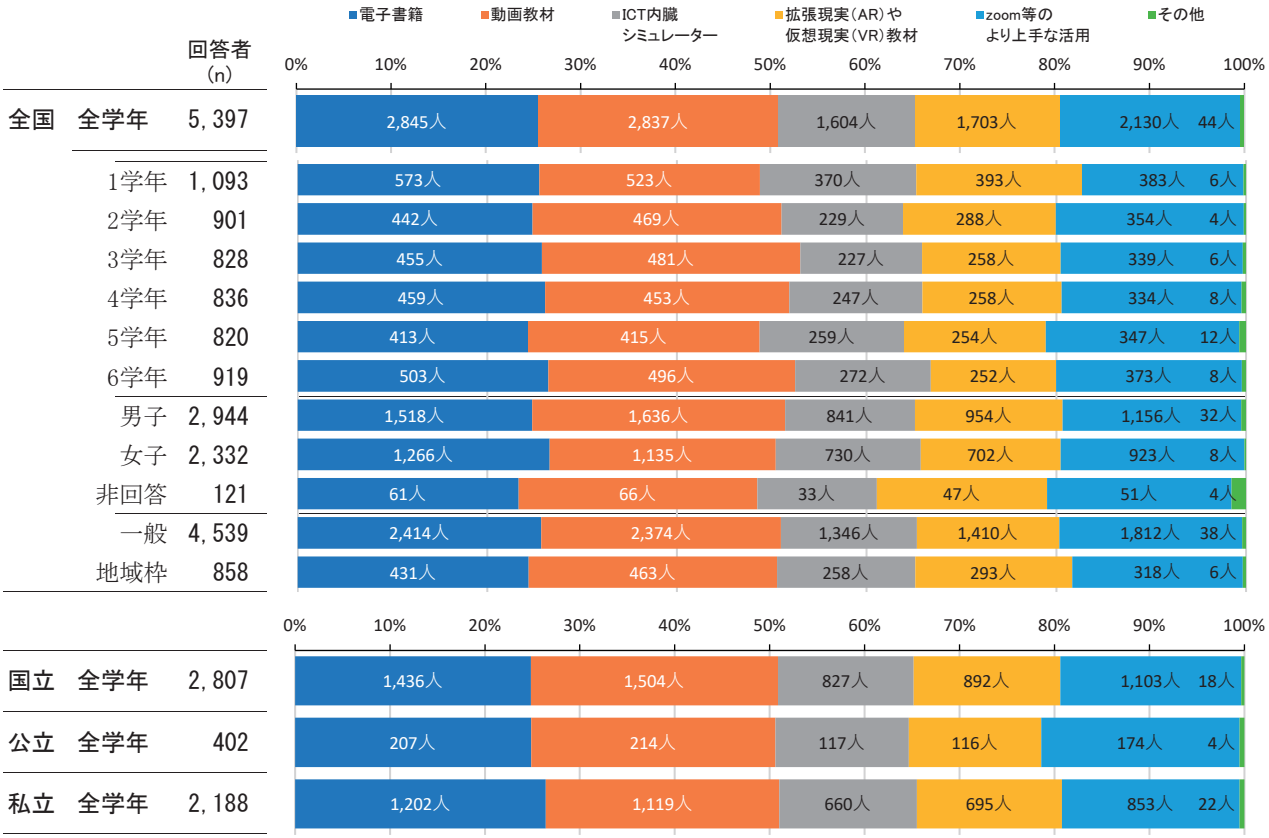
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問45. COVID-19に対して大学が行った臨床実習の形態の変更についてどう思いますか。



【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問46. 今後導入すべきICT等は何ですか。(複数回答可)

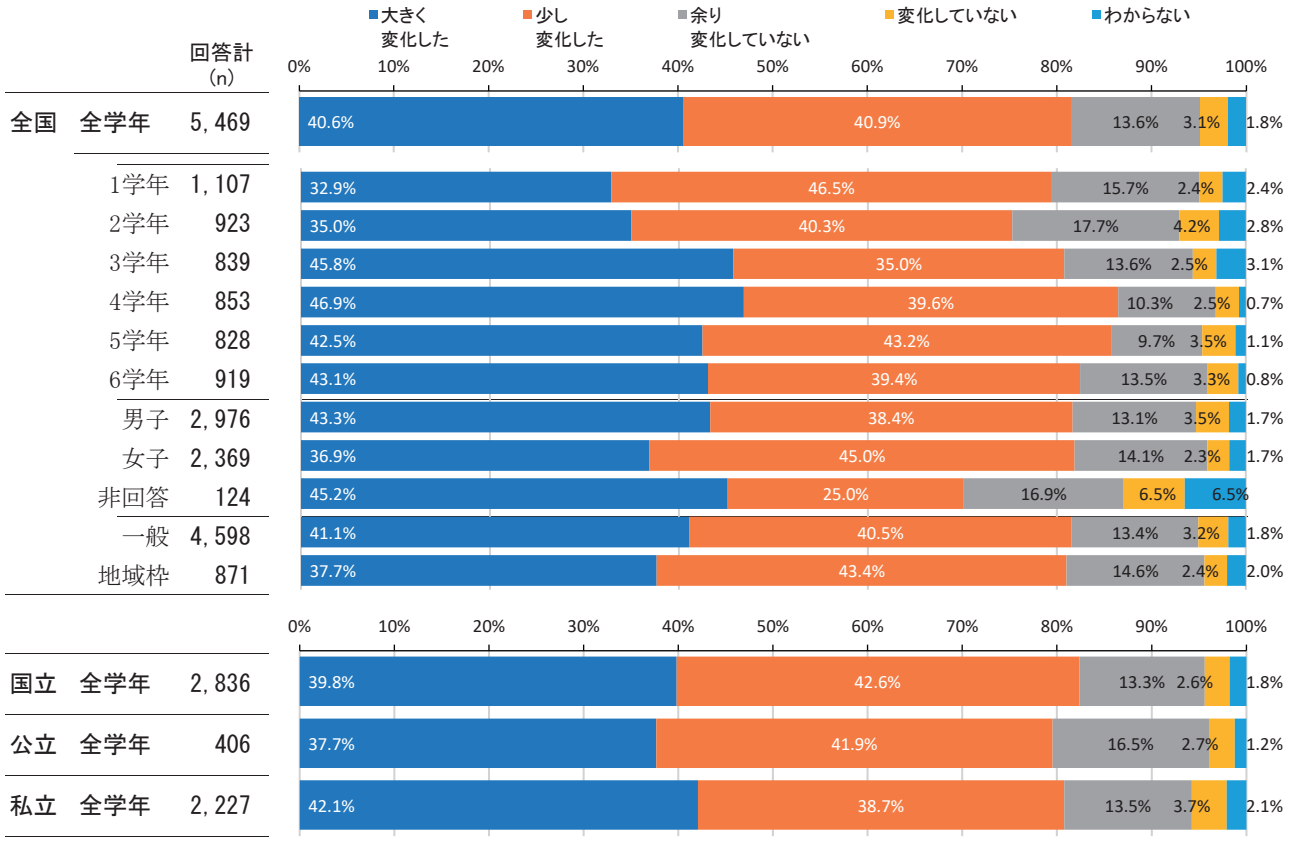


【その他】（記述回答）

- 病院内のwi-if整備
- 学内Wi-Fi（もはやICT以前の問題ですが……）
- 強固なwifi、ICT教育へのアクセスのための機材配布
- ICTが何かわからない
- ICTとは異なりますが、学生が実習中に自由に使える電子カルテを大学病院内に整備すべきと考えます。色々な職種の方に邪魔者扱いされるのは正直苦痛でした。
- ICT利用に関する教員教育
- iPadと学校の教材の連携により、どこでも復習や評価可能なもの
- MOOCs
- オンデマンド講義、オンライン講義をもっと充実させて欲しい
- オンラインで完結する成績発表、資料配布
- 全ての講義をオンデマンド化
- 教員側がZoomやBoxなどの媒体を統一すること。WebEx、Google Classroom、Zoomが全て混在しており、先生ごとに確認するのが面倒である。
- 教材や講義資料、オンデマンド講義などをいつでもどこでも見れるようなネットワーク
- 全ての講義資料を入れたクラウド型ストレージを利用できるようにして、好きな時にいつでも素早く閲覧でき、大量の資料を一括でダウンロードできるような仕組み
- 大学が出す授業やお知らせなどの情報を伝える掲示板的なウェブサイトやアプリの一元化
- 電子黒板を導入し、スライドと黒板の内容を1枚に統合して欲しい
- 安定した学生用電子カルテ
- 医学研究者、教育者、動画制作者から成る専門家グループに質の高い授業動画を作ってもらい、それを全国の医学部の教育に利用するのがいいと思う。現状の医学教育はとても分かりにくい。
- 各生徒の問題集形式などの演習に応じたAIによる学習補佐
- 学生課からの案内、各教室からの授業・評価等についての通知、そして教材が一目で確認できるような（大学内で）統一されたシステムの導入と上手な利活用
- テストの適切なfeedback
- なにより自由時間
- 学校と意思疎通がはかれるような、自由に質問できそれに返事が来るようなネット上の、学生掲示板
- 既存の学内システムの更新
- 教員と学生、若しくは学生同士のコミュニケーションツール
- 現状を超えたテコ入れは不要
- 今あるものの安定性や使いやすさを向上させる
- ない リアルな実習が一番
- 特に必要ない
- 必要ない
- わからない

【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問47. COVID-19に対してあなたの生活様式は変化しましたか。



2022年度 医学部・医科大学附属病院 臨床研修医アンケート結果

【設問１～４】回答者情報

国公私立、男女比、地域枠の割合などは学生アンケートと類似している。1年目と2年目の回答数に大きな差はなかった。

【設問5】出身大学のディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーを理解していますか

「良く理解している」「ある程度理解している」の合計は40％弱であった。学生アンケートの同じ質問の6年生の回答に類似している。1・2年目や男女間で差がないが、公立と私立の理解度がやや高かった。

【設問6】出身大学のディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーは現在の臨床研修に役立ちますか

「ディプロマポリシー、コンピテンス・コンピテンシーを知らない」が4割以上であった。「大変役立つ」「ある程度役立つ」の合計は約35％であった。国立で「ディプロマポリシー、コンピテンス・コンピテンシーを知らない」が多かった。

【設問7】医学部が現在の医学生に提供すべきものは何ですか

1位が「より充実した臨床実習」、2位が「学生が自由に使える時間」、以下、「クラブ活動」「海外留学の機会」「医学以外の学修機会」であった。

【設問8】教養教育の授業時間数についてどう思いますか

学生アンケートの回答と同傾向で、「適切」「概ね適切」の合計は58％であった。

【設問9】教養教育の科目の配分についてどう思いますか

学生アンケートの回答と同傾向だが、「現状のままでよい」がやや多かった。国立では「現状のままでよい」が少ない。

【設問10】英語教育の授業時間数についてどう思いますか

学生アンケートの回答と同傾向だが、「もっと減らすべき」が少なかった。

【設問11】基礎医学教育で改善が必要と思われる点は何ですか

「統合化」が約3分の1で最も多く、次いで「講義内容の削減」「実習の増加」であった。次回は「統合化」に向けた具体的な改善の内容を拾い上げるための質問項目の設定を検討すべきである。

【設問12】アクティブ・ラーニング（PBLやTBLなど）の学修効果についてどう考えますか

「大変有効である」「ある程度有効である」の合計は約63％で、全体に学生アンケートとほぼ同等であった。

【設問13】CBTのための学修は現在の臨床研修に役立っていますか

「大変役立っている」「ある程度役立っている」の合計は68％で、女子と公立でやや高かった。

【設問14】Pre-CC OSCEのための学修は現在の臨床研修に役立っていますか

「大変役立っている」「ある程度役立っている」の合計は78％で、女子と地域枠でやや高かった。

【設問15】Post-CC OSCEのための学修は現在の臨床研修に役立っていますか

「大変役立っている」「ある程度役立っている」の合計は76％で、女子、地域枠、私立でやや高かった。

【設問16】臨床実習で改善が必要と思われる点は何ですか

「経験手技の増加」の割合が約33%でもっとも多い回答であった。

【設問17】学内卒業試験（筆記試験）のための学修は現在の臨床研修に役立っていますか

「大変役立っている」「ある程度役立っている」の合計は62%で、女子、地域枠、私立でやや高かった。設問15のPost-CC OSCEの回答と同傾向であった。

【設問18】医師国家試験のための学修は現在の臨床研修に役立っていますか

「大変役立っている」「ある程度役立っている」の合計は90%と非常に高く、女子、地域枠で特に高かった。医師国家試験の適切性が支持される一方で、学生アンケートの設問26「国家試験合格のために最も役立つものは何ですか」の回答の過半が「予備校等の教材」であったことを併せて考えると、重要な問題の存在が示唆される。

【設問19】コロナ禍での講義の実施形態としてどれが望ましかったですか

複数回答であるが、「対面講義」が23%、「リアルタイム型遠隔講義」38%、「オンデマンド型遠隔講義」38%で、遠隔講義が多かった。学生アンケート設問42、「ポストコロナにおける講義の実施形態として、どれが望ましいですか」に対する回答よりも「リアルタイム型遠隔講義」の比率が高かった。

【設問20】コロナ禍での臨床実習はどうでしたか

「大変満足」「ある程度満足」の合計は約39%、「あまり満足できなかった」「まったく満足できなかった」の合計は50%であり、学生アンケート設問45の回答（特に5、6年生）と比較して明らかに満足度が低かった。男子より女子の満足度が低いことも特徴的である。

【設問21】ポストコロナにおける臨床実習で充実させるべきものはなんですか

「シミュレーション教育」が1位で約35%であった。「症例検討会」「代替講義」「遠隔実習」がそれに続いた。設問16の「臨床実習で改善が必要なもの」として「経験手技の増加」が最も多かったことを鑑みると、手技をできるだけ増やして、不足分はシミュレーション教育で補いたいと思っているようだ。ただし「その他」の記述回答からは、従来通りの臨床実習が必要であると考える回答者がいることもわかる。

【設問22】将来のキャリアについて、現時点でどのように考えていますか

「臨床医学」が回答数の約7割、「基礎医学」が1割で、「社会医学」「行政」が続くのは学生アンケートとほぼ同様の結果であった。一方、「まだ分からない」の回答が1割近くあった。国立では公私立よりも「基礎医学」「社会医学」「行政」が多く、「臨床医学」が少なかった。

【設問23】将来、博士（医学）の学位取得を目指していますか

「ぜひ取得したい」「できれば取得したい」の合計は約48%で、学生アンケート（約45%）と同水準であった。本項目は研究マインドの涵養と関連しており、研修医になっても増えないことは課題である。一般の方が地域枠より「取得したい」が多かった。国立では「ぜひ取得したい」の回答が多かった。

【設問24】将来、新専門医制度による専門医資格の取得を目指していますか

「ぜひ取得したい」が5割超、「できれば取得したい」を合わせて8割超を占めた。

地域枠の方が一般より「ぜひ取得したい」が多かった。

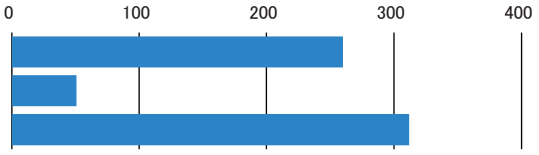
回答者情報

アンケート調査期間　2022年10月21日 ～ 2023年1月6日

	学生数	回答数	
全回答者数		623	人
有効回答数		623	人
（有効回答率）		100.0%	

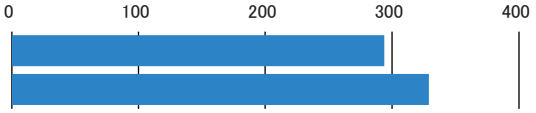
設立形態別

国立　（43校）	260	人
公立　（8校）	51	人
私立　（31校）	312	人
計	623	



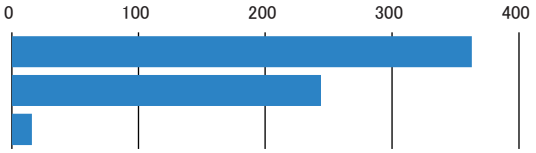
研修年数

1年目	294	人
2年目	329	人
計	623	



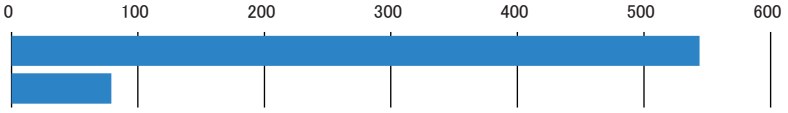
性別

男子	363	人
女子	244	人
非回答	16	人
計	623	



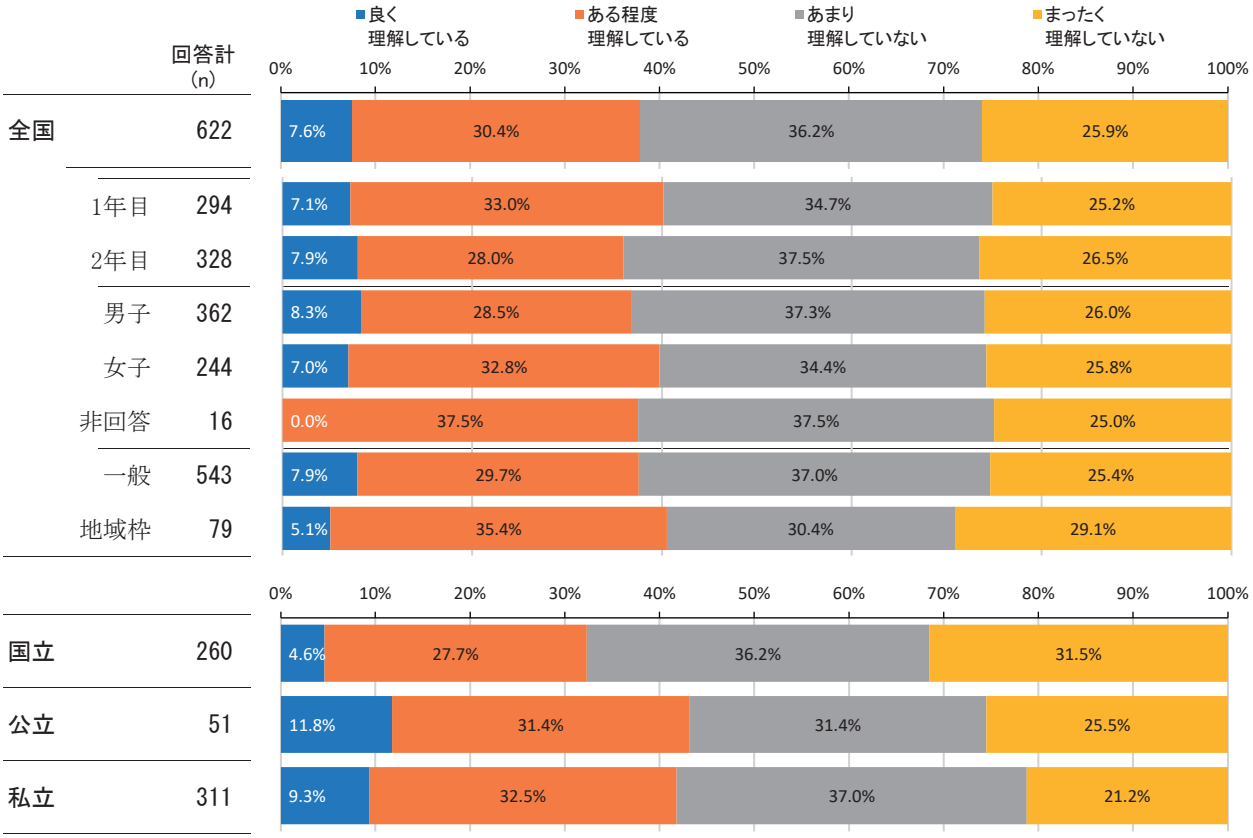
入学者選抜形態別

一般入試	544	人
地域枠入試	79	人
計	623	



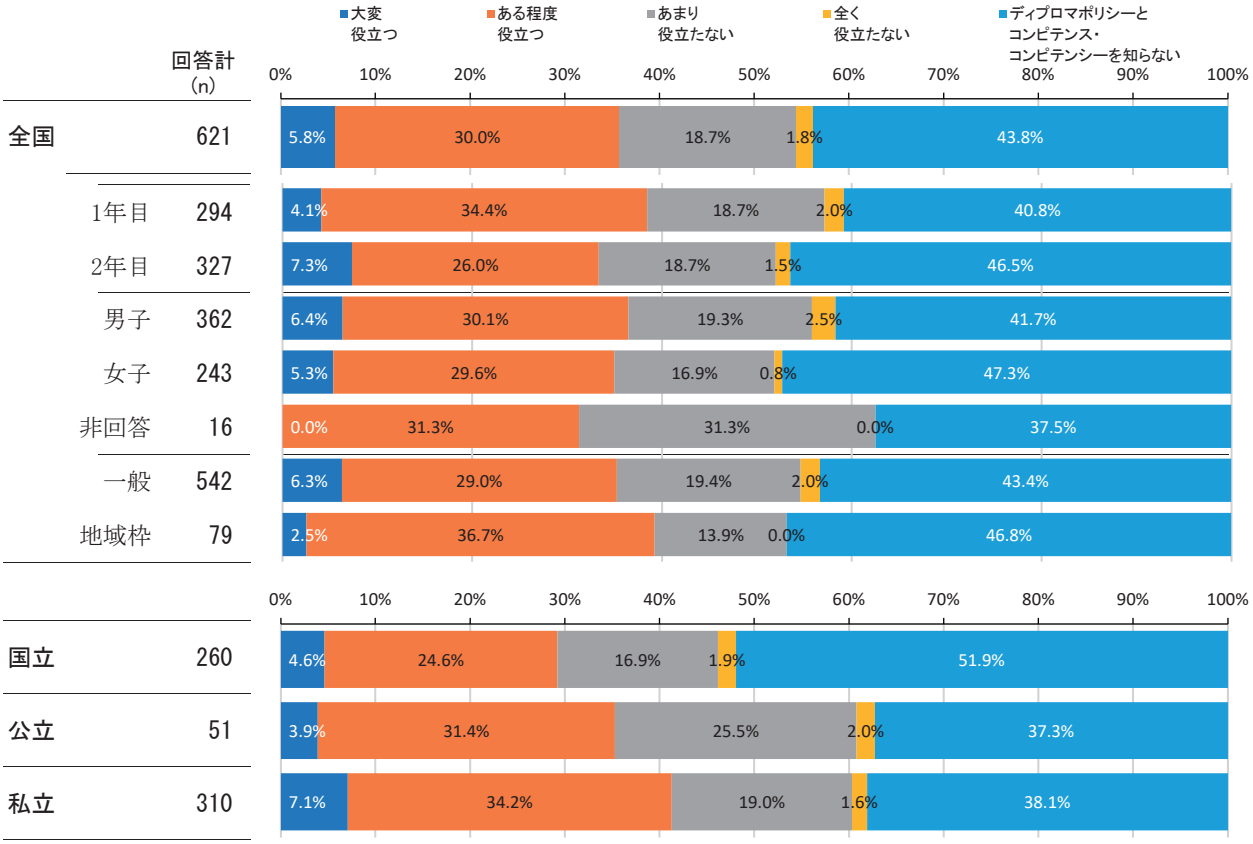
【医学部での学修について 】

設問5. 出身大学のディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーを理解していますか。



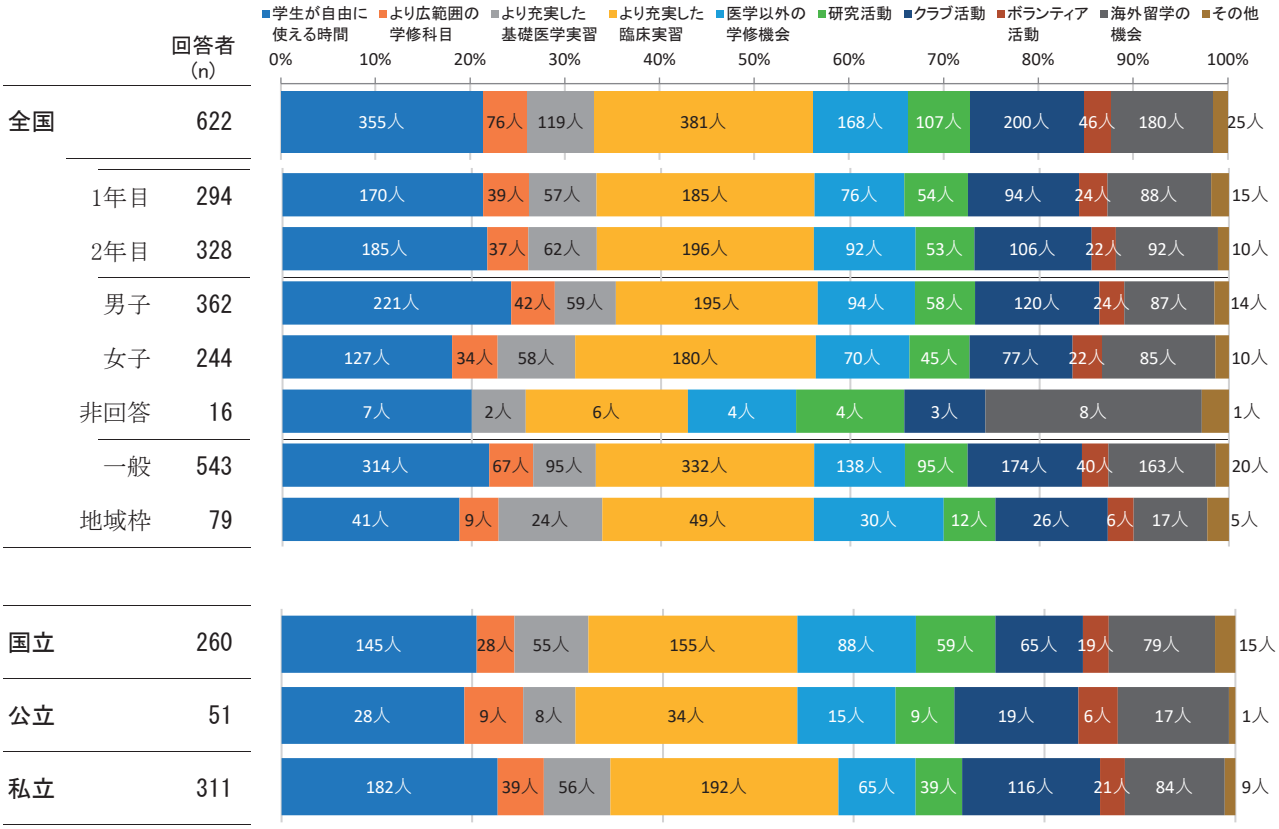
【医学部での学修について 】

設問6. 出身大学のディプロマポリシーとコンピテンス・コンピテンシーは現在の臨床研修に役立ちますか。



【医学部での学修について 】

設問7. 医学部が現在の医学生に提供すべきものは何ですか。(複数回答可)

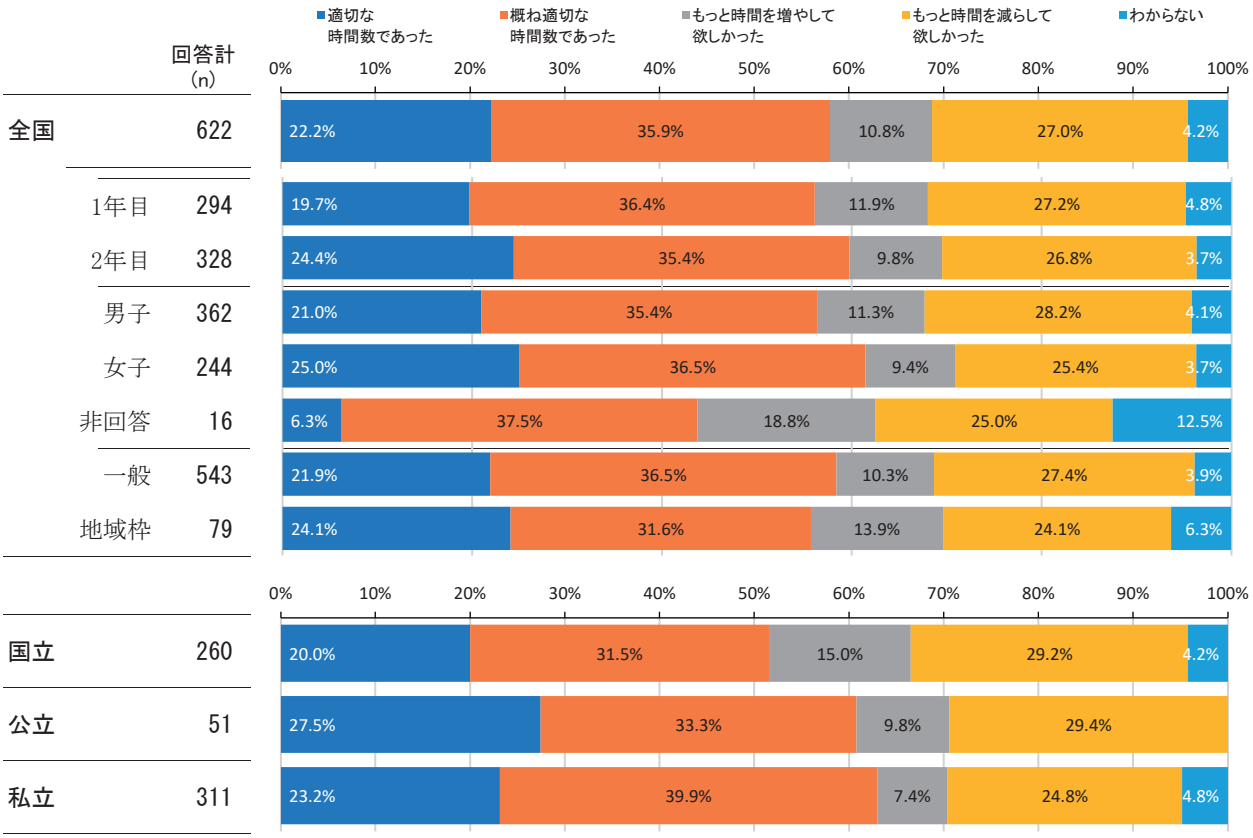


【その他】

- 勉強場所
- 自主勉強時間の確保
- 臨床医として必須の知識、技術の教育機会
- 人とのコミュニケーションや、労働するにあたり大切なことを学ぶ機会
- 自由・学問の魅力と実用性。一方通行の講義はわずかでよい。質疑応答・議論の時間を増やしたい。
- 自由時間＝試験前の勉強期間(その時期以外だと遊ぶため)
- 学会、勉強会等の参加
- 勉強できる場所の提供
- 倫理教育
- 就職活動の情報提供
- 低学年からの基礎医学分野・臨床医学(座学)の学習開始
- 自習施設
- 24時間利用可能な自習室など
- 快適な自習環境
- 他地域への就職の自由
- そのまま
- 補足:充実した臨床実習の内容として、時間的拘束を伸ばすと言う意味ではなく、医師として最低限できなければならないこと(初回面談、カルテ作成、アセスメント、プレゼンなど)の実情が見学・経験できる場がもっと欲しかった。
- 自身の社会貢献が将来の医療を支える礎となることへの理解
- 勉強のできる個人のデスク(医局提供も可
- 学会参加
- 医学部を卒業していなくても医師国家試験を受験する権利
- 授業内容の見直し、授業の効率化
- 他大学医学部医学科との交流
- 情報を得る機会
- 政治経済、投資、保険などについて社会人で必要になるが教わる機会のないものの学習

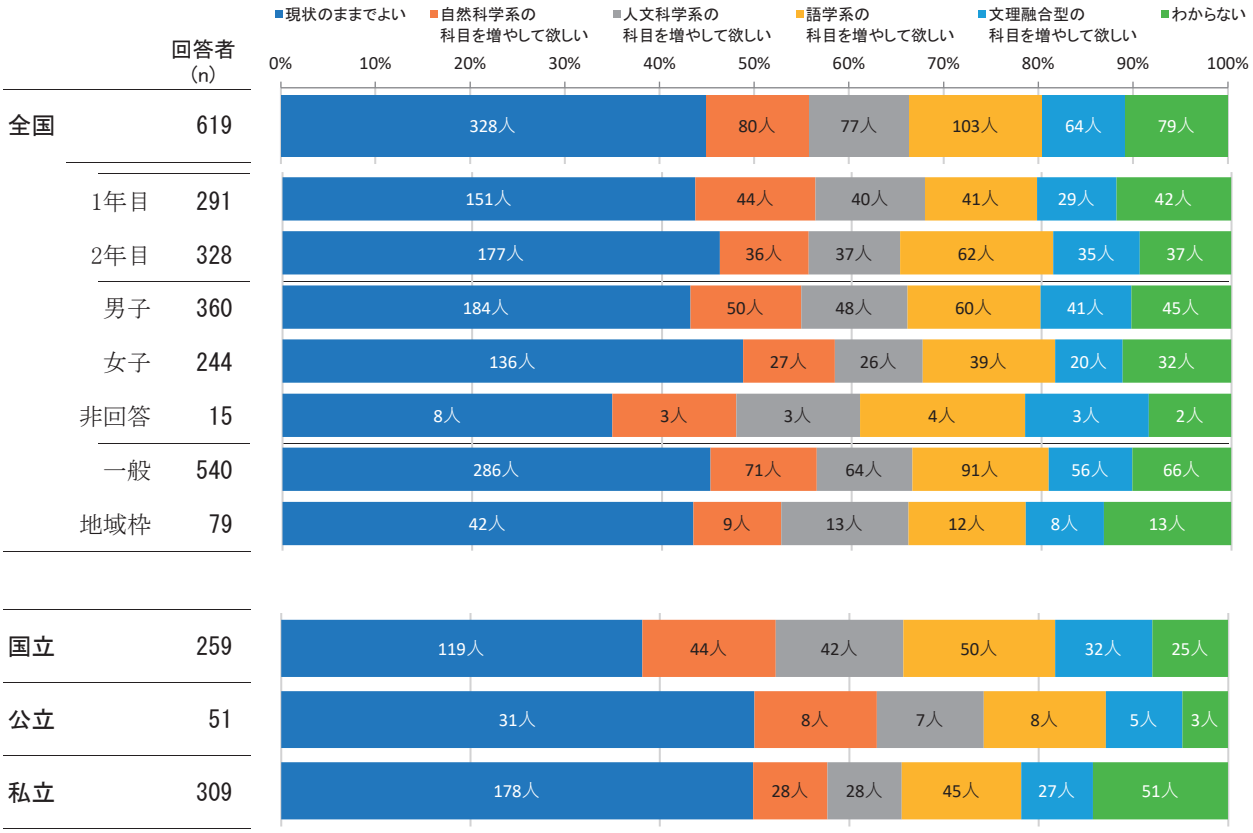
【医学部での学修について 】

設問8. 教養教育の授業時間数についてどう思いますか。



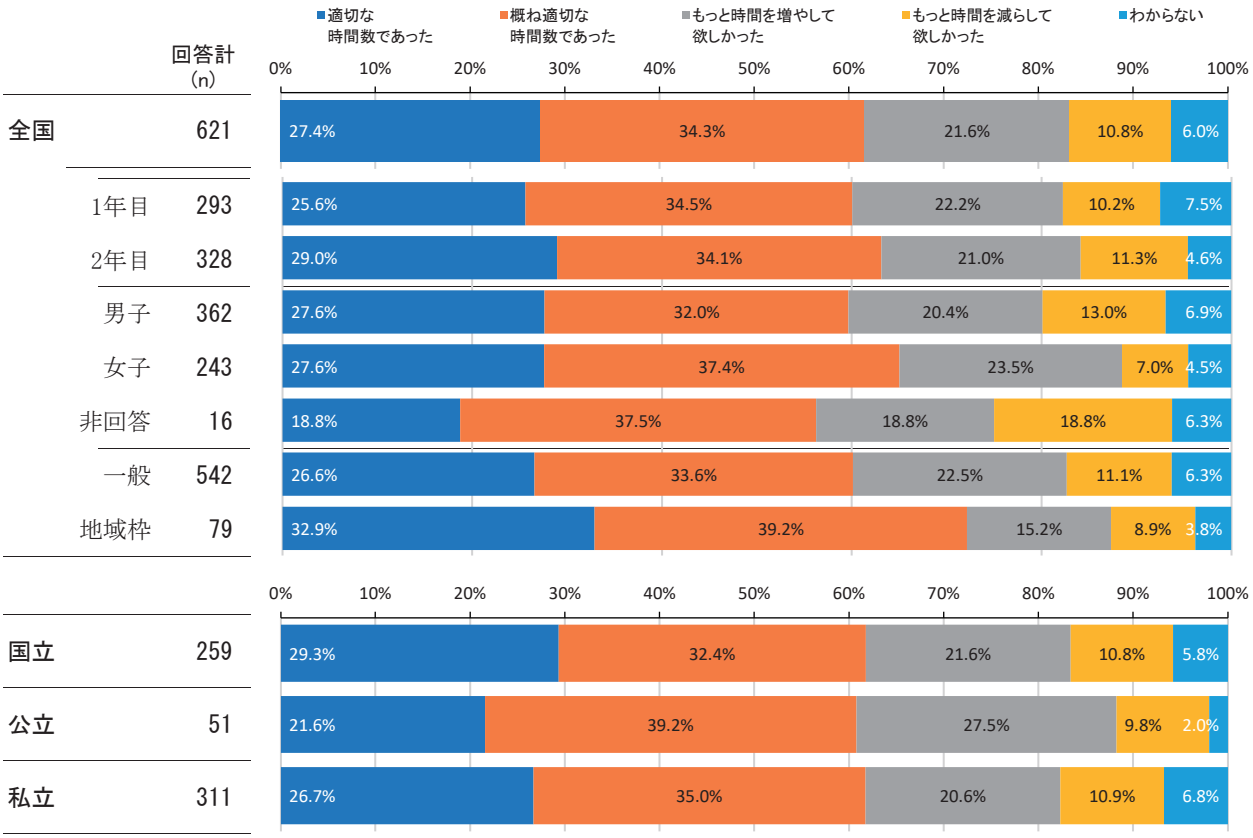
【医学部での学修について 】

設問9. 教養教育の科目の配分についてどう思いますか。（複数回答可）



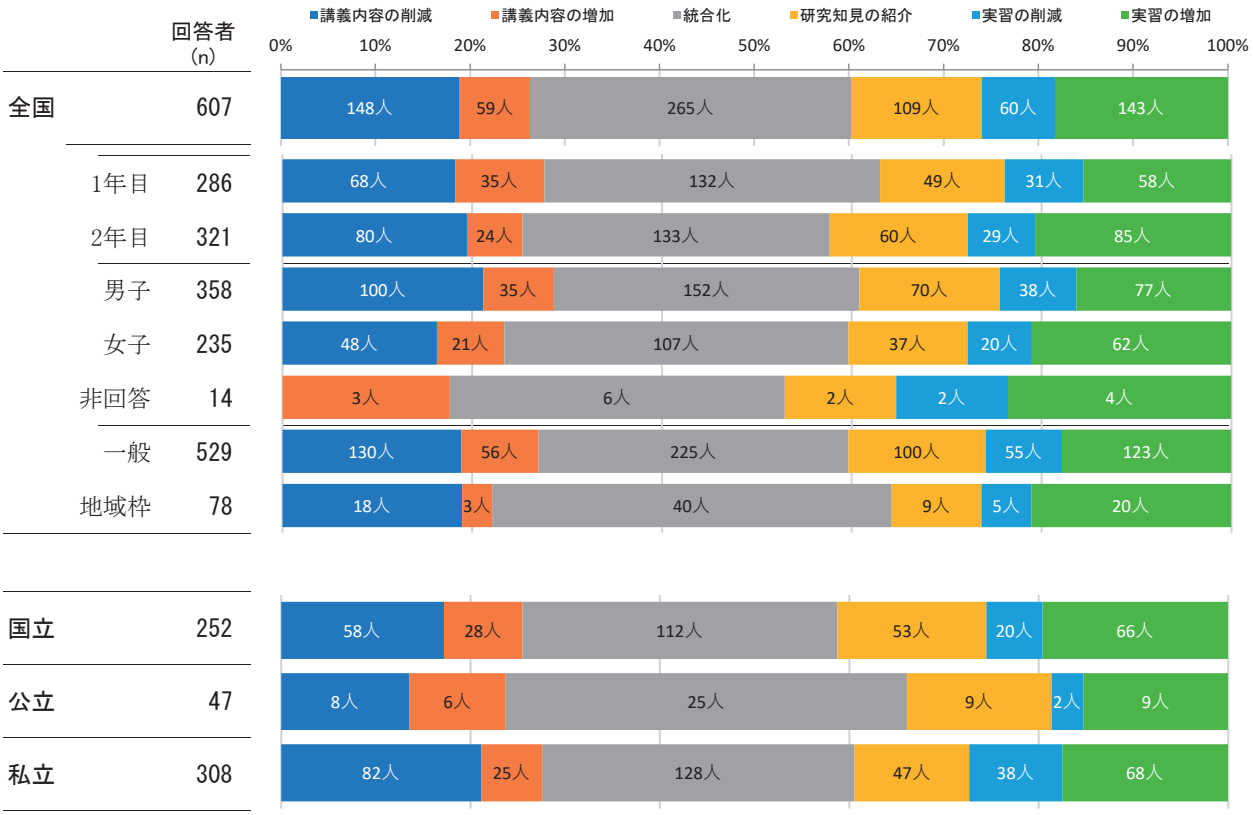
【医学部での学修について 】

設問10. 英語教育の授業時間数についてどう思いますか。



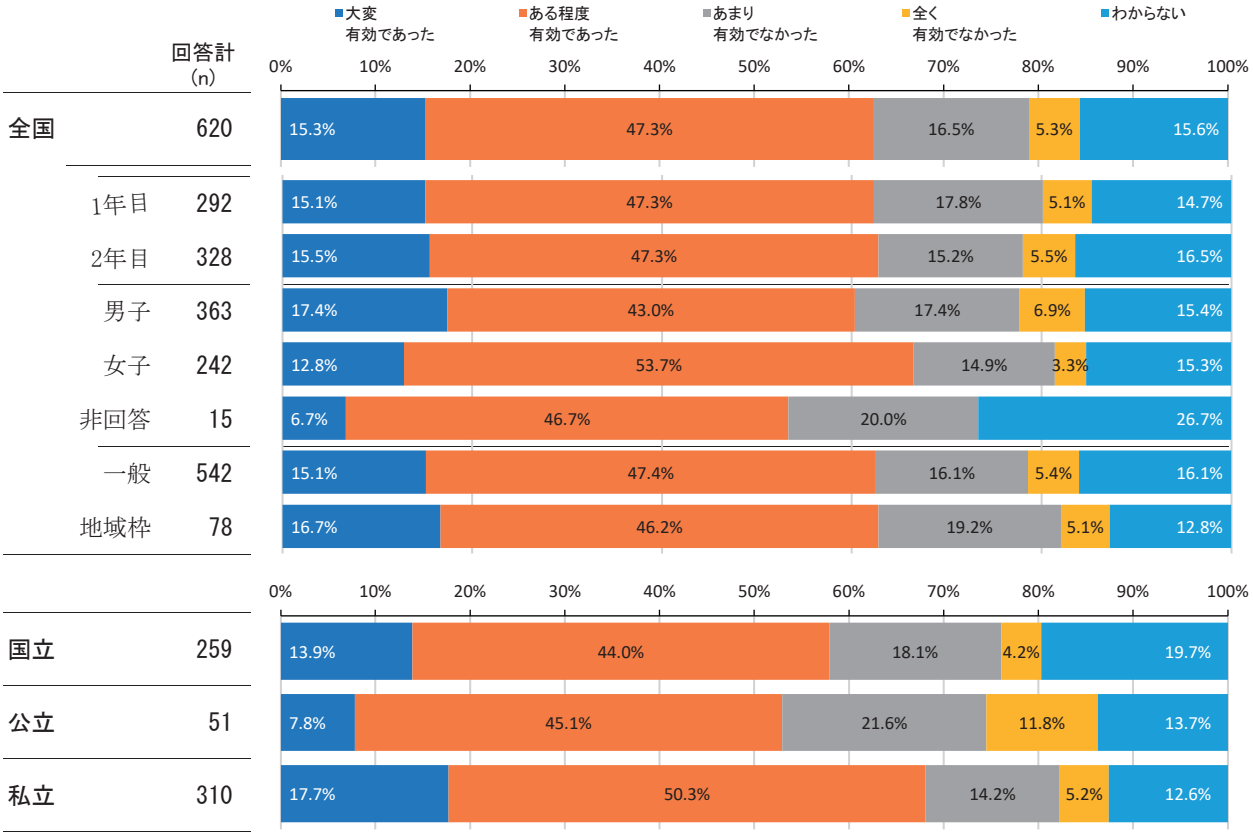
【医学部での学修について 】

設問11. 基礎医学教育で改善が必要と思われる点は何ですか。（複数回答可）



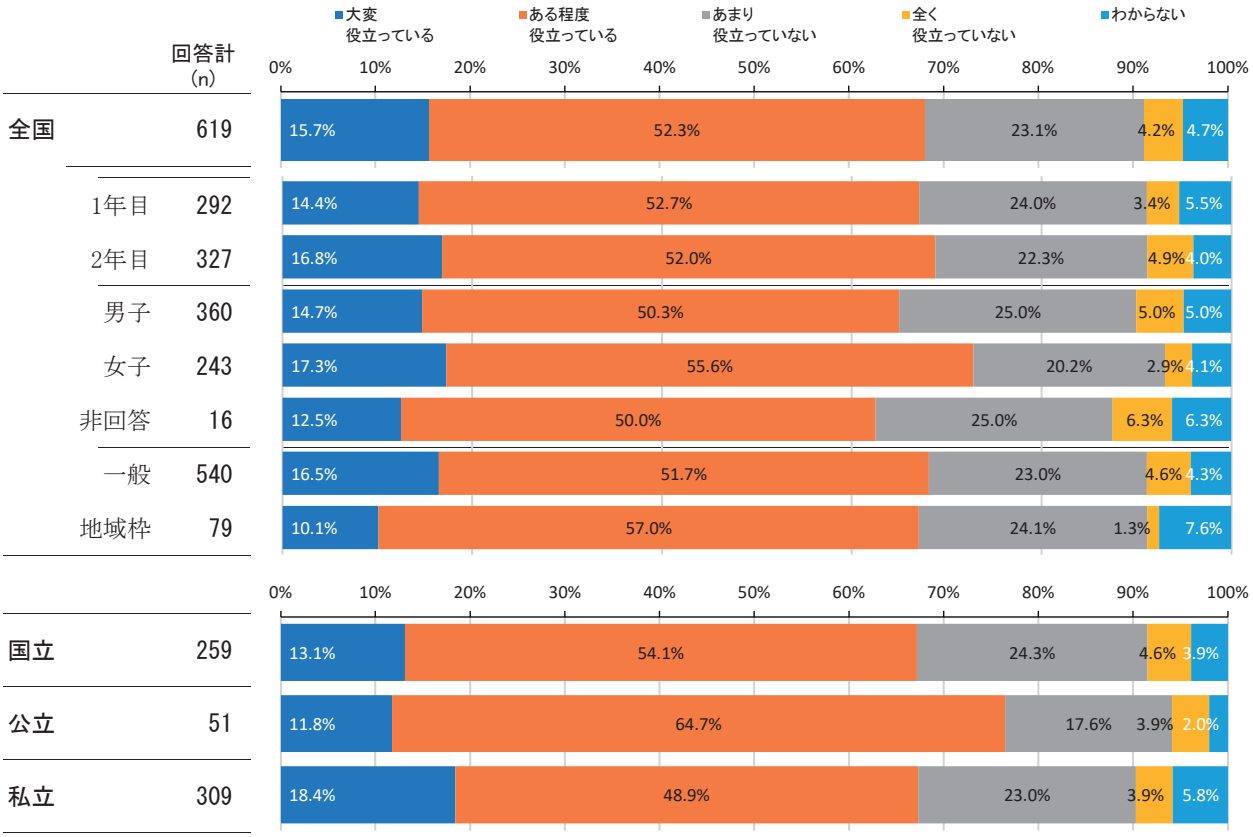
【医学部での学修について 】

設問12. アクティブ・ラーニング(PBLやTBLなど)の学修効果についてどう考えますか。



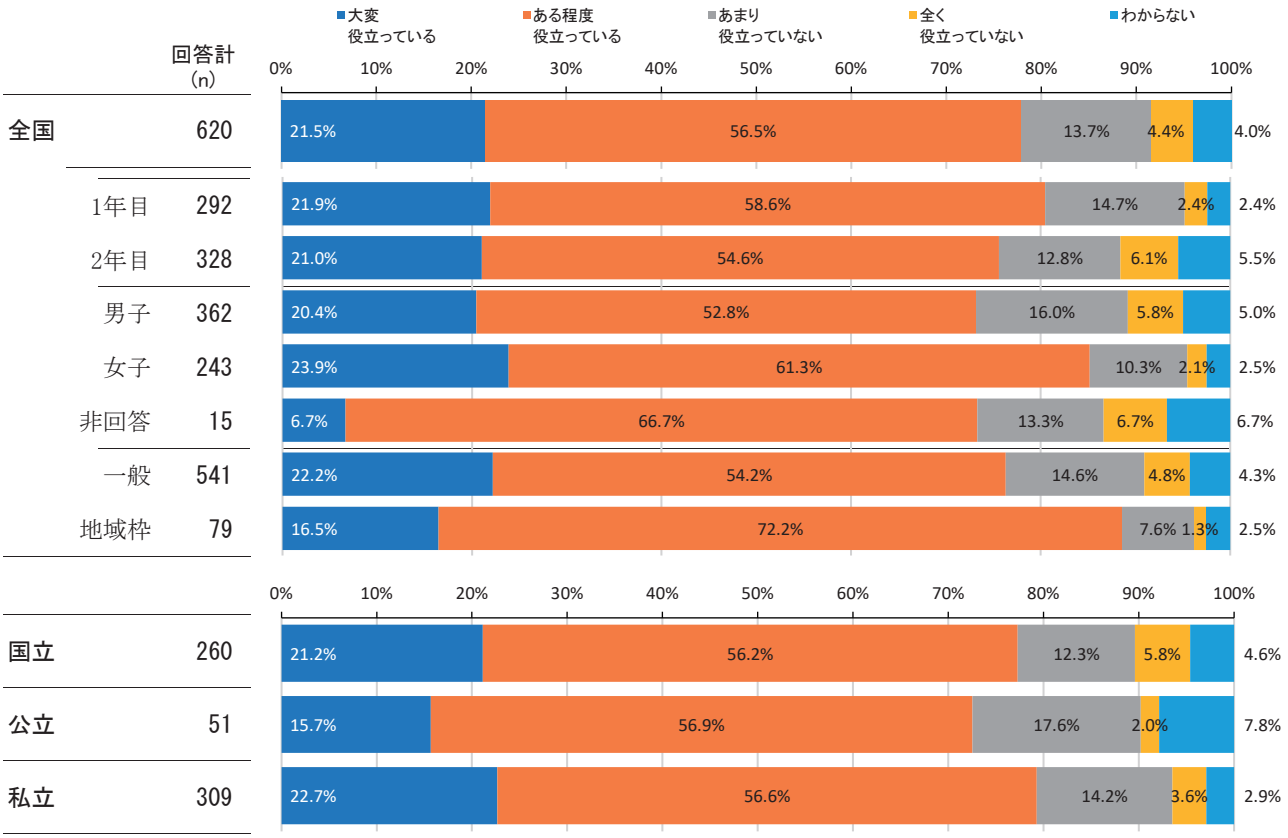
【医学部での学修について 】

設問13. CBTのための学修は現在の臨床研修に役立っていますか。



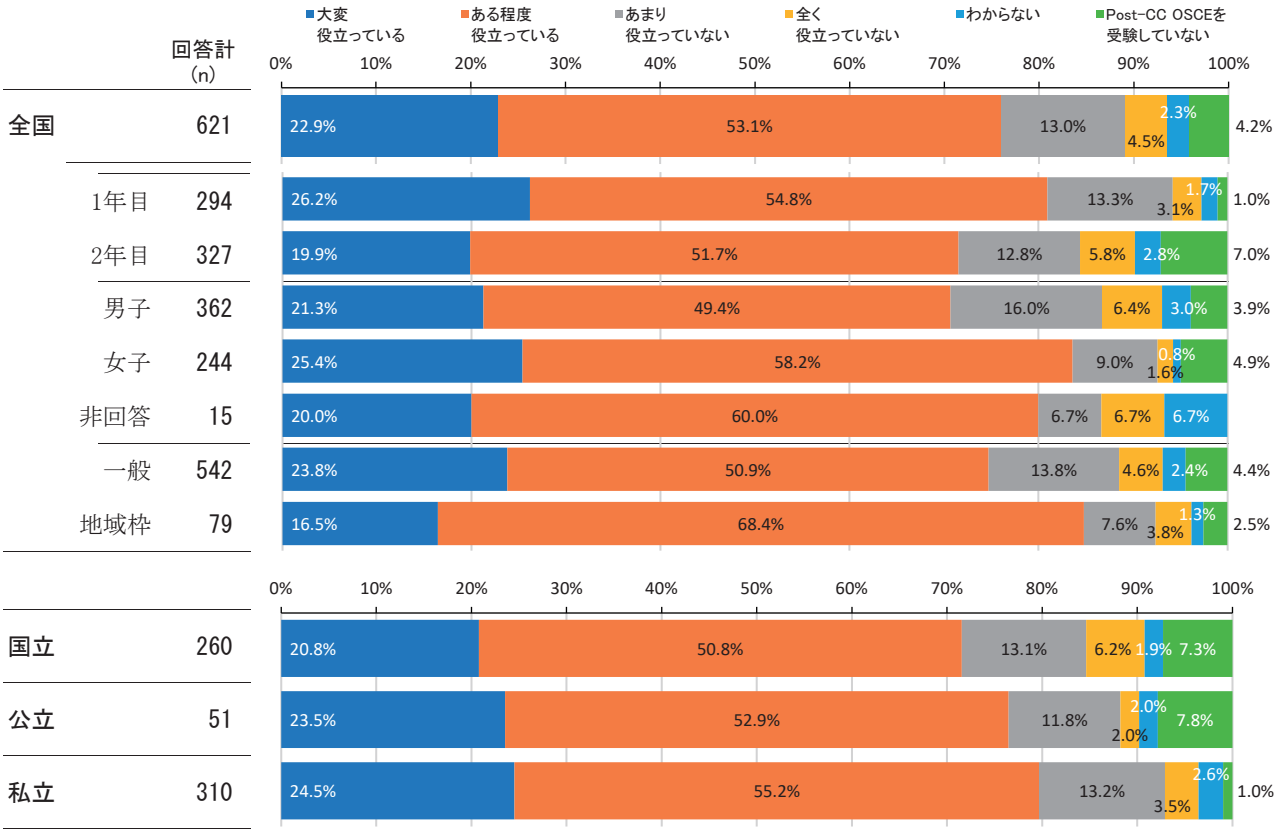
【医学部での学修について 】

設問14. Pre-CC OSCEのための学修は現在の臨床研修に役立っていますか。



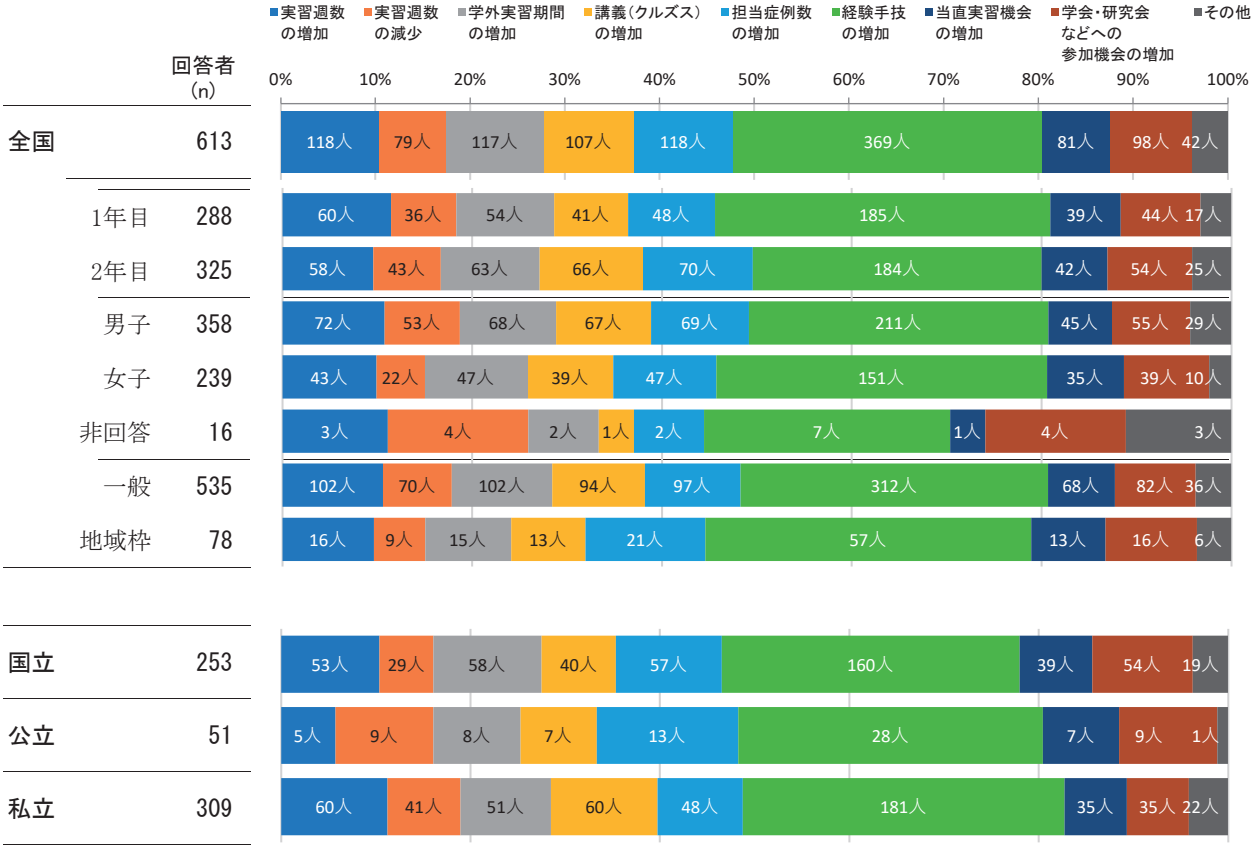
【医学部での学修について 】

設問15. Post-CC OSCEのための学修は現在の臨床研修に役立っていますか。



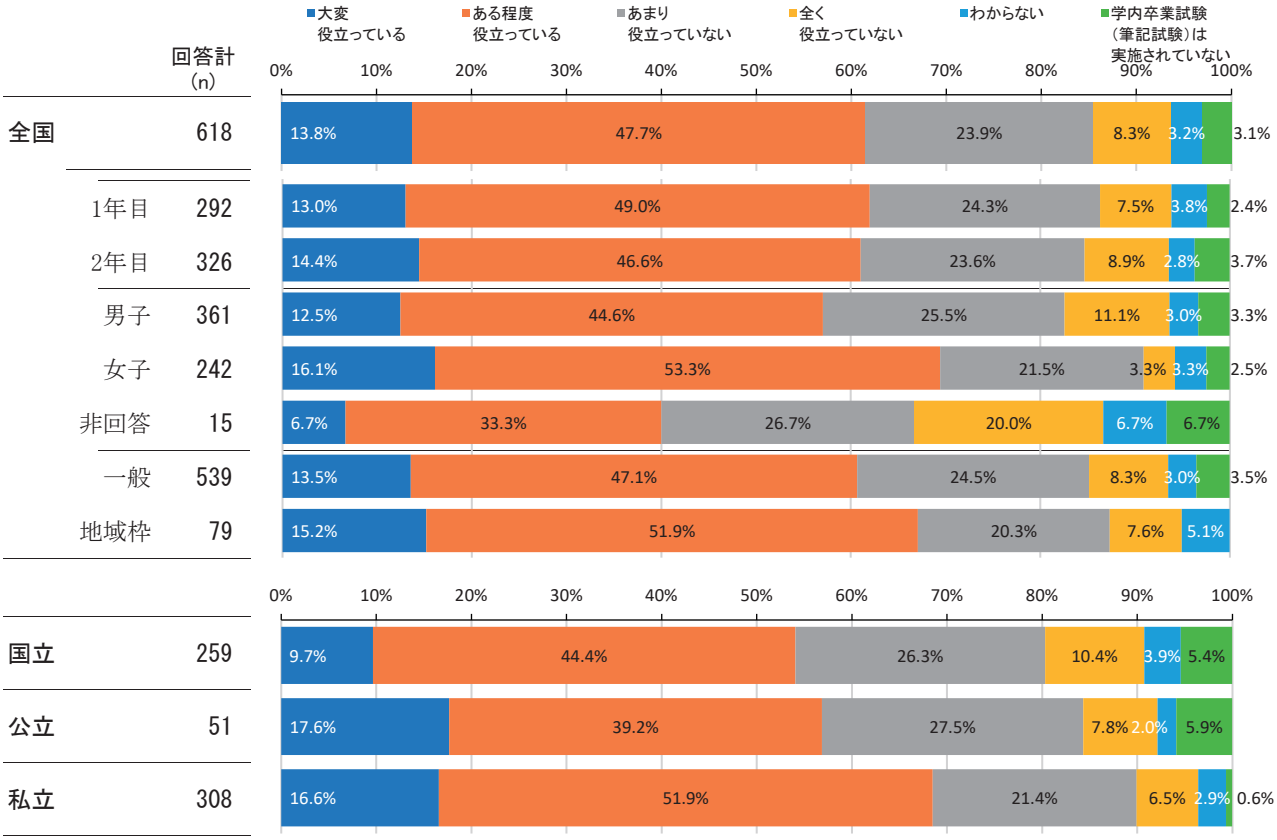
【医学部での学修について 】

設問16. 臨床実習で改善が必要と思われる点は何ですか。（複数回答可）



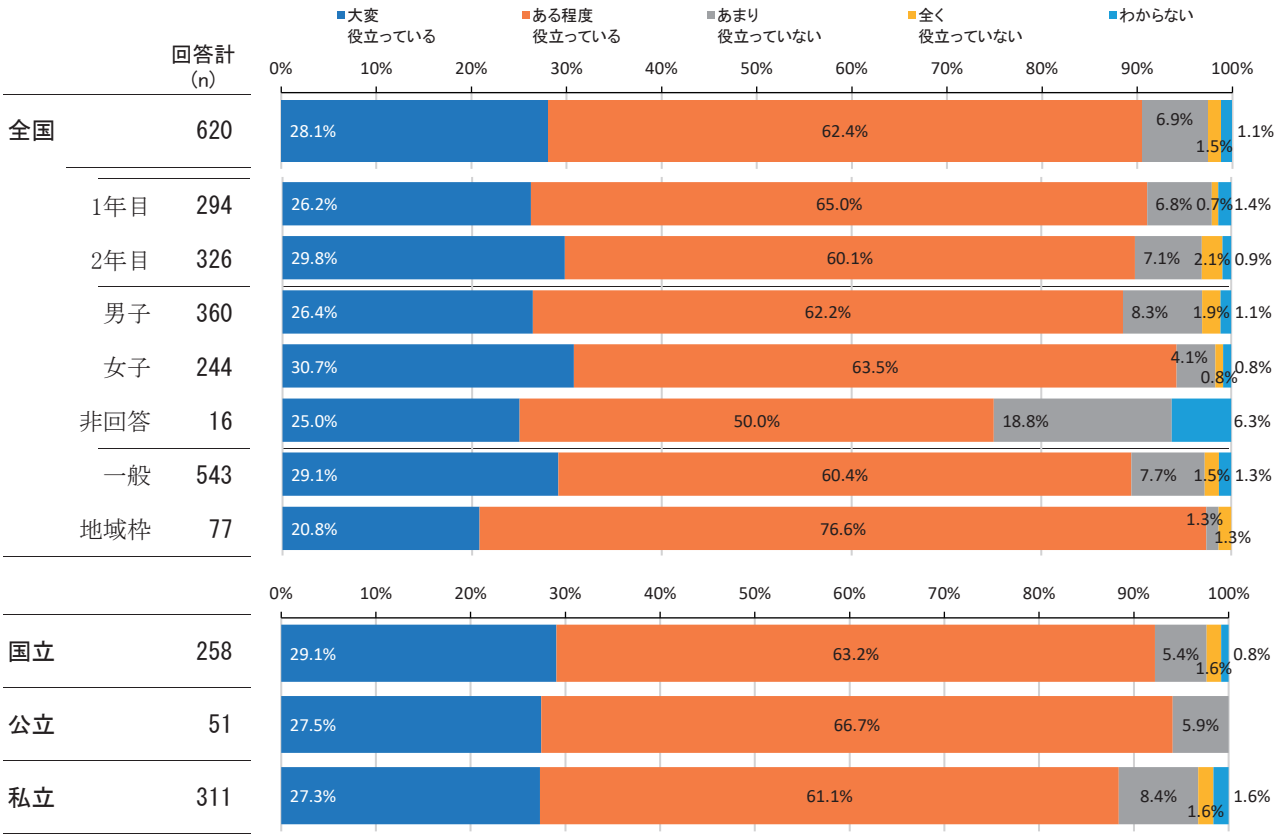
【医学部での学修について 】

設問17. 学内卒業試験（筆記試験）のための学修は現在の臨床研修に役立っていますか。



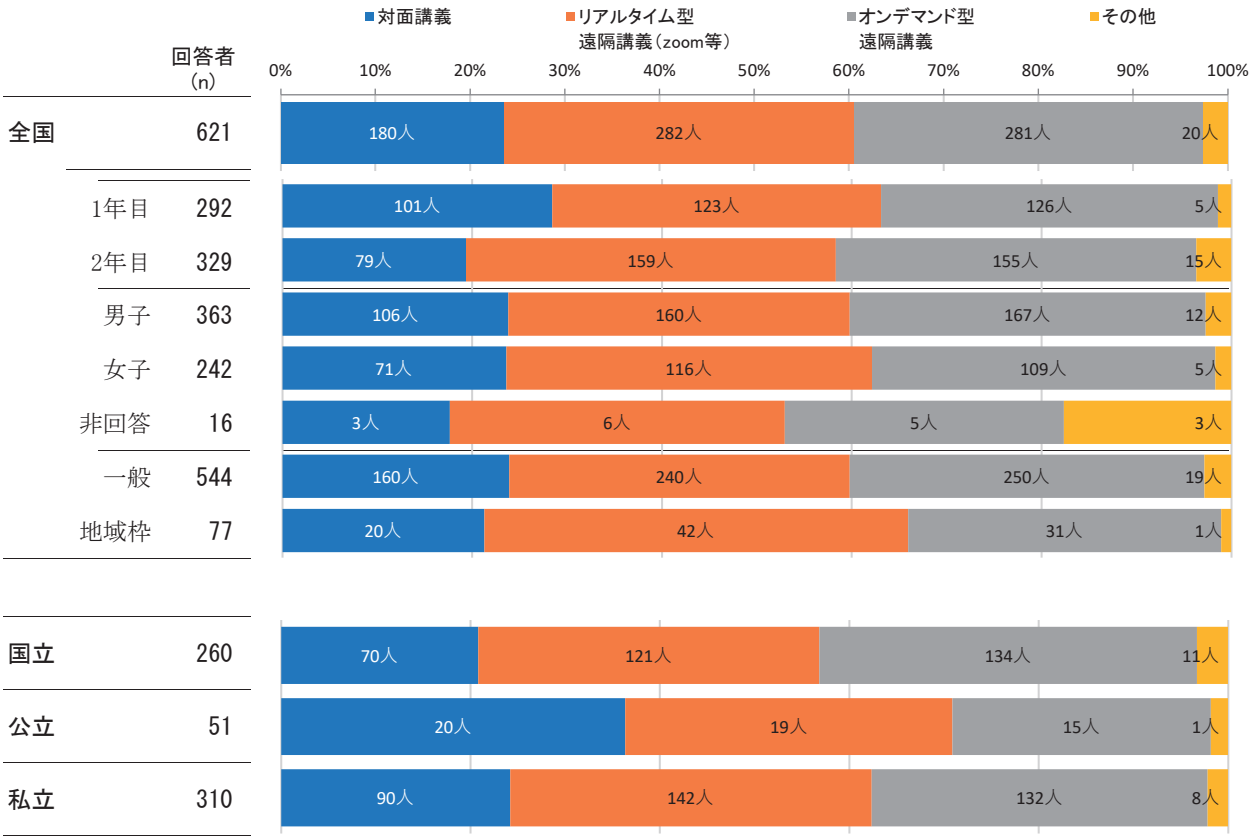
【医学部での学修について 】

設問18. 医師国家試験のための学修は現在の臨床研修に役立っていますか。



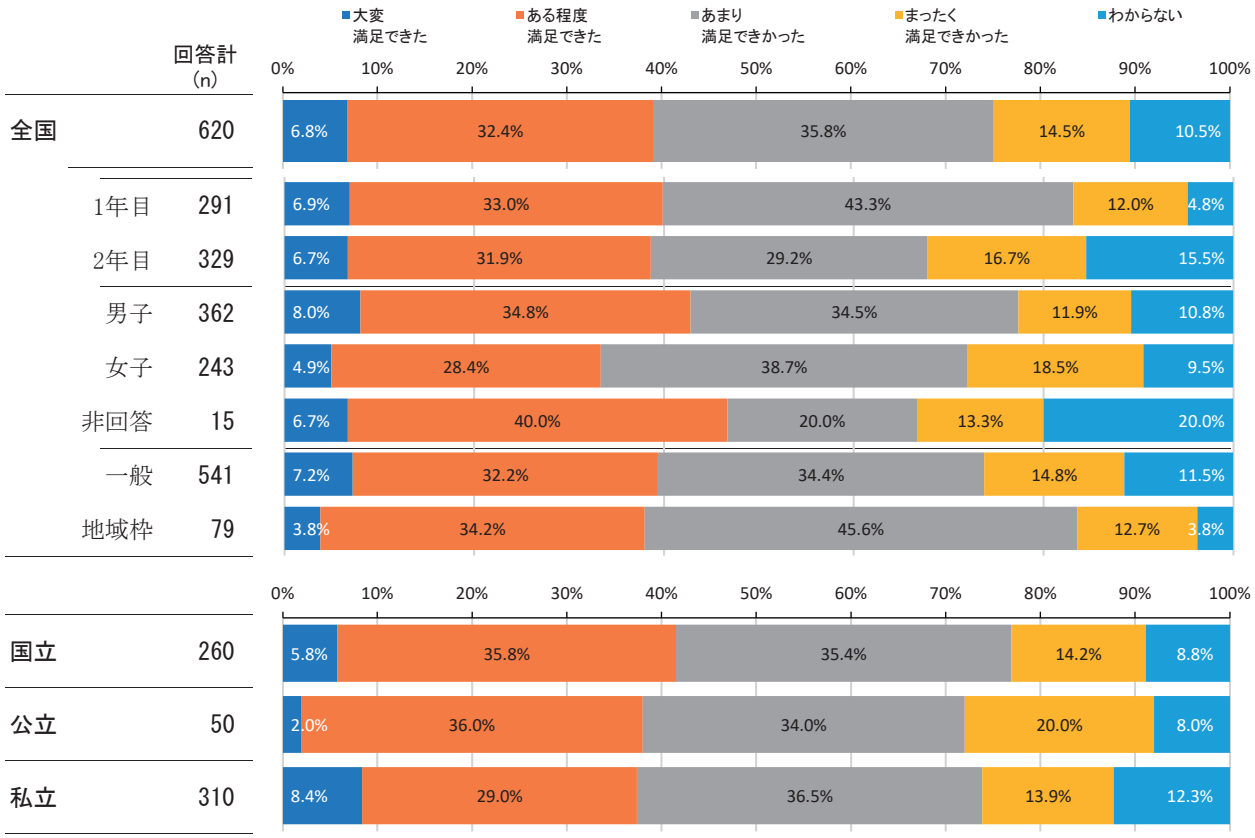
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症) 】

設問19. コロナ禍での講義の実施形態としてどれが望ましかったですか。(複数回答可)



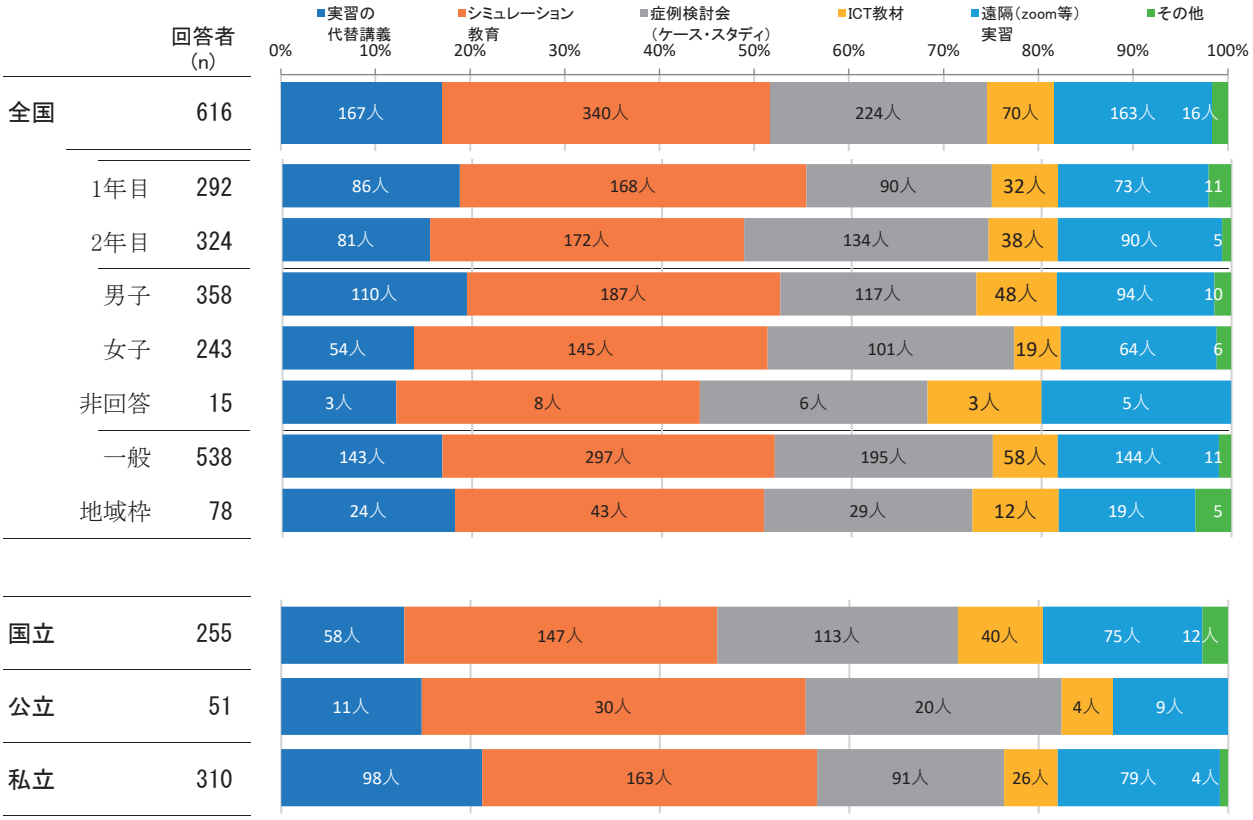
【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問20. コロナ禍での臨床実習はどうでしたか。



【COVID-19(新型コロナウイルス感染症)】

設問21. ポストコロナにおける臨床実習で充実させるべきものは何ですか。(複数回答可)

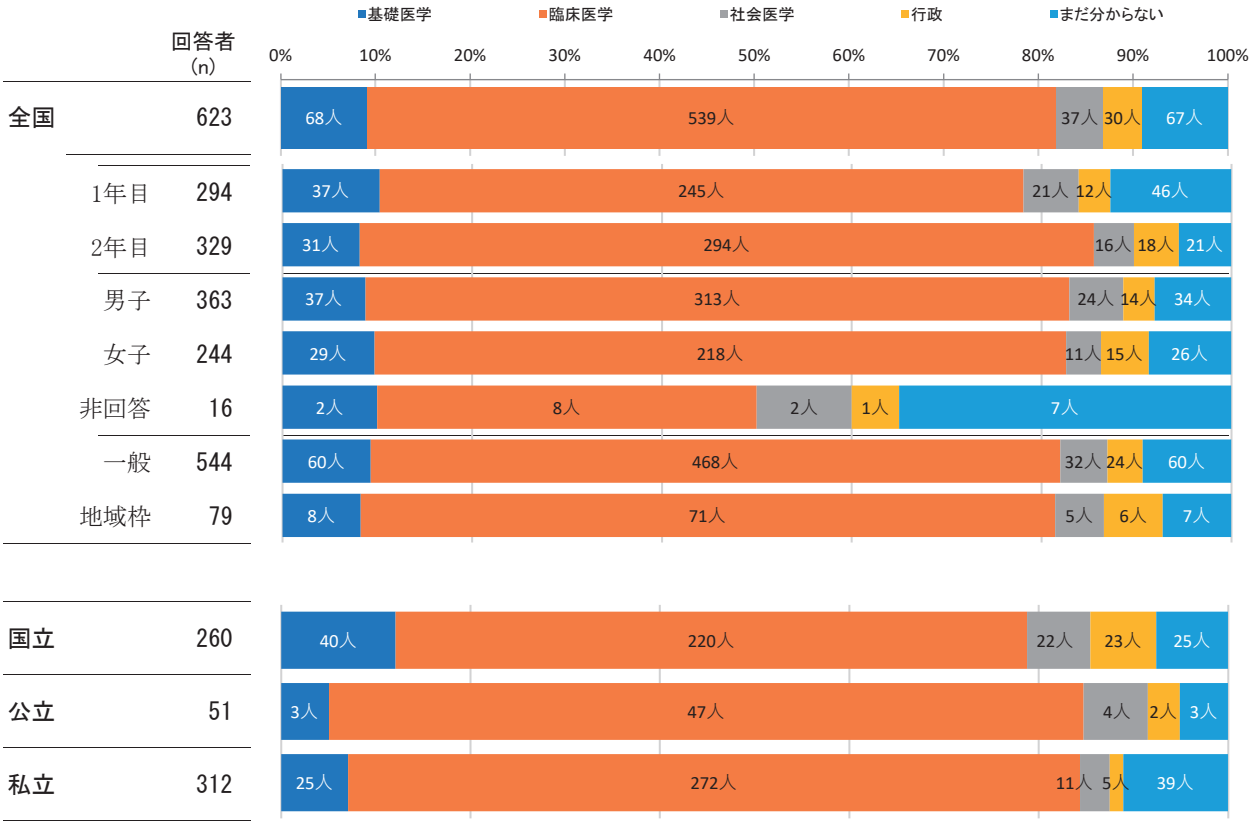


【その他】

- 教員の熱意。実習の密度。カリキュラムの立案者は医師同様に医学生も時間に追われている現実を考慮すべき。エポックシステム然り忙しい日々の中で2度と読み返さないレポート作成や出来の悪いレクチャーを聞いたり術野の見えないオペ見学をして学生の意欲を奪うな。本気で取り組んで改善しないのはお役所の怠慢で憤りを覚える。
- 実際の医療経験
- コロナ禍でも従来の実習が必要と思う。
- 不明
- かつてのままの臨床実習で良いはず
- 自主学習のサポート体制
- 実地実習が理想的です。
- 実際に働いてみると、「どうしてこの手技の際にはこの薬剤が必要なのだろう」や、「これをするタイミングはどこを見て判断しているのだろう」と思うことが多々ありました。臨床医は日々何を見て何を考えているのか、症例検討などを通して学生のうちに学んでおきたかったです。
- 病院での実習を行うべき
- コロナ期に実習しておらず分かりません
- VRなどの活用
- 実地実習。代替不可。
- ベッドサイドでの診療参加機会
- 実際に患者に接する診察、コロナ陽性患者の診察(感染予防対策の練習や発熱の原因鑑別)
- 自習時間

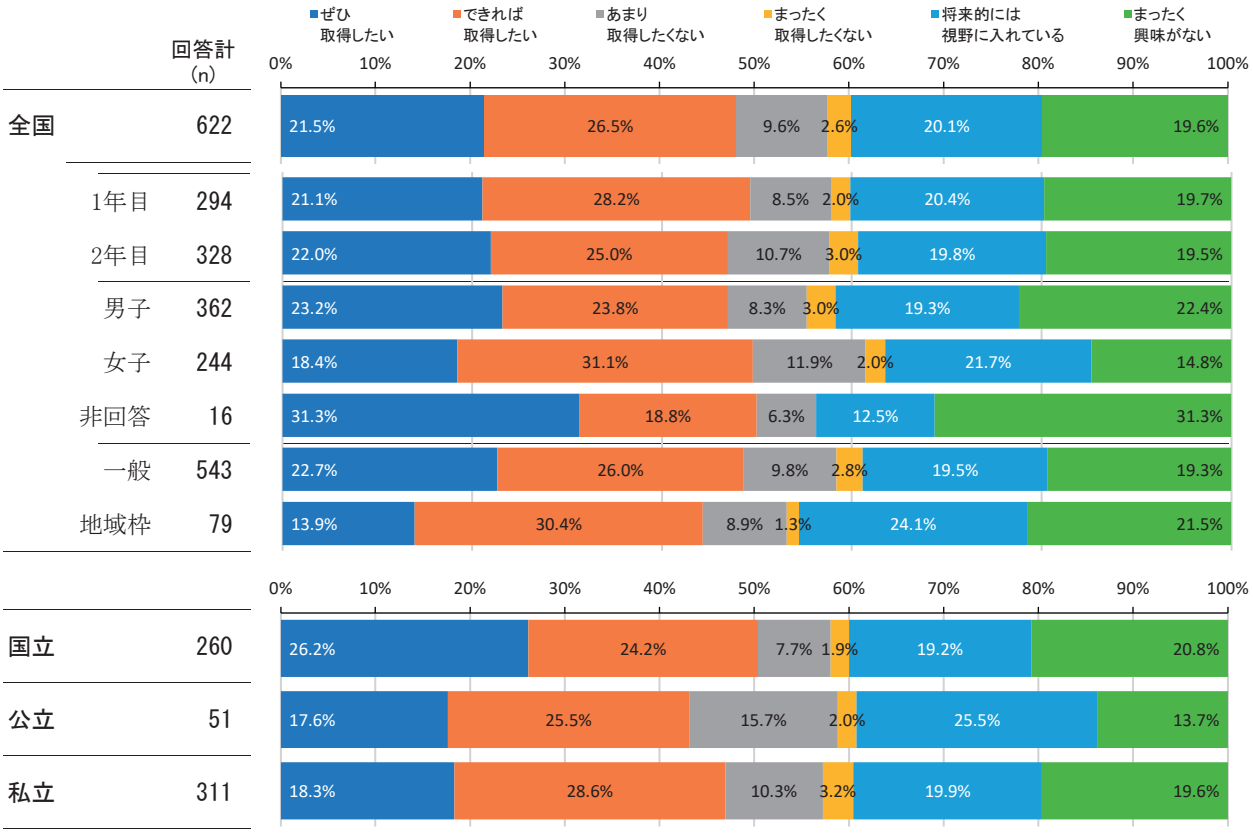
【医師キャリア 】

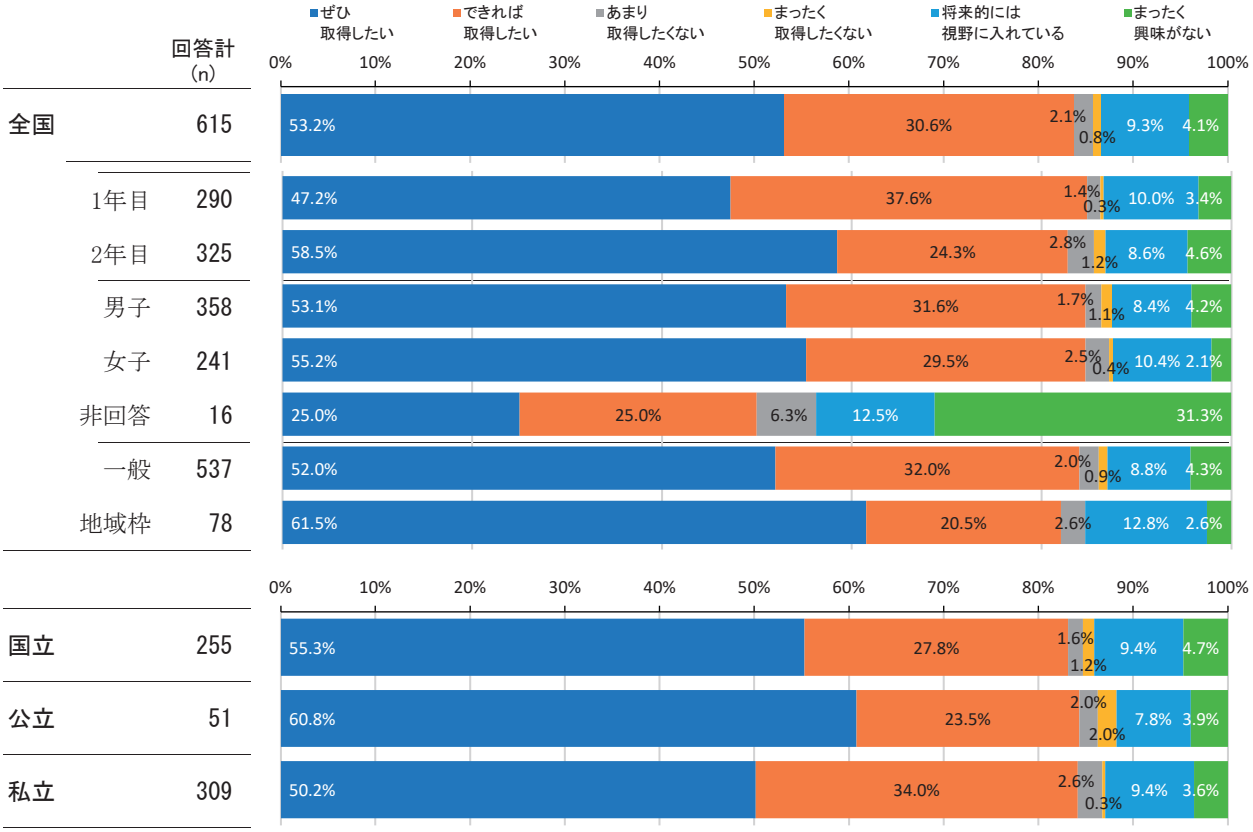
設問22. 将来のキャリアについて、現時点でどのように考えていますか。（複数回答可）



【医師キャリア 】

設問23. 将来、博士(医学)の学位取得を目指していますか。



【医師キャリア 】

設問24. 将来、新専門医制度による専門医資格の取得を目指していますか。